志木市の文化財　第88集

中野遺跡 第117地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

埼玉県志木市教育委員会

1．調査区遠景

2．調査区全景

はじめに

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『中野遺跡第117地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和３年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15か所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

また、中野遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

今回報告する中野遺跡第117地点では、古墳時代後期、中・近世にかけての遺構・遺物が多数発見されました。

今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　言

1．本書は、令和3年度に発掘作業を実施した、埼玉県志木市に所在する中野遺跡第117地点の発掘調査報告書である。

2．本調査は、分譲住宅建設に伴う道路新設工事及び浸透トレンチ工事部分の記録保存のための発掘調査として、文化財保護法第99条に基づき、志木市教育委員会が調査主体者として実施したものである。

3．本調査の実施にあたり、工事主体者・志木市教育委員会・株式会社中野技術（代表取締役　菅原広志）の三者による協定を締結した上で、株式会社中野技術が発掘調査支援業務を行った。

4．発掘作業は令和3年7月27日から令和3年10月8日まで行い、整理作業・報告書刊行作業を令和4年10月31日まで行った。

5．本書は徳留彰紀・大久保聡・尾形則敏・木村結香が監修し、編集は小林陽子・根本靖・清水理史が行った。執筆は第1章、第2章第1節を尾形、第4章第2節を清水、その他を小林が担当した。

6．96H・97H・98Hより出土した炭化物については株式会社パレオ・ラボ（代表取締役　中村賢太郎）に委託し、自然科学分析（放射性炭年代測定・炭化材の樹種同定・大型植物遺体同定）を行った。

7．縄文時代の遺物については黒坂禎二（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）氏にご教示を頂いた。記して感謝申し上げる。

8．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

9．調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	北村竜一（～令和3年度）
〃	今野美香（令和4年度～）
生涯学習課長	土崎健太
生涯学習課副課長	吉成和重
生涯学習課主幹	浅見千穂
生涯学習課主査	尾形則敏（～令和3年度）
〃	徳留彰紀
〃	大久保　聡（令和4年度～）
生涯学習課主任	尾形則敏（令和4年度～）
〃	大久保　聡（～令和3年度）
〃	石川千尋
生涯学習課主事	塚原会理（令和4年度～）
生涯学習課主事補	木村結香（令和3年8月～）
〃	遠藤彪雅（～令和3年度）

志木市文化財保護審議会　井上國夫（会長）
〃　深瀬　克（委員）
〃　上野守嘉（委員）
〃　新田泰男（委員）
〃　金子博一（委員）
調査担当者　尾形則敏・徳留彰紀・大久保　聡

【株式会社中野技術】

○発掘調査

調査員　新井　潔
現場代理人　下岡孝明
測量員　下岡孝明
調査補助員　石橋佳奈・鈴木彩乃
作業員　青木利恵・臼井　孝・大原美紀・甲斐栄美子・川口砂織・北根麻由・久保田創大・坂本秀也・松尾貴弘・森澤重雄

○整理作業

調査員　小林陽子・根本　靖・清水理史・新井　潔
調査補助員　佐貫　健
作業員　青木利恵・明石千とせ・石川まゆみ・井上麻美子・臼井　孝・内田恭子・大原美紀・甲斐栄美子・加藤洋子・北根麻由・坂井美樹子・榊原みゆき・徳光直子・山本圭子

10. 発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。
埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

11. 令和３年８月11日～13日にかけて国士舘大学文学部史学地理学科国史学専攻、夏季考古学実習として、先生引率の下、ＴＡ２名、学生47名が学外遺跡見学実習を行った。

12. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。
○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）
令和３年７月14日付け　教文資第４－778号
○埋蔵物の文化財認定について（通知）
令和４年３月29日付け　教文資第７－142号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。
　第１図　　１：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製
　第２図　　１：5,000　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成27年４月発行
　　株式会社ゼンリン
2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。
3．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
4．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。
5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。
6．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
7．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。
8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。
　高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚
9．遺構の略記号は、以下のとおりである。
　Ｈ＝古墳時代後期の住居跡　　Ｔ＝掘立柱建築遺構　　Ｄ＝土坑　　Ｐ＝ピット

目　　次

巻頭図版／はじめに
例　　言／凡　　例／目　　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境 …… 1
　第１節　市域の地形と遺跡 …… 1
　第２節　遺跡の概要 …… 8
第２章　発掘調査の概要 …… 10
　第１節　調査に至る経緯 …… 10
　第２節　調査の経過 …… 11
　第３節　基本層序 …… 14
第３章　検出された遺構・遺物 …… 16
　第１節　縄文時代の遺構 …… 16
　第２節　古墳時代後期の遺構・遺物 …… 16
　第３節　中世以降の遺構・遺物 …… 58
　第４節　遺構外出土遺物 …… 62
第４章　調査のまとめ …… 69
　第１節　中野遺跡第117地点の成果 …… 69
　第２節　中野遺跡における古墳時代の遺構分布 …… 76

［付編］　自然科学分析
　Ⅰ．放射性炭素年代測定 …… 87
　Ⅱ．中野遺跡第117地点出土炭化材の樹種同定 …… 90
　Ⅲ．中野遺跡第117地点から出土した大型植物遺体 …… 92

図　　版
報告書抄録

挿図目次

第1図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）… 2
第2図　中野遺跡の調査地点（1／3,000）… 9
第3図　確認調査時の遺構分布図（1／300）… 10
第4図　遺構分布図（1／250）…… 13
第5図　試掘坑配置図（1／300）…… 14
第6図　基本層序（1／60）…… 15
第7図　土坑（1／60）…… 16
第8図　95号住居跡（1／60）…… 17
第9図　95号住居跡出土遺物（1／4・1／3）… 17
第10図　96号住居跡1（1／60）…… 18
第11図　96号住居跡2（1／60）…… 19
第12図　96号住居跡3（1／60・1／30）… 20
第13図　96号住居跡4（1／30・1／80）… 21
第14図　96号住居跡5（1／60）…… 22
第15図　96号住居跡遺物出土状態（1／80・1／30）…… 23
第16図　96号住居跡出土遺物1（1／4・1／3）… 24
第17図　96号住居跡出土遺物2（1／4・1／3・2／3）…… 25
第18図　97号住居跡1（1／60）…… 29
第19図　97号住居跡2（1／60）…… 30
第20図　97号住居跡3（1／60・1／120）… 31
第21図　97号住居跡4（1／30・1／60）…… 32
第22図　97号住居跡遺物出土状態（1／60・1／30）…… 33
第23図　97号住居跡出土遺物1（1／4）…… 34
第24図　97号住居跡出土遺物2（1／4）…… 35
第25図　97号住居跡出土遺物3（1／4・1／3・2／3）…… 36
第26図　98号住居跡1（1／60）…… 39
第27図　98号住居跡2（1／60・1／30）… 40
第28図　98号住居跡遺物出土状態1（1／60）… 41
第29図　98号住居跡遺物出土状態2（1／30）… 42
第30図　98号住居跡出土遺物1（1／4）… 43
第31図　98号住居跡出土遺物2（1／4）… 44
第32図　98号住居跡出土遺物3（1／3）… 45
第33図　99号住居跡1（1／60）…… 48
第34図　99号住居跡2（1／60・1／30）… 49
第35図　99号住居跡遺物出土状態1（1／60）… 50
第36図　99号住居跡遺物出土状態2（1／30）… 51
第37図　99号住居跡出土遺物1（1／4・1／3）… 51
第38図　99号住居跡出土遺物2（1／4）…… 52
第39図　99号住居跡出土遺物3（1／4）…… 53
第40図　100号住居跡（1／60・1／30）… 55
第41図　100号住居跡出土遺物（1／4・1／3）… 56
第42図　101号住居跡（1／60）…… 57
第43図　古墳時代後期ピット・7号ピット出土遺物（1／60・1／30・1／4）…… 57
第44図　3号掘立柱建築遺構（1／60）…… 59
第45図　3号掘立柱建築遺構模式図（1／80）… 60
第46図　中世以降の土坑（1／60）…… 61
第47図　中世以降のピット（1／60）…… 61
第48図　遺構外出土遺物1（2／3・1／3・1／4）…… 63
第49図　遺構外出土遺物2（1／3）…… 64
第50図　遺構外出土遺物3（1／3・1／4・4／5）…… 65
第51図　坏・高坏形土器の変遷（1／8）… 72
第52図　甑・甕・壺形土器の変遷（1／14）… 73
第53図　中野遺跡の大型住居跡（1／200）… 77
第54図　中野遺跡住居分布図―古墳後期～奈良・平安―（1／2,500）…… 78
第55図　中野遺跡古墳後期住居変遷図（1／2,500）…… 80
第56図　暦年較正結果…… 89

表目次

第1表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧…… 1
第2表　発掘調査工程表…… 12
第3表　95号住居跡出土土器一覧…… 17
第4表　96号住居跡出土土器・土製品・鉄製品一覧(1)… 26
　　96号住居跡出土土器・土製品・鉄製品一覧(2)… 27
第5表　97号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧(1)… 37
　　97号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧(2)… 38
第6表　98号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧(1)… 45
　　98号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧(2)… 46
　　98号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧(3)… 47
第7表　99号住居跡出土土器一覧（1）…… 53
　　99号住居跡出土土器一覧（2）…… 54
第8表　100号住居跡出土土器・鉄製品一覧… 56
第9表　古墳時代後期ピット一覧…… 57
第10表　7号ピット出土土器一覧…… 58
第11表　3号掘立柱建築遺構柱穴一覧…… 60
第12表　中世以降の土坑一覧…… 61
第13表　中世以降のピット一覧…… 62
第14表　遺構外出土縄文時代石器一覧…… 66
第15表　遺構外出土縄文土器一覧（1）…… 66
　　遺構外出土縄文土器一覧（2）…… 67
第16表　遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期土器一覧
　　…… 67
第17表　遺構外出土奈良・平安時代の土器一覧(1)… 67
　　遺構外出土奈良・平安時代の土器一覧(2)… 68
第18表　遺構外出土中世以降の陶器一覧…… 68
第19表　遺構外出土中世以降の土製品一覧… 68
第20表　遺構外出土銭貨一覧…… 68
第21表　遺構外出土金属製品一覧…… 68
第22表　中野遺跡各地点住居一覧（1）…… 81
　　中野遺跡各地点住居一覧（2）…… 82
　　中野遺跡各地点住居一覧（3）…… 83
第23表　測定試料および処理…… 87
第24表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果… 88
第25表　遺構別の樹種同定結果…… 90
第26表　樹種同定結果一覧…… 91
第27表　中野遺跡第117地点から出土した炭化種実… 92

図版目次

図版1
1．調査前現況（北から）
2．表土剥ぎ（北から）
3．表土剥ぎ（東から）
4．プラン確認
5．旧石器試掘坑ＴＰ１（東から）
6．旧石器試掘坑ＴＰ２（東から）
7．旧石器試掘坑ＴＰ３（西から）
8．旧石器試掘坑ＴＰ４（東から）

図版2
1．645号土坑完掘（北から）
2．95号住居跡完掘（東から）
3．96号住居跡遺物出土状態（北東から）
4．96号住居跡遺物出土状態（北から）
5．96号住居跡遺物出土状態（南から）
6．96号住居跡カマド完掘（南東から）
7．96号住居跡Ｐ2完掘（南から）
8．96号住居跡焼土（北から）

図版3

1．96号住居跡完掘
2．96号住居跡掘り方完掘（南から）
3．96号住居跡作業風景
4．97号住居跡作業風景
5．97号住居跡遺物出土状態（南から）
6．97号住居跡土層断面（北東から）
7．97号住居跡壁溝遺物出土状態（北から）
8．97号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

図版4

1．97号住居跡カマド遺物出土状態（南から）
2．97号住居跡カマド完掘（南西から）
3．97号住居跡貯蔵穴A～C全景（北西から）
4．97号住居跡P5完掘（南から）
5．97号住居跡完掘（北から）

図版5

1．98号住居跡遺物出土状態（南から）
2．98号住居跡貯蔵穴A周辺遺物出土状態（南から）
3．98号住居跡貯蔵穴A完掘（南から）
4．98号住居跡貯蔵穴B完掘（西から）
5．98号住居跡カマド遺物出土状態（南から）
6．98号住居跡カマド支脚出土状態（南から）
7．98号住居跡P5完掘（西から）
8．98号住居跡掘り方完掘（南から）

図版6

1．99号住居跡遺物出土状態（南から）
2．99号住居跡カマド西遺物出土状態（西から）
3．99号住居跡貯蔵穴周辺遺物出土状態（南から）
4．99号住居跡貯蔵穴南遺物出土状態（西から）
5．99号住居跡P1上面坏出土状態（北西から）
6．99号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）
7．99号住居跡カマド西遺物出土状態（南から）
8．99号住居跡カマド完掘（南から）

図版7

1．99号住居跡完掘
2．100号住居跡完掘（北から）
3．100号住居跡カマド完掘（南から）
4．101号住居跡完掘（南西から）
5．1号ピット完掘（東から）

図版8

1．6号ピット完掘（南から）
2．2号ピット完掘（南から）
3．7号ピット完掘（南から）
4．7号ピット遺物出土状態（南から）
5．3号掘立柱建築遺構完掘（南から）

図版9

1．646号土坑完掘（北から）
2．647号土坑完掘（北東から）
3．648号土坑完掘（南西から）
4．649号土坑完掘（西から）
5．650号土坑完掘（西から）
6．651号土坑完掘（南から）
7．3号ピット完掘（西から）
8．4号ピット完掘（北から）

図版10

1．5号ピット完掘（東から）
2．学生見学風景
3．調査区遠景
4．埋め戻し風景
5．埋め戻し後全景

図版11

1．95号住居跡出土遺物
2．96号住居跡出土遺物1

図版12

1．96号住居跡出土遺物2
2．97号住居跡出土遺物1

図版13
97号住居跡出土遺物2

図版14
97号住居跡出土遺物3

図版15
1．97号住居跡出土遺物4
2．98号住居跡出土遺物1

図版16
98号住居跡出土遺物2

図版17
98号住居跡出土遺物3

図版18
1．98号住居跡出土遺物4
2．99号住居跡出土遺物1

図版19
99号住居跡出土遺物2

図版20
1．100号住居跡出土遺物
2．7号ピット跡出土遺物
3．遺構外出土遺物1

図版21
遺構外出土遺物2

図版22
遺構外出土遺物3

図版23
炭化材の走査型電子顕微鏡写真
1a－1c．コナラ属クヌギ節（No.20）
2a－2c．コナラ属コナラ節（No.2）
3a．樹皮（No.19）
4a．イネ科（No.5）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

図版24
中野遺跡第117地点から出土した炭化種実
1．モモ炭化核（完形）(98H（4H）、d区一括）
2．モモ炭化核（完形）(97H（3H）、No.361）
3．モモ炭化核（破片）(96H（2H）、炭2No.398）

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71㎞、東西4.73㎞の広がりをもち、面積は9.05㎢、人口約７万６千人の自然と文化の調和する都市である。

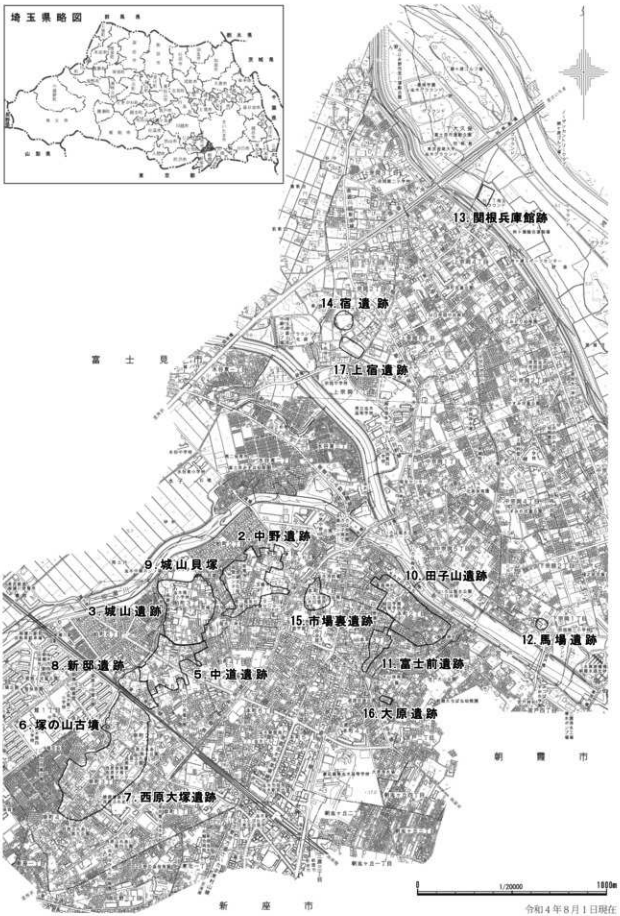
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺

№　遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2　中野	71,220㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3　城山	82,100㎡	畑・宅地	貝塚・城館跡・集落跡・墓跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（中・後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5　中道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6　塚の山古墳	800㎡	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7　西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8　新邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9　城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10　田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11　富士前	14,830㎡	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑？、溝跡？	弥生土器、土師器
12　馬場	2,800㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13　関根兵庫館跡	4,900㎡	グランド	館跡	中世	不明	なし
14　宿	7,700㎡	水田	館跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15　市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16　大原	1,700㎡	宅地	集落跡	近世以降？	溝跡	なし
17　上宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡・墓跡	平安、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合計	522,840㎡					

令和４年８月１日 現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



令和４年８月１日現在

第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）

跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた15遺跡である（第１図・第１表）。

（２）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２か所、平成７（1995）年度には１か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成28（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91⑰地点からは、礫群１基が検出された。令和元～２（2019～2020）年にかけて発掘調査された中野遺跡第109地点では、立川ローム層第Ⅳ層下部～第Ⅴ層を中心とする石器集中地点が検出されており、石核調整剥片の良好な接合資料が出土している。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２か所で石器集中地点が検出されている。平成20・21（2008～2009）年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも１か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点２か所、礫群９基が検出された。令和元（2019）年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅵ層・第Ⅶ層で石器集中地点や礫群が検出されている。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成４（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器３点、第22地点から爪形文系土器１点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡としては、令和４（2022）年に田子山遺跡第172地点で市内初となる撚糸文期の住居跡が１軒検出された。また、平成18（2006）年に発掘調査が実施

された中道遺跡第65地点では、早期末葉（条痕文系）の10号住居跡が検出されている。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点、令和３～４（2021～2022）年に実施された中野遺跡第116①地点では、前期後葉の諸磯ａ式期の住居跡が検出されている。そのうち、城山遺跡第96地点では貝層を持つ住居跡が３軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成28（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曽利ＥⅣ式の両耳壺を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡２軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１か所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。その他、平成26（2014）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。最新資料として、平成30（2018）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第216地点で、堀之内１式期の住居跡が１軒検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行Ⅲｃ式・千網式の土器片が少量発見されている。また、令和３（2021）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第234地点で、遺構外出土ではあるが、縄文時代晩期～弥生時代初頭に位置づけられる土器片が１点発見されている。以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。なお、これらの資料のうち、土器、石器、土製品計44点は、城山遺跡10号住居跡出土遺物として、考古資料として、市指定文化財（令和３年７月１日付け）に指定されている。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原

式土器を出土する住居跡が発見されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が650軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅鈸が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位のなまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壺土器が出土している。なお、鳥形土製品１と壺形土器４点の計５点は、考古資料として、市指定文化財（平成25年３月１日付け）に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後葉から７世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後葉以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材のほかベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後葉から７世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒、次いで中野遺跡で58軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で17軒、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、６世紀後葉以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で２か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山・富士前遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶が２枚とその近くからは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

最新では、令和元（2019）年と令和３（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、平安時代の住居跡・土壙・溝跡などが検出され、宗岡地区における自然堤防上に立地する遺跡の存在が明らかになりつつある。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、市指定文化財（平成25年３月１日付け）に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記』（註１）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註２）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土し

ており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鐚（よろい）の札（ざね）である鉄製品1点と鉄鏃1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院（しょうりんざんかんのんじだいじゅいん）」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

最新資料としては、令和2・3年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第234地点の地下式坑（912号土坑）から、人骨（女性2体）と完形品の擂鉢が共伴する良好な資料が発見された。人骨は「通常とは異なる状況」で埋葬されたと考えられ（田中　2022）、擂鉢は古瀬戸後期Ⅳ古～新段階（藤澤　2008）に比定されることから、時期は中世（15世紀中葉～後葉）のものと考えられる。

また、令和元（2019）年と令和3（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、中・近世の土壙・井戸跡・溝跡などの多くの遺構が検出され、中世における『宗岡宿』の様相や近世における千光寺に関連する墓域群などを知ることができる貴重な成果につながった。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第２節　遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する中野遺跡について概観することにする。

中野遺跡は、志木市柏町１丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2㎞に位置している。遺跡は、柳瀬川流域右岸の台地上に立地しており、標高は北端で約９m、南端で約11mを測り、台地縁辺では際立った断崖もみられないまま、ゆるやかに北側の低地に移行する。遺跡の現況は、宅地化が急速に進行している地域で、畑地は減少している。

本遺跡は、これまでに123地点の調査（令和４年８月１日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代早期～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

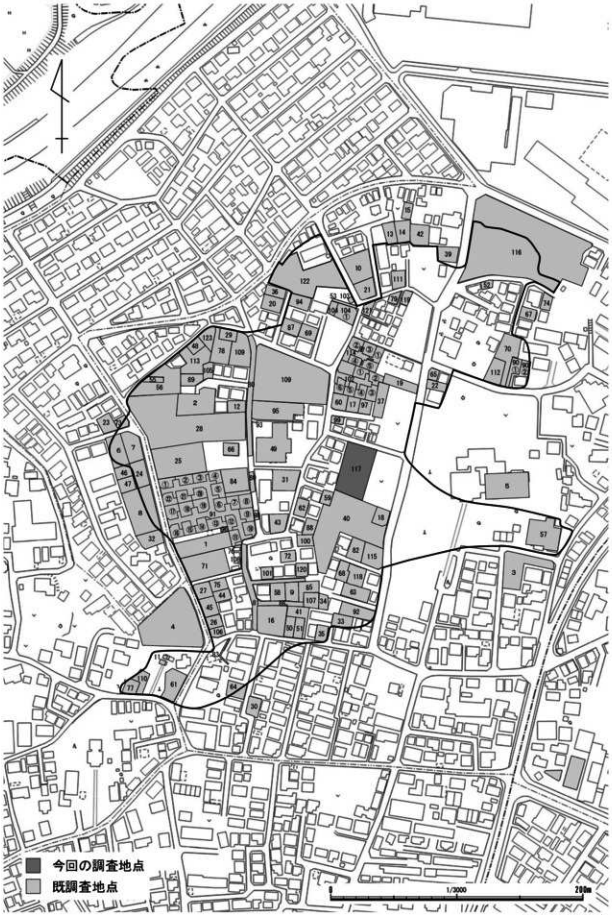
[註]

註１　『舘村旧記』は、舘村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註２　『廻国雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）６月から10か月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

[引用文献]

神山健吉　1988「廻国雑記」に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号
2002「道興をめぐる二つの誤説を糾す」『郷土志木』第31号
田中　信　2022「第３章　調査のまとめ　第３節　中世以降について」『西原大塚遺跡第234地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集　埼玉県志木市教育委員会
藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院



第２図　中野遺跡の調査地点（１／3,000）

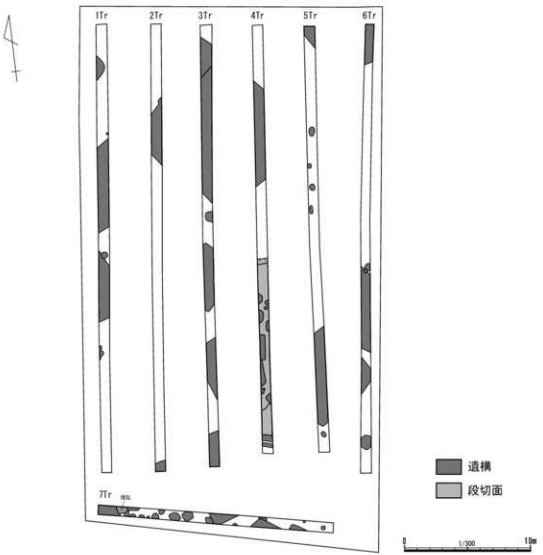
第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

令和３年１月、仲介業者である株式会社リゾンから志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町１丁目1506－５の一部（面積998.59㎡）地において、分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228－09－002）に一部該当及び隣接地であるため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。



第３図　確認調査時の遺構分布図（１／300）

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

令和３年２月４日、教育委員会は、タクトホーム株式会社（代表取締役　小寺一裕）より確認調査依頼書を受理し、中野遺跡第117地点として、３月１日～３日に確認調査を実施した。確認調査は、第３図に示すように調査区にトレンチ７本（１～７Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡１軒・土坑２基、古墳時代後期から平安時代の住居跡13軒・土坑３基、中世以降の土坑17基など多くの遺構を確認した。教育委員会は、この結果をただちに株式会社リゾンを通じ、タクトホーム株式会社に報告し、保存措置について検討を依頼した。

その後、株式会社リゾンから連絡があったため、保存措置についての事前打合せを実施した。その結果、全体面積（998.59㎡）のうち、宅地部分については盛土保存（面積765.01㎡）、道路新設工事及び浸透トレンチ部分は発掘調査（面積233.58㎡）を実施することとした。

令和３年５月15日、教育委員会は土木工事主体者である個人より埋蔵文化財発掘調査依頼書が提出されたため、発掘調査の実施に向けた事前協議を実施した。

７月14日、土木工事主体者・教育委員会・民間調査組織の三者による事前協議を実施し、７月19日、中野遺跡第117地点埋蔵文化財保存事業に係る協定を、土木工事主体者である個人・教育委員会・株式会社中野技術（代表取締役　菅原広志）の三者により締結した。

教育委員会は、７月14日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に７月27日から発掘調査を実施した。

なお、発掘調査に関しては、天候不順に伴い発掘作業に遅延が生じたため、発掘作業の期間延長に関して、９月22日付けで土木工事主体者である個人・教育委員会・株式会社中野技術の三者で変更協定を締結した。変更事項は以下のとおりである。

変更事項　発掘作業期間

【変更前】　令和３年７月26日から令和３年９月30日まで。

【変更後】　令和３年７月27日から令和３年10月９日まで。

第２節　調査の経過

発掘調査は、令和３年７月27日から10月８日まで実施した。調査区は開発対象地の道路新設部分を中心として設定され、調査によって生じた残土は開発範囲内に仮置きした。住居跡の調査は、基本的には十字にベルトを設定し掘り下げた。土層図作成・写真撮影ののち、ベルトを外し、遺物出土状況を記録し完掘した。その後、平面図作成・写真撮影を行いカマドの調査を行った。カマド・貯蔵穴・ピットは状況に応じ、土層の記録を取っている。住居はカマドの調査を終えたのち、貼床を剥がし掘り方の調査を行った。土坑、ピットについては基本的には半截し、記録を取ったのち完掘した。

発掘調査の各遺構の経過については第２表の発掘調査工程表にまとめた。全体的な発掘調査の経過については下記のとおりである。

７月27日　鉄板を敷き、用地整備を行う。重機の搬入、ユニットハウス・トイレを設置。

28日　オレンジネットにより周辺の環境整備を行う。重機による表土除去作業開始。

30日　表土除去作業終了。排土山をシートにより養生する。遺構確認作業開始。

８月２日　遺構確認作業により住居跡６軒が確認される。住居跡には１～６H（後の95～100H）の仮住居番号を付し、調査を進めることとする。

３日　ドローン撮影写真により模式図作成。遺構の調査開始。

11日～13日　国士舘大学学生の現場見学受け入れ。

12日　2H（96H）は土層の観察により上層が黒色土、下層の褐色土に焼土が含まれることから焼失家屋の可能性が考えられる。

16日　3H（97H）は掘り下げにより当初想定したプランより南側へと広がることが判明する。

９月１日　3H（97H）の北西部で遺物が集中して出土した。

13日　3H（97H）カマドの調査において、ピット（P7）によって切られていることが判明。内部から土師器甕が出土する。

同日　3H（97H）貯蔵穴を掘り下げたところ、重複していることが判明。貯蔵穴のプラン上に多く遺物が出土していることから、遺物取り上げ後にさらに掘り進めることとした。

16日　ドローンによる全体写真撮影。

同日　5H（99H）の掘り下げにより、5H（99H）と調査対象範囲との間にわずかに住居のプランが確認され7H（101H）とする。

17日　6H（100H）を掘り進めたところ、ほとんど煙道をもたないカマドが存在することが判明。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残しているものであった。

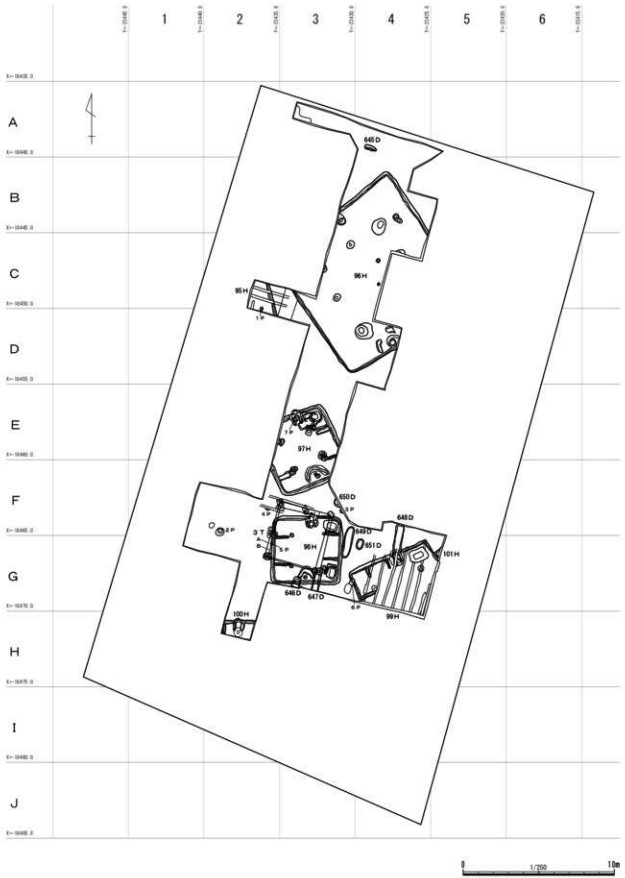
25日　基本土層の把握及び旧石器時代の遺構・遺物を確認するため、２×２mを基本としたトレンチを４か所設定し、掘り下げを開始する。

10月５日　全ての調査を終了する。撤収作業。

６日～８日　重機を搬入し、埋め戻し作業を行う。埋め戻し完了後、事業主へ引き渡す。

	7月						8月						9月						10月					
	5日	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日
表土剥ぎ	7.28					7.30																		
95H						8.3						8.5												
96H						8.3																		9.29
97H							8.5																	10.2
98H								8.12																9.30
99H											8.30													9.30
100H														9.9				9.25						
101H																		9.19	9.25					
645D							8.4																	
646D											8.23													
647D											8.23													
648D																		9.14						
649D											8.26													
650D											8.26													
651D											8.30													
3T																			9.30		10.5			
基本土層																			9.25		10.5			
埋め戻し																					10.6	10.8		

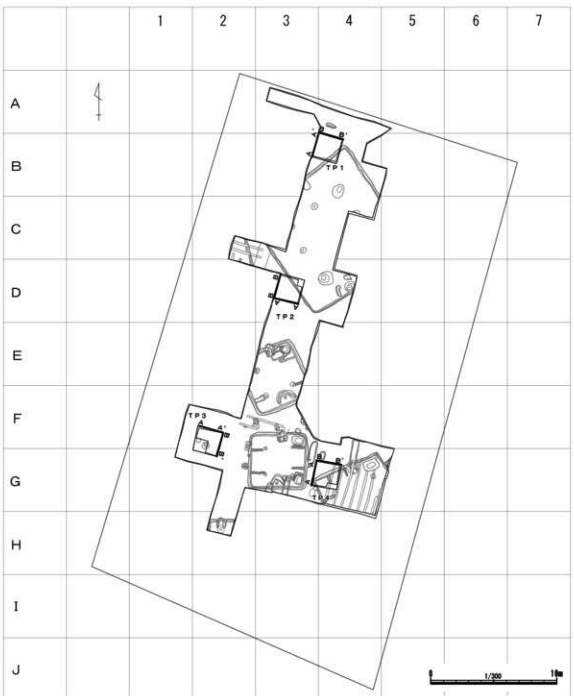
第２表　発掘調査工程表



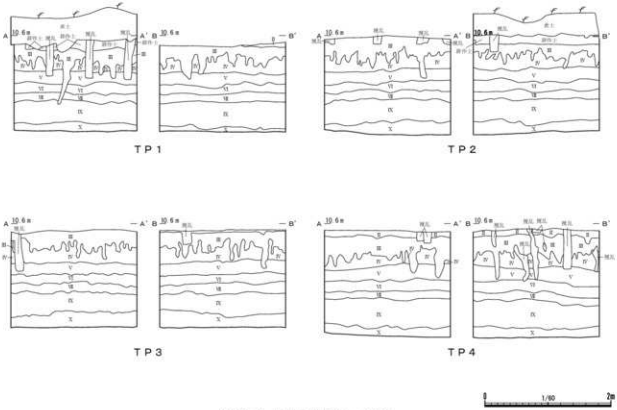
第４図　遺構分布図（１／250）

第３節　基本層序

基本層序の確認と旧石器時代の調査のため、２×２ｍを基本とした試掘坑を４か所（ＴＰ１～４）に設定した（第５図）。それぞれ立川ローム層第Ｘ層が確認されるまで掘り下げ、表土層から約1.70m、遺構確認面から約1.25～1.30mの深さにおいて第Ｘ層が確認された。Ⅱ層からＸ層が立川ロームⅡ～Ｘ層に相当する。なお、第Ⅷ層は確認されなかった。表土は現在までの耕作土による黒色土層で、ＴＰ１、



第５図　試掘坑配置図（１／300）



第６図　基本層序（１／60）

ＴＰ２においては表土直下に旧耕作土層と考えられる軟質の暗褐色土が確認される。Ⅱ層はＴＰ１の北面、ＴＰ４を除き、遺構確認面とほぼ同じ高さであるため削平を受け確認されなかった。

Ⅱ層～Ⅹ層の基本層序は以下の通りである。

Ⅱ層　黄褐色土のローム漸移層。黒色土粒を多量含む。
Ⅲ層　黄褐色土のソフトローム　ロームブロック（φ30㎜大）を含む。
Ⅳ層　淡黄橙色のハードローム　黒色スコリアを多く含む。
Ⅴ層　淡暗褐色のハードローム　赤色スコリア・黒色スコリアを多く含む。第一黒色帯。
Ⅵ層　黄暗褐色のハードローム　赤色スコリア・白色粒子を少し含む。ＡＴ包含層準。
Ⅶ層　暗褐色のハードローム　　赤色スコリア・黒色スコリアを少し含む。第二黒色帯上部。
Ⅸ層　明黒褐色のハードローム　赤色スコリア・白色粒子を少し含む。第二黒色帯下部。
Ⅹ層　黄橙色のハードローム　　赤色スコリア・黒色スコリア・白色粒子を微量含む。

第３章　検出された遺構・遺物

第１節　縄文時代の遺構

（１）概要

縄文時代の土坑１基（645D）が検出された。他に土坑、ピットは確認されなかったが、遺構外出土遺物に一定量の縄文土器が認められることから、周辺に遺構が存在している可能性、後世の遺構により削平されてしまった可能性も考慮される。

（２）土坑

645号土坑

遺　構　（第７図）

［位　置］　（Ａ－４）グリッド

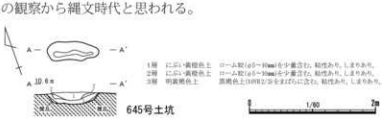
［検出状況］　調査区北部において検出された。一部攪乱の影響を受ける。

［構　造］　**平面形**：楕円形。**壁**：約45°で立ち上がる。断面形は皿状を呈す。**規模**：長軸0.84m／短軸0.30m／深さ24cm。**主軸方位**：Ｎ－72°－Ｗ。

［覆　土］　３層に分層される。

［遺　物］　なし。

［時　期］　覆土の観察から縄文時代と思われる。



第７図　土坑（１／60）

第２節　古墳時代後期の遺構・遺物

（１）概要

古墳時代後期の住居跡７軒（95H～101H）、ピット４本（１・２・６・７P）が検出された。一部に耕作による影響を受けているが、遺存状況は比較的良好である。大型の住居跡が１軒（96H）、建替えが行われた住居跡が１軒（97H）である。また、99Hと101Hが調査区境で重複して確認された。

（２）住居跡

95号住居跡

遺　構　（第８図）

［位　　置］（Ｃ・Ｄ－２）グリッド

［検出状況］ 調査区北西部において検出された。東壁のみ確認され、調査区外へと広がる。１Ｐに切られ、壁面、床面の一部は耕作による撹乱を受ける。１Ｐは遺構確認面上で確認されたピットだが、95Ｈの覆土中で完結し、床面まで達していない。

［構　　造］ **平面形**：不明だが方形と推察される。**規模**：南北軸現況2.17m／東西軸現況1.80m／確認面からの深さ29cm。**壁**：80°で立ち上がる。**主軸方位**：不明。**壁溝**：東壁に確認される。上幅25cm／下幅15cm／床面からの深さ16cm。**床面**：貼床は認められなかった。**カマド**：調査区内では確認されなかった。**貯蔵穴**：調査区内では確認されなかった。**柱穴**：調査区内では確認されなかった。**入口施設**：調査区内では確認されなかった。

［覆　　土］ ９層に分層される。覆土は比較的しまりがある。

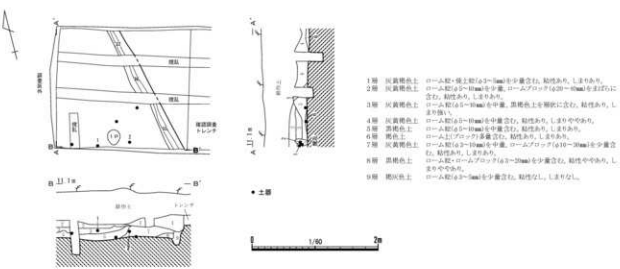
［遺　　物］ 土師器坏・甕形土器の９点が出土した。遺物は住居跡南側に、まとまって出土している。

［時　　期］ 古墳時代後期（６世紀中葉）。

［遺　　物］（第９図、図版11－１、第３表）

［土　　器］（第９図１・２、図版11－１－１・２、第３表）

１は土師器坏形土器で、２は土師器甕形土器である。いずれも、口縁部～頸部のみの破片である。



第８図　95号住居跡（１／60）

第９図　95号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第９図１ 図版11－１－１	土師器 坏	口縁部 20％	口〔16.2〕 高〔3.0〕	有段坏／口縁部は直線的に外傾し、底部との境に明瞭な段を有する／内外面黒彩	内外面：横ナデ	赤褐色／砂粒・白色粒子	東側の覆土
第９図２ 図版11－１－２	土師器 甕	口縁部～頸部 破片	高〔3.5〕	口縁部はやや肥厚し、外反する	内面：ハケによる横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、頸部に縦位ヘラナデ	浅黄橙色／石英・チャート・黒色粒子	西側の覆土

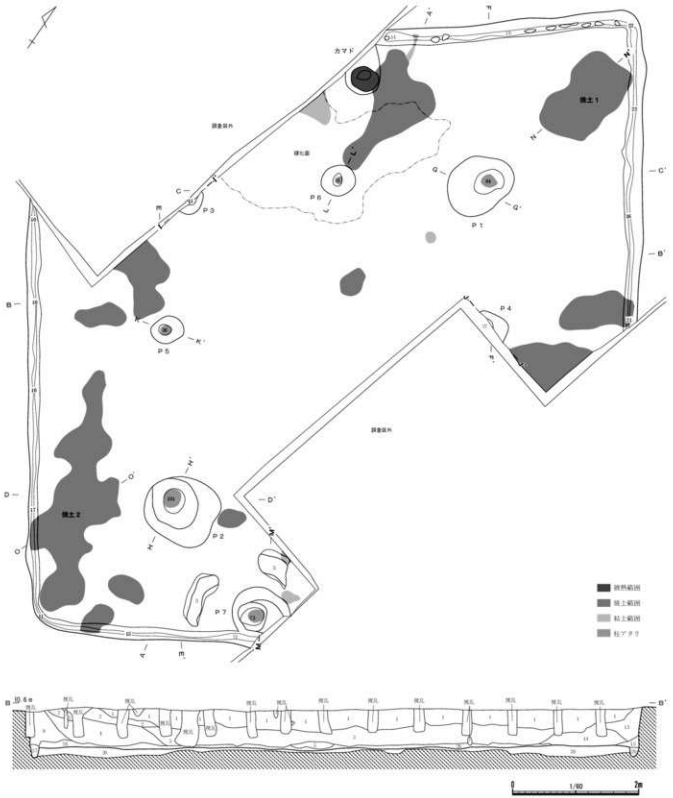
第３表　95号住居跡出土土器一覧

96号住居跡

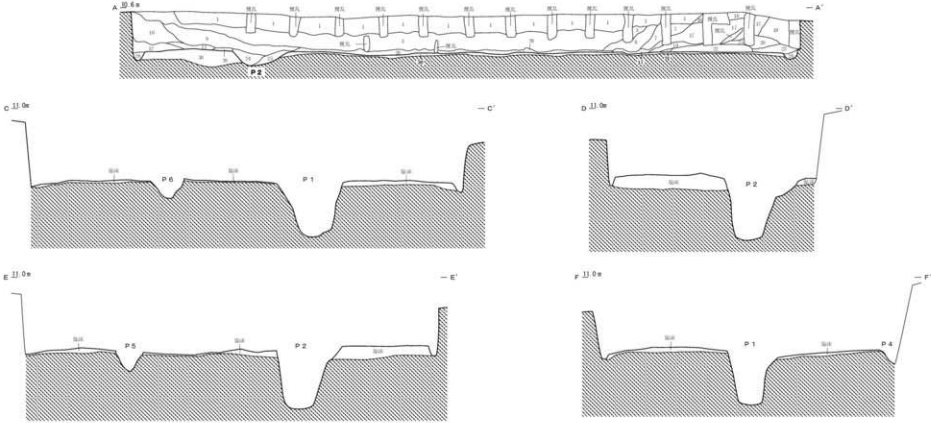
遺　　構　（第10～15図）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ・Ｄ－３・４）グリッド

［検出状況］　調査区北寄りで検出された。北西隅、南東隅は調査区外へと広がる。



第10図　96号住居跡１（１／60）



1層　黒褐色土　　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
4層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
5層　灰黄褐色土　焼土粒(φ1～10mm)を少量、ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりあり。
6層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
7層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
8層　明赤褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
9層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。
10層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)・焼土・炭化物粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。
11層　明黄褐色土　ローム土多量、ロームブロック(φ30～50mm)をまばらに含む。粘性あり、しまりややあり。
12層　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)をまばらに含む。粘性ややあり、しまりややあり。
13層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を多く含む。粘性あり、しまりややあり。
14層　にぶい黄橙色土　ローム土多量、焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
15層　にぶい黄橙色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
16層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
17層　にぶい黄橙色土　ローム土を多量、ロームブロック(φ20～30mm)を中量含む。粘性あり、しまりややあり。
18層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量、焼土・炭化物粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。
19層　灰黄褐色土　ローム粒・白色粘土粒(φ1～10mm)を中量、焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
20層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
21層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。
22層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を多く含む。粘性あり、しまりややあり。
23層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。
24層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。P2。
25層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。P2。
26層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
27層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
28層　黒褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
29層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性あり、しまりややあり。
30層　にぶい黄色土　ハードローム粒(φ3mm大)・ロームブロック(φ30～50mm)を多く含む。粘性ややあり、しまりあり。貼床。

第11図　96号住居跡2（1／60）

P 1

1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～50mm)・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)・焼土粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

3層　灰黄褐色土　ロームブロック(φ20～50mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

4層　灰黄褐色土　ローム上を多量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

5層　にぶい黄褐色土　ローム上を多量含む。ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

6層　灰黄褐色土　ローム上を多量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりなし。

7層　にぶい黄褐色土　ローム上を多量、ロームブロック(φ20～30mm)を中量含む。粘性あり、しまりなし。

8層　にぶい黄色土　ハードローム粒(φ2mm大)・ロームブロック(φ30～50mm)を多く含む。粘性やや有り、しまりあり。臨床。

P 2

1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を多量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

3層　黒灰色　ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

4層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

5層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

6層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～50mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

7層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

8層　にぶい黄色土　ハードローム粒(φ2mm大)・ロームブロック(φ30～50mm)を多く含む。粘性やや有り、しまりあり。臨床。

P 3

1層　黒灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

2層　黒灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

4層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

5層　にぶい黄橙色土　白色粘土を多量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

6層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

7層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

8層　にぶい黄色土　ハードローム粒(φ2mm大)・ロームブロック(φ30～50mm)を多く含む。粘性やや有り、しまりあり。臨床。

P 4

1層　黒灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

2層　黒灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

3層　黒灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

4層　黒灰色土　ローム粒・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

5層　黒灰色土　焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

6層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ10～30mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

7層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

8層　にぶい黄色土　ハードローム粒(φ2mm大)・ロームブロック(φ30～50mm)を多く含む。粘性やや有り、しまりあり。臨床。

P 5

1層　黒灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

2層　にぶい黄褐色土　ローム上を多量、ロームブロック(φ20～30mm)を中量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

3層　にぶい黄色土　ハードローム粒(φ2mm大)・ロームブロック(φ30～50mm)を多く含む。粘性やや有り、しまりあり。臨床。

P 6

1層　にぶい黄褐色土　ロームブロック(φ20～50mm)を中量、ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

2層　にぶい黄褐色土　ロームブロック(φ20～50mm)を中量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

3層　にぶい黄色土　ハードローム粒(φ2mm大)・ロームブロック(φ30～50mm)を多く含む。粘性やや有り、しまりあり。臨床。

P 7

1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや有り。

2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや有り。

3層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや有り。

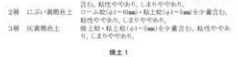
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや有り。

5層　にぶい黄褐色土　ロームブロック(φ30～50mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや有り。

6層　黄褐色土　ハードローム粒主体。粘性あり、しまり強い。

7層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや有り。焼土。

8層　にぶい黄色土　ハードローム粒(φ2mm大)・ロームブロック(φ30～50mm)を多く含む。粘性やや有り、しまりあり。臨床。

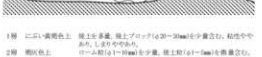


1層　にぶい黄橙色土　焼土を多量、ローム粒(φ1～10mm)・焼土ブロック(φ20～30mm)を少量、粘土粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)・粘土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

3層　灰黄褐色土　焼土粒・粘土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

焼土 1



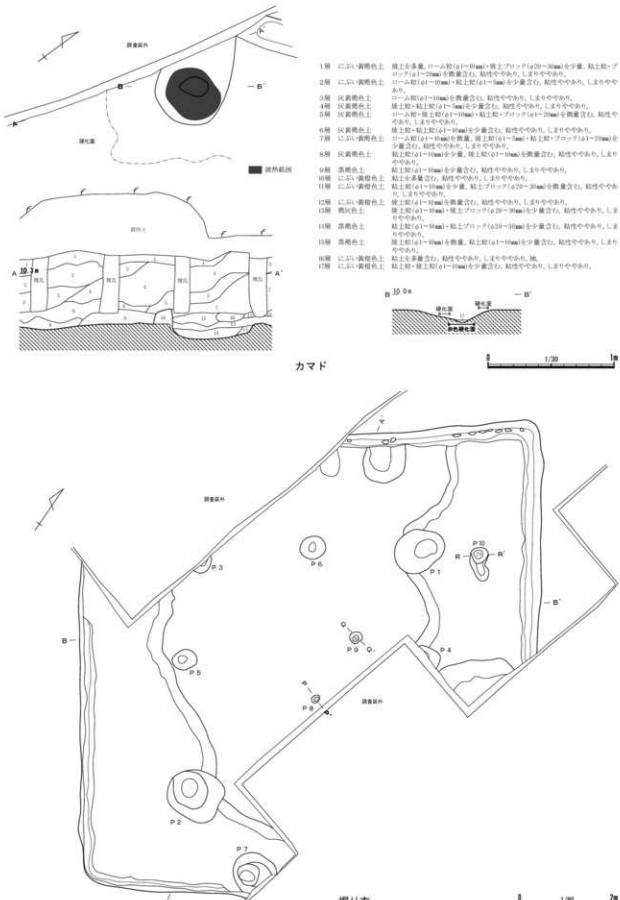
1層　にぶい黄褐色土　焼土を多量、焼土ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや有り。

2層　明灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

3層　黒褐色土　焼土粒(φ1～10mm)を少量、焼土ブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やや有り、しまりやや有り。

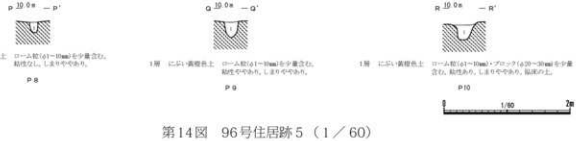
焼土 2

第12図　96号住居跡３（１／60・１／30）



1層　にぶい黄橙色土　焼土を多量、ローム粒(φ1～10mm)・焼土ブロック(φ20～30mm)を少量、粘土粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)・粘土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
4層　灰黄褐色土　焼土粒・粘土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
5層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)・粘土粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
6層　灰黄褐色土　焼土粒・粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
7層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量、焼土粒(φ1～5mm)・粘土粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
8層　灰黄褐色土　粘土粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
9層　黒褐色土　粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
10層　にぶい黄橙色土　粘土を多量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
11層　にぶい黄橙色土　粘土粒(φ1～10mm)を少量、粘土ブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
12層　にぶい黄橙色土　焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
13層　明灰色土　焼土粒(φ1～10mm)・焼土ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
14層　黒褐色土　粘土粒(φ1～10mm)・粘土ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
15層　黒褐色土　焼土粒(φ1～10mm)を微量、粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
16層　にぶい黄橙色土　粘土を多量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。地。
17層　にぶい黄橙色土　粘土粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。

第13図　96号住居跡４（１／30・１／80）



第14図　96号住居跡５（１／60）

［構　造］ **平面形**：方形。**規模**：南北軸推定9.60m／東西軸9.82m／確認面からの深さ71㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－34°－Ｗ。**壁溝**：調査区内は全周している。北側壁溝に工具痕と思われる凹凸が認められる。上幅12～32㎝／下幅４～24㎝／深さ22㎝。**床面**：硬化面は北側カマド周辺のみ確認された。掘り方は主柱穴を結んだ範囲の外側が深く掘り込まれ、厚さ４～26㎝の貼床が施されていた。壁際の床面直上において炭化物を混入する焼土の広がりが認められる。**カマド**：北西壁ほぼ中央に確認され、一部は調査区外である。調査当初にカマドと認識できなかったこともあり袖等の遺存状態はあまり良くない。長軸現況0.68m／短軸現況0.50m／深さ69㎝。**貯蔵穴**：調査区内では検出されなかった。**柱穴**：９本（主柱穴３本：Ｐ１～３、補助柱穴３本：Ｐ４～６、掘り方において３本：Ｐ８～10）確認された。主柱穴はＰ３は調査区外に広がるため判然としないが、住居隅の対角線上に配置されたと考えられ、各主柱穴間に補助柱穴が配置される構成となる。主柱穴は長軸50～52㎝／短軸40～50㎝／深さ31～36㎝、Ｐ１、２は底部に柱アタリを残す。補助柱穴は長軸20～70㎝／短軸40～50㎝／深さ31～36㎝、Ｐ５、６は底部に柱アタリを残す。Ｐ８～10は長軸20～70㎝／短軸14～40㎝／深さ17～29㎝。**入口施設**：南東壁中央ややや西寄りに検出。凸堤内部にピット（Ｐ７）。長軸現況92㎝／短軸現況69㎝／深さ73㎝、底部に柱アタリを残す。凸堤は馬蹄形状に造られるが間断があり、上幅16～28㎝／下幅28～44㎝／高さ２～４㎝。

［覆　土］ 30層に分層される。覆土上層は耕作による撹乱の影響を受けているが、床面には及んでいない。基本的に上層は自然堆積の様相を示しており、全体的にややしまりが認められる。

［遺　物］ 土師器坏・壺・甕・甑形土器の361点、土製品（土錘）２点、鉄製品（不明品）１点等が出土した。遺物の出土傾向として、住居北半分から多くの遺物が出土している。特に坏は北半分側から出土する傾向が見られる。なお、出土した炭化材３点・炭化種実１点について樹種同定を行い、炭化材はコナラ属コナラ節、イネ科草本、炭化種実については桃核であることが判明している。また、炭化材１点について放射性炭素年代測定を行い、６世紀中～後半の歴年代を得ている。詳細は付編参照。

［時　期］ 古墳時代後期（６世紀後葉）。

遺　物　（第16・17図、図版11－２・12－１、第４表）

［土　器］ （第16・17図１～29、図版11－２・12－１－１～29、第４表）

１～16は土師器坏形土器、17は土師器壺形土器、18～28は土師器甕形土器、29は土師器甑形土器である。

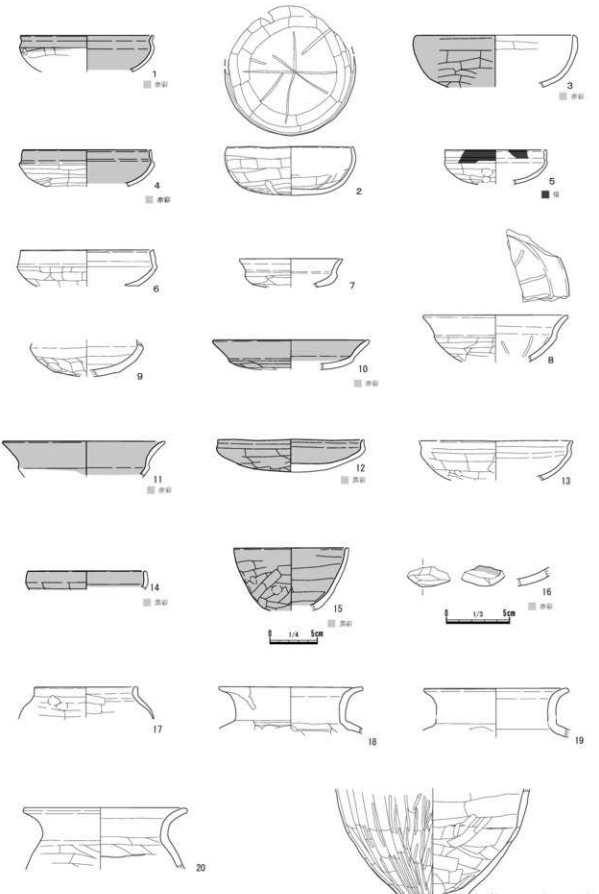
［土製品］ （第17図30・31、図版12－１－30・31、第４表）

30・31は土錘である。

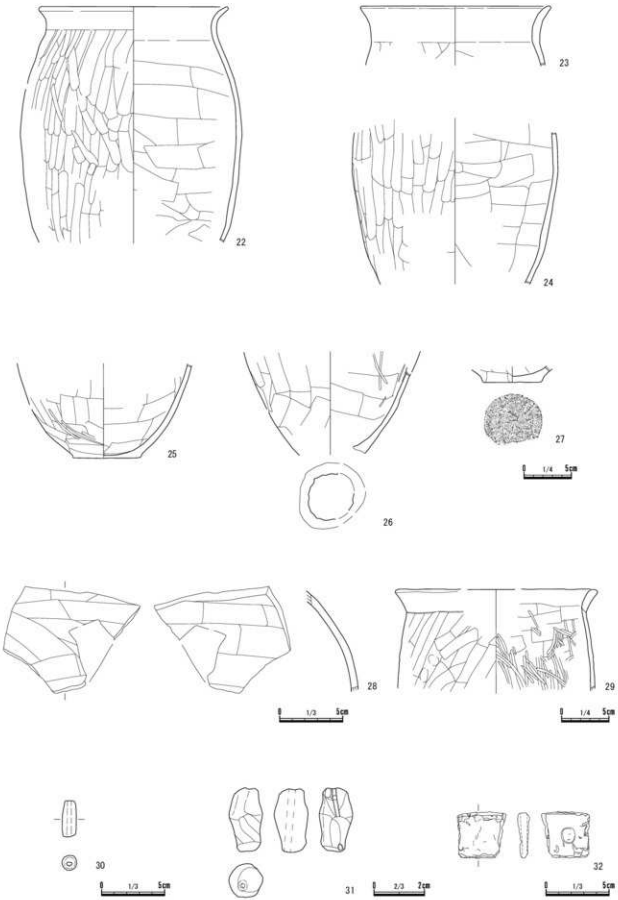
［鉄製品］ （第17図32、図版12－１－32、第４表）

32は器種不明の鉄製品で、板状の製品の裏面中央部に円形の凹みが観察される。

第15図　96号住居跡遺物出土状態（１／80・１／30）



第16図　96号住居跡出土遺物１（１／４・１／３）



第17図　96号住居跡出土遺物２（１／４・１／３・２／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第16図1 図版11-2-1	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 20％	口（14.0） 高〔3.9〕	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／底部と口縁部との境に明瞭な稜をもつ／内面及び口縁部外面は赤彩／人間系土師器	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り後、ヘラナデ	赤褐色／チャート・白色粒子・小礫	P1北側の覆土中層
第16図2 図版11-2-2	土師器 坏	口縁部～底部 70％	口（13.2） 高〔5.2〕	埦タイプ／口縁部は内湾する／底部はやや厚め	内面：口縁部横ナデ、以下横ヘラナデ、放射状暗文がうすく施文される／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラナデ	にぶい橙色／チャート・白色粒子・砂粒	カマド南側のほぼ床面上
第16図3 図版11-2-3	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 30％	口（16.6） 高〔5.5〕	埦タイプ／体部は丸みをもつ／外面赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	橙色／長石・チャート・白色粒子	P7西側の覆土中層
第16図4 図版11-2-4	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 20％	口（13.6） 高〔3.8〕	有段坏／口縁部は内傾し、口縁部と底部の間に明瞭な段を有する／内面及び外面口縁部赤彩	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り	橙色／チャート・石英・砂粒	P4西側のほぼ床面上
第16図5 図版11-2-5	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 20％	口（10.8） 高〔3.1〕	有段坏／口縁部はほぼ直立する／口縁部と底部の間に明瞭な段を有する／口縁部内外面に煤付着	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り、一部に指頭押圧痕	にぶい橙色／石英・チャート・長石	P4西側のほぼ床面上
第16図6 図版11-2-6	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 35％	口（14.0） 高〔3.8〕	有段坏／口縁部は内傾する／口唇部は面取り／口縁部と体部の境に明瞭な段を有する	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	にぶい橙色／石英・チャート・長石	住居東壁寄りのほぼ床面
第16図7 図版11-2-7	土師器 坏	口縁部～ 底部下半 10％	口（11.0） 高〔3.0〕	有段坏／口縁部は強く外反する／口縁部と底部の間に明瞭な段を有する／体部は扁平	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下横・斜位粗いヘラ削り	にぶい橙色／白色粒子・黒色粒子	P1南側の覆土上層
第16図8 図版11-2-8	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 30％	口（13.0） 高〔6.0〕	有段坏／口縁部は外反しながら開く／口縁部と底部の間に明瞭な段を有する	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	にぶい褐色／チャート・砂粒・白色粒子	カマド付近ほぼ床面上
第16図9 図版11-2-9	土師器 坏	体部～底部 30％	高〔3.9〕	有段坏／口縁部欠損／口縁部と底部の間に明瞭な段を有する	内面：口縁部は横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部から段下部横ナデ、以下横・斜位粗いヘラ削り	にぶい褐色／石英・長石・黒褐色粒子・砂粒	覆土
第16図10 図版11-2-10	土師器 坏	口縁部～ 底部下半 40％	口（16.6） 高〔3.2〕	有段坏／口縁部は直線的に外傾し大きく開く／口縁部と底部の境に明瞭な段を有する／底面の内外面中心付近を除き赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	赤褐色／チャート・砂粒	南側壁近くの床面直・覆土中層から散在的
第16図11 図版11-2-11	土師器 坏	口縁部～ 体部上半 10％	口（16.4） 高〔3.8〕	有段坏／口縁部は強く外反し、底部との間に明瞭な段を有する／内面と口縁部外面赤彩	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラナデ	橙色／白色粒子・黒色粒子	P1の覆土下層
第16図12 図版11-2-12	土師器 坏	体部～底部 45％	口（15.4） 高〔3.5〕	有稜坏／口縁部は短く立ち上がり、口縁部と底部の境に稜を有す／内外面黒彩	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラナデ	灰褐色／石英・チャート・砂粒	カマド東側の覆土
第16図13 図版11-2-13	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 30％	口（16.0） 高〔4.2〕	有稜坏／口縁部は短く外反する／口縁部と底部の境に稜を有する	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラナデ	にぶい褐色／石英・チャート・赤褐色粒子	カマド南側の覆土
第16図14 図版11-2-14	土師器 坏	口縁部～ 体部上位 30％	口（12.4） 高〔2.0〕	有稜坏／口縁部は内傾する／口縁部と底部の間に弱い稜を有する／口縁内外面黒彩	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	灰褐色／長石・白色粒子	P4北側のほぼ床面上
第16図15 図版11-2-15	土師器 坏	口縁部～ 底部上半 25％	口（12.0） 高〔6.7〕	深身タイプ／口縁部から体部にかけて内湾しつつ開く／内外面黒彩	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り、一部に指頭押圧痕	灰褐色／石英・長石・砂粒	覆土
第16図16 図版11-2-16	土師器 坏	体部～底部 破片	高〔1.5〕	体部破片／内面のみ上半分赤彩	内面：横ナデ／外面：横・斜位ヘラ削り	にぶい褐色／角閃石・チャート・白色砂粒	覆土
第16図17 図版11-2-17	土師器 甑	口縁部～ 胴部上半 20％	口（10.6） 高〔3.3〕	頸部は短く、ほぼ垂直に立ち上がる／胴部は丸みをもって張り出す／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り後ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り後ナデ、一部に指頭押圧痕	橙色／角閃石・チャート・砂粒	P1付近のほぼ床面・床面
第16図18 図版11-2-18	土師器 甕	口縁部～ 肩部上位 10％	口（15.0） 高〔5.1〕	頸部は直線的に立ち上がり、口縁部は強く外反する／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横ナデ、頸部との接続部は細かい縦ナデで接合する／外面：口縁部横ナデ以下、ヘラナデ	明赤褐色／石英・チャート・白色粒子	P5・6間の覆土上層
第16図19 図版11-2-19	土師器 甕	口縁部～ 肩部上位 20％	口（14.6） 高〔5.2〕	口縁部は強く外反する／頸部は直立し、胴部へ向かって張り出す／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り	明赤褐色／石英・角閃石・長石	北西側及び中央部の覆土から散在的
第16図20 図版11-2-20	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20％	口（17.5） 高〔6.5〕	口縁部は強く外反する／胴部はややゆるやかに張り出す／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ハケによるナデ	にぶい褐色／長石・チャート・黒色粒子・赤色粒子	南側コーナーの覆土中層
第16図21 図版11-2-21	土師器 甕	胴部下半～ 底部 30％	高〔11.9〕 底（7.0）	胴部は丸みを持もって張り出す／外面煤ける／在地系	内面：多方面のヘラナデ／外面：縦位ヘラ削り後、粗いヘラ磨き調整	にぶい褐色／石英・長石・チャート	北東コーナー寄りの床面上
第17図22 図版12-1-22	土師器 甕	口縁部～ 胴部下半 50％	口　19.7 高〔25.0〕	口縁部は外反する／最大径は胴部上位にもつ／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦方向のヘラ削り後、斜方向のナデ	にぶい褐色／石英・チャート・白色粒子	南側コーナーを中心に、床面・床面上・覆土から散在的

第４表　96号住居跡出土土器・土製品・鉄製品一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第17図23 図版12-1-23	土師器 甕	口縁部～胴部上半 20％	口（19.4） 高［6.3］	口縁部はゆるやかに外反し、胴部と胴部の境はスムーズに移行する。在地系	内面：口縁部横ナデ、以下縦・斜位ヘラ削り	にぶい黄橙色／石英・白色粒子・砂粒	中央部覆土から散在的
第17図24 図版12-1-24	土師器 甕	胴部上半～下半 40％	高［17.6］	胴部上方は張り出し、下方はすぼまる／在地系	内面：横位ヘラナデ／外面：縦位ヘラ削り後、一部ナデ	にぶい黄褐色／石英・チャート・砂粒	P1・4の間のほぼ床面直から散在的
第17図25 図版12-1-25	土師器 甕	胴部中位～底部 40％	高［10.9］ 底　6.7	胴部から底部にかけ丸みをもつ／在地系	内面：横位ヘラナデ／外面：縦・斜位ヘラ削り後、一部にヘラ磨き調整	にぶい橙色／長石・チャート・白色粒子・砂粒	P4北側の床面
第17図26 図版12-1-26	土師器 甕	胴部中位～底部 40％	高［11.0］	胴部下部はゆがむ／底部は粘土接合部で欠損しており、集への転用か／在地系	内面：横位ヘラナデ後、まばらに斜位ヘラ磨き調整／外面：縦・斜位ヘラ削り	にぶい褐色／石英・チャート・砂粒	南コーナー及び中央部の床面直上・覆土上・中層から散在的
第17図27 図版12-1-27	土師器 壺片	底部 破片	高［1.7］ 底 6.1	胴部は底部から立ちあがった後外へ張り出す／在地系	内面：斜位ヘラナデ／外面：斜位ヘラ削り、底面周辺は横位ヘラ削り／底面：粗いヘラ削り	にぶい橙色／長石・チャート・赤色粒子・黒色粒子	カマド西側の覆土中層
第17図28 図版12-1-28	土師器 甕	肩部 破片	高［8.5］	丸みをもって内湾する肩部／在地系	内面：横位ヘラナデ／外面：横・斜位ヘラ削り後ナデ	褐色／石英・白色粒子・砂粒	P3西側の覆土中層
第17図29 図版12-1-29	土師器 甕	口縁部～胴部上半 20％	口（20.4） 高［10.5］	複合口縁／口縁部は外傾する／胴部はやや丸みをもち、中位で最大径を測るか／在地系	内面：口縁部は横ナデ、以下横ヘラナデ後、縦・斜位ヘラ磨き調整／外面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラ削り、指頭押圧痕	にぶい橙色／石英・チャート・砂粒・褐色粒子	カマド東側周溝上の覆土下層

挿図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第17図30 図版12-1-30	土製品 土錘	2.9	1.25	1.1	4.6	中央部がややふくらむ／上下端は平坦／管平な穴が貫通している／外面：縦位ヘラ削り・ナデ／色調・胎土は橙色、石英・砂粒を含む	P5北側の覆土上層
第17図31 図版12-1-31	土製品 土錘	2.5	1.35	1.3	4.0	上下端部は平坦で、中央部が張り出す／上面中央から下面端部にかけ斜めに径1.5mmの浮孔／上面中央から体部中央にかけ、幅1.5mmの溝が見られ、浮孔を囲うと思われる／色調・胎土は橙色、長石・砂粒	P1覆土中層

挿図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第17図32 図版12-1-32	鉄製品 不明	3.7	3.9	9.5	22.1	ほぼ正方形を呈し、上方にわずかに厚みをもつ／表面は平坦、裏面中央部に円形の抉り込みが見られる	東側の覆土上層

第４表　96号住居跡出土土器・土製品・鉄製品一覧（２）

97号住居跡

遺　構　（第18～22図）

［位　置］（Ｅ・Ｆ－２・３）グリッド

［検出状況］　調査区中央ややや南寄りで検出された。北西隅、南東隅は調査区外へと広がる。調査区内で検出したカマドは１基であるが、貯蔵穴が３基検出され、また、主柱穴に造り替えが認められることから３回の建て替えが行われた住居と判断される。なお、住居を拡張した痕跡は確認できなかった。またカマドの天井部とカマド西側袖の一部を壊す形で７Ｐにより掘り込まれている。７Ｐ内出土土師器甕形土器と、住居跡出土土器との時期差はさほどないと考えられる。

［構　造］　３回の造り替えが行われており、新しい順にＡ～Ｃとした。基本的な構造で規模等に変化が確認されない付帯施設については共通の計測値となる。**平面形**：方形。**規模**：南北軸5.17m／東西軸4.90m／確認面からの深さ59cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－23°－Ｗ。**壁溝**：カマドを除き調査区内を全周している。東側壁溝、南側壁溝及び、西壁の一部において工具痕と思われる凹凸が認められる。上幅15～26cm／下幅５～14cm／床面からの深さ９cm。**床面**：硬化面はカマド南西、凸堤北側で確認された。掘り方は床面全体で確認され、床面は一面しか確認できず、厚さ２～22cmの貼床が施されていた。間仕切りが３か所で確認される。Ｐ２へ延びる間仕切り１は長さ0.60m／幅0.20m／床面からの深さ14cm。Ｐ３へ伸びる間仕切り２は長さ0.76m／幅0.30m／床面からの深さ10cm。住居北東で床下から確認された間仕切り３は長さ0.86m／幅0.25～0.36m／床面からの深さ２～３cm。間仕切り１、２は住居Ａに付帯するが、間仕切り３は住居Ｂ、Ｃのどちらに付帯するかは不明で

ある。**カマド**：北壁中央やや東寄りで確認された。貯蔵穴Ｃはカマド袖、焚口の一部の下にプランが確認されたため、調査区外に住居Ｃのカマドが存在している可能性が高い。残存状態は良く、粘土を主体として構築され、煙道付近の天井の一部が崩落せず残存していた。長軸現況1.16m／短軸現況0.87m／床面からの深さ54cm。**貯蔵穴**：カマド東側で新しい方から順にＡ～Ｃの３基が確認された。貯蔵穴Ａについては床面レベルにおいて、遺物の出土状況等からプランを把握することができたが、貯蔵穴Ｂ・Ｃについてはカマドとの重複や遺物の出土状況から平面プランの把握が困難で、土層断面等から新旧関係を判断している。カマドに貯蔵穴Ａは付帯するが、貯蔵穴Ｂは不明で、貯蔵穴Ｃは付帯しない。**貯蔵穴Ａ**：長軸0.75m／短軸0.62m／床面からの深さ68cm／貯蔵穴Ａに伴うと考えられる凸堤が確認される。長さ1.00m／幅0.35～0.55m／床面からの高さ７cm。**貯蔵穴Ｂ**：長軸現況0.50m／短軸現況0.30m／床面からの深さ36cm。**貯蔵穴Ｃ**：長軸1.04m／短軸0.62m／床面からの深さ58cm。**柱穴**：11本（住居Ａ：主柱穴４本、入口施設１本、住居Ｂ・Ｃ：主柱穴５本、入口施設１本）確認された。P４・７～11については住居Ａより古いが住居Ｂ・Ｃのいずれかに対応するかは判然としない。ただし北東隅の柱穴３本（P1・7・11）については新旧関係が明らかである。また、P６は調査区外に広がっているが、いずれの時期においても住居隅の対角線上に配置されたと考えられる。主柱穴のピットは**住居Ａ**（P1～３・６）：長軸39～48cm／短軸35～40cm／深さ48～59cm、**住居Ｂ**（P７）：貯蔵穴Ｃを掘り込む形で確認された。長軸38cm／短軸35cm／床面からの深さ76cm、**住居Ｃ**（P11）：長軸36cm／短軸32cm／床面からの深さ39cm。**住居Ｂ・Ｃ**（P４・９・10）：長軸34～58cm／短軸26～42cm／深さ58、68cm。**入口施設**：住居南側で半円状の凸堤に囲まれる形で床面から住居Ａに付帯する１本（P５）、床下から住居Ｂ・Ｃに付帯する１本（P８）の柱穴が確認された。P５は長軸20cm／短軸18cm／床面からの深さ14cm。凸堤は上幅10～19cm／下幅20～44cm／高さ４cm。P８は長軸31cm／短軸25cm／床面からの深さ14cm。凸堤が付帯するかは不明。

［覆　　土］　30層に分層される。覆土上層は耕作による撹乱の影響を受けているが、床面には及んでいない。やや特徴的な堆積状況を示しており、南側はローム土を多量に含んでおり、全体的な土層を見ても中層～下層にロームブロックを比較的多く含んだ層となっている。

［遺　　物］　土師器高坏・坏・甕・甑形土器の271点、土製品（支脚）２点、石製品（玉造製作関連の剥片・砥石）３点、桃核２点が出土した。遺物は貯蔵穴周辺と住居中央から西側に集中して出土している。特にカマド東側と壁溝の交点付近、カマド西側と壁溝の交点付近からそれぞれ甕が正位で出土したほか、甕と甑が貯蔵穴の右角を囲むように出土した。これらは貯蔵穴Ｂ・Ｃ上に位置するため、貯蔵穴Ｂ・Ｃの埋没後に配置されたと考えられる。なお、出土炭化材２点・炭化種実３点について樹種同定を行い、炭化材はコナラ属コナラ節、炭化種実は桃核であることが判明している。また、炭化材１点について放射性炭素年代測定を行い、５世紀前半～６世紀後半の歴年代を得ている。詳細は付編参照。

［時　　期］　古墳時代後期（６世紀前葉～中葉）。

遺　　物　（第23～25図、図版12－２・13・14・15－１、第５表）

［土　　器］　（第23～25図１～28、図版12－２・13・14・15－１－１～28、第５表）

１は土師器高坏形土器で、坏部が97号住居跡、脚部が98号住居跡から出土した遺構間接合遺物である。坏部が97号住居跡Ｐ４付近床面からの出土、脚部は98号住居跡の上層～中層の出土であるため、97号住居跡の遺物として扱うこととする。２～９は土師器坏形土器で、10～23は土師器甕形土器、24～28は土師器甑形土器である。

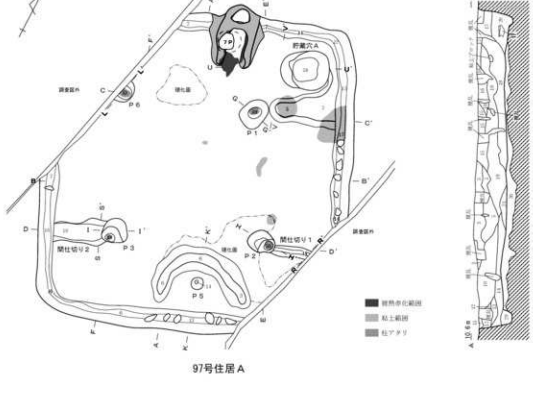
［土 製 品］（第25図29・30、図版15－１－29・30、第５表）

29・30は土製品の支脚である。30はカマド中央部からの出土である。

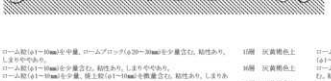
［石 製 品］（第25図31 ～ 33、図版15－１－31 ～ 33、第５表）

31は硬質細粒凝灰岩の剥片で、玉造製作関連のものと思われる。住居跡覆土からの出土である。

32・33は砥石である。

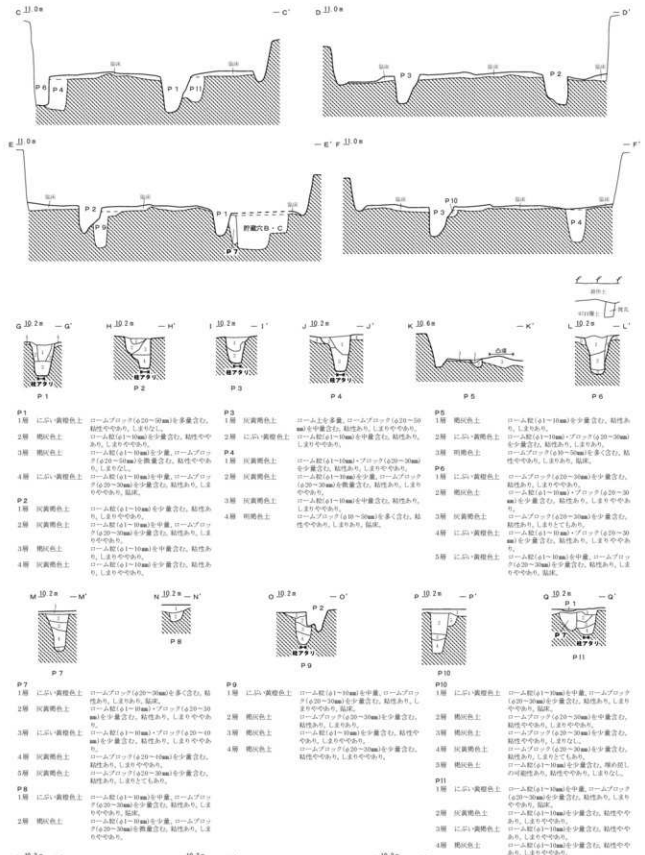


97号住居A



1層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
2層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
3層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。	
4層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～50mm)を少量、焼土粒・炭化物粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
5層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。	
6層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)・ローム中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
7層	黒褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
8層	黒褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量、焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
9層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
10層	黒褐色土	ローム土を多量、ロームブロック(φ20～50mm)を中量含む。粘性あり、しまりあり。	
11層	暗灰色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～50mm)を微量含む。粘性やや あり、しまりやや弱い。	
12層	黒褐色土	ローム土を多量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量、炭化物粒(φ3～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。	
13層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を多く含む。粘性あり、しまりあり。	
14層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量、焼土粒(φ2～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。	
15層	灰黄褐色土	ローム粒・白色粘土粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)・焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
16層	灰黄褐色土	ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を微量、白色粘土粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
17層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
18層	灰黄褐色土	ロームブロック(φ20～30mm)を15ん点的に少量、白色粘土ブロック(φ20～30mm)を少量、焼土粒・炭化物粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。	
19層	にぶい黄褐色土	ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量、白色粘土粒・ブロック(φ1～30mm)を中量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
20層	灰黄褐色土	ローム粒・白色粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
21層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。	
22層	灰黄褐色土	ローム粒・炭化物粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや あり。	
23層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
24層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
25層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量、焼土粒・炭化物粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
26層	にぶい黄褐色土	ローム土を多量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
27層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
28層	灰黄褐色土	ロームブロック(φ10～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。	
29層	灰黄褐色土	ロームブロック(φ20～30mm)・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。	
30層	にぶい黄褐色土	ローム土を多量含む。粘性あり、しまりあり。貼床。	

第18図　97号住居跡１（１／60）



P1
1層　にぶい黄橙色土　ロームブロック(φ20～50mm)を多量含む。粘性やや強い。しまりなし。
2層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり。しまりやや強い。
3層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～50mm)を微量含む。粘性やや強い。しまりなし。
4層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりやや強い。

P2
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
3層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性あり。しまりややあり。
4層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。

P3
1層　灰黄褐色土　ローム土を多量、ロームブロック(φ20～50mm)を中量含む。粘性あり。しまりややあり。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性あり。しまりややあり。

P4
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりややあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　明褐色土　ロームブロック(φ10～30mm)を多く含む。粘性やや強い。しまりなし。

P5
1層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりなし。
3層　明褐色土　ロームブロック(φ10～30mm)を多く含む。粘性やや強い。しまりなし。

P6
1層　にぶい黄橙色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
2層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
3層　灰黄褐色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや強い。しまりあり。
4層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
5層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。

P7
1層　にぶい黄橙色土　ロームブロック(φ20～30mm)を多く含む。粘性あり。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
3層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
4層　灰黄褐色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
5層　灰黄褐色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりとてもあり。

P8
1層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。粘質。
2層　明灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりややあり。

P9
1層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。粘質。
2層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やややあり。しまりややあり。
4層　暗灰色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やややあり。しまりややあり。

P10
1層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。粘質。
2層　褐灰色土　ロームブロック(φ20～30mm)を中量含む。粘性やややあり。しまりややあり。
3層　褐灰色土　ロームブロック(φ20～30mm)を中量含む。粘性やややあり。しまりなし。
4層　灰黄褐色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりとてもあり。
5層　褐灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。焼の粒、炭の粒微含む。粘性やややあり。しまりなし。

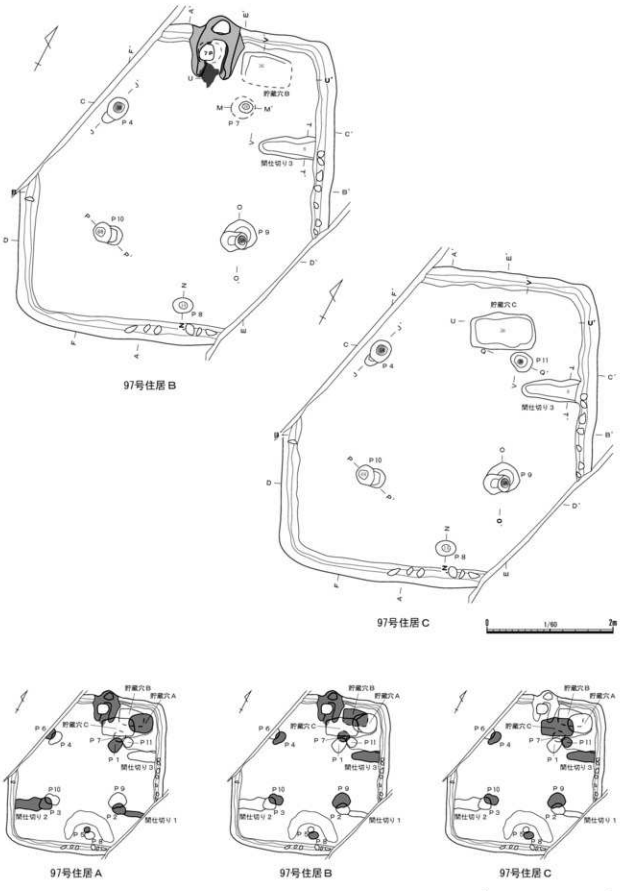
P11
1層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。粘質。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やややあり。しまりややあり。
3層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やややあり。しまりややあり。
4層　褐灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やややあり。しまりややあり。

R
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やややあり。しまりややあり。

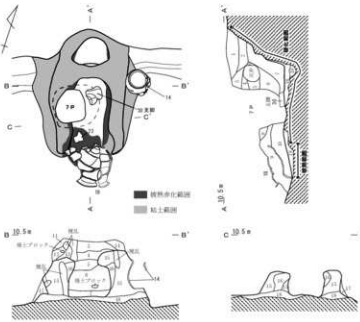
S
1層　にぶい黄橙色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やややあり。しまりややあり。

T

第19図　97号住居跡２（１／60）



第20図　97号住居跡３（１／60・１／120）



1層　灰黄褐色土　粘土粒(φ1～10mm)を微量、粘土ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
2層　にぶい黄橙色土　焼土粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
3層　灰黄褐色土　焼土粒(φ1～5mm)を微量、粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
4層　灰黄褐色土　焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
5層　暗灰色土　焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
6層　暗灰色土　粘土粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり、しまりなし。
7層　にぶい黄橙色土　ロームブロック(φ20～30mm)を中量含む。粘性あり、しまりなし。
8層　灰黄褐色土　焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
9層　灰黄褐色土　焼土粒(φ1～10mm)を少量、焼土ブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
10層　灰黄褐色土　焼土粒(φ1～10mm)を微量、焼土ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
11層　灰黄褐色土　粘土・焼土粒・炭化物粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
12層　灰黄褐色土　焼土粒・粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
13層　灰黄褐色土　粘土粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
14層　にぶい黄橙色土　焼土粒(φ1～10mm)を微量、粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
15層　灰白色土　やや粘土質、ロームがごく少量含む。粘性ややあり、しまりあり。軟。
16層　橙色土　白濁の粘土層が被熱されて赤化している。焼土ブロック(φ10mm)を少し含む。粘性ややあり、しまりあり。
17層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
18層　にぶい黄橙色土　ローム土を多量含む。粘性あり、しまりやや弱い。粘質。
19層　灰黄褐色土　ロームブロック(φ20～30mm)・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。

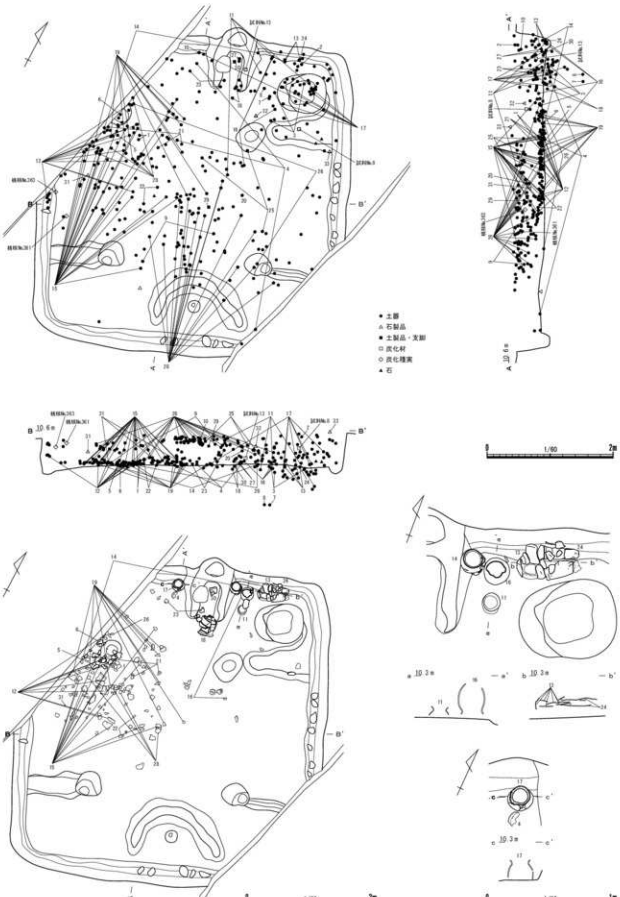
貯蔵穴A
1層　明褐色土　ロームブロック(φ10～50mm)を多く含む。粘性ややあり、しまりあり。粘質。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、焼土粒(φ1～10mm)・粘土粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・焼土粒・ブロック(φ1～20mm)・粘土粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
4層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量、粘土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。
5層　明黄褐色土　ロームブロックを多量含む。粘性あり、しまりややあり。
6層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。

貯蔵穴B
7層　灰黄褐色土　ローム粒・粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
8層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
9層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。

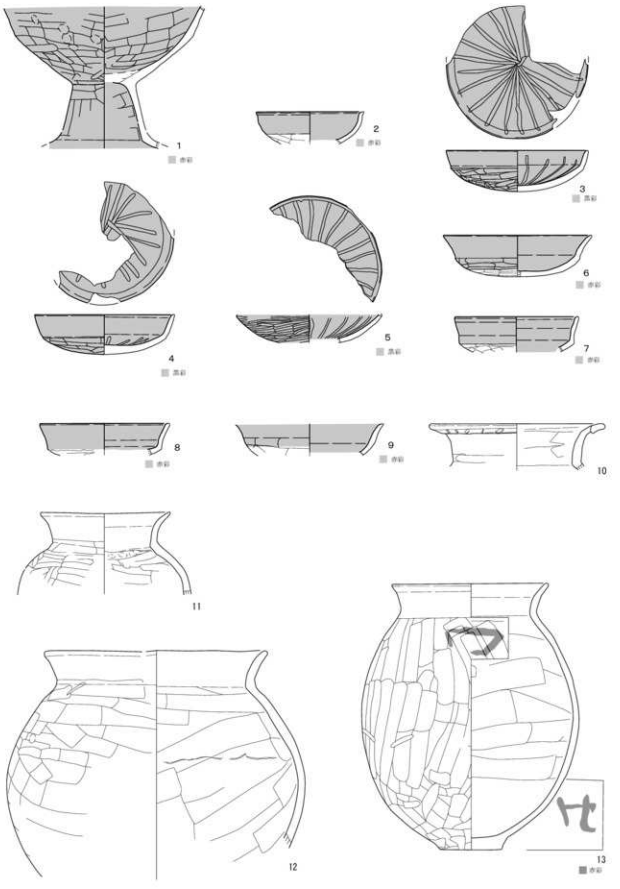
貯蔵穴C
10層　明黄褐色土　ロームブロックを多量含む。粘性あり、しまりややあり。
11層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量、粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
12層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)・粘土粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
13層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～50mm)を微量含む。粘性あり、しまりややあり。

1層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
4層　暗灰色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～50mm)・粘土粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりややあり。

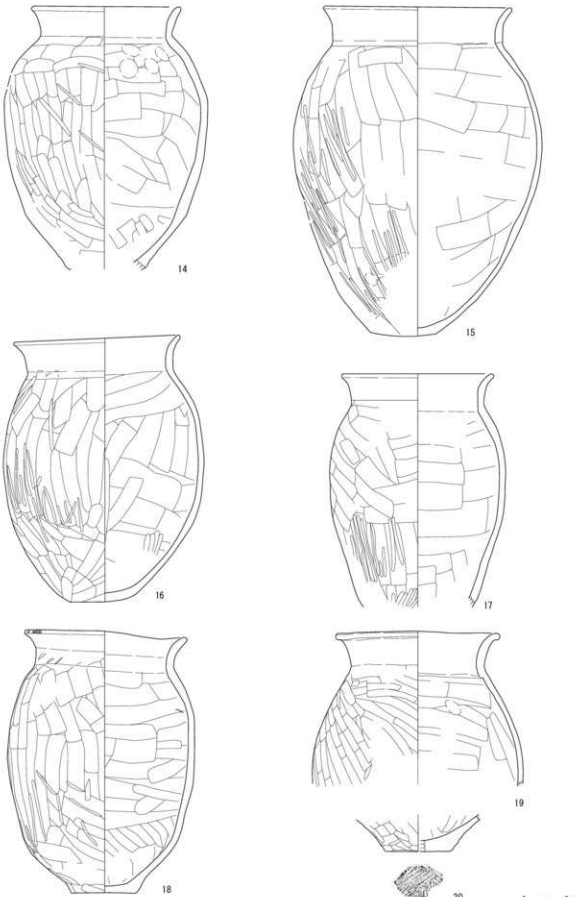
第21図　97号住居跡４（１／30・１／60）



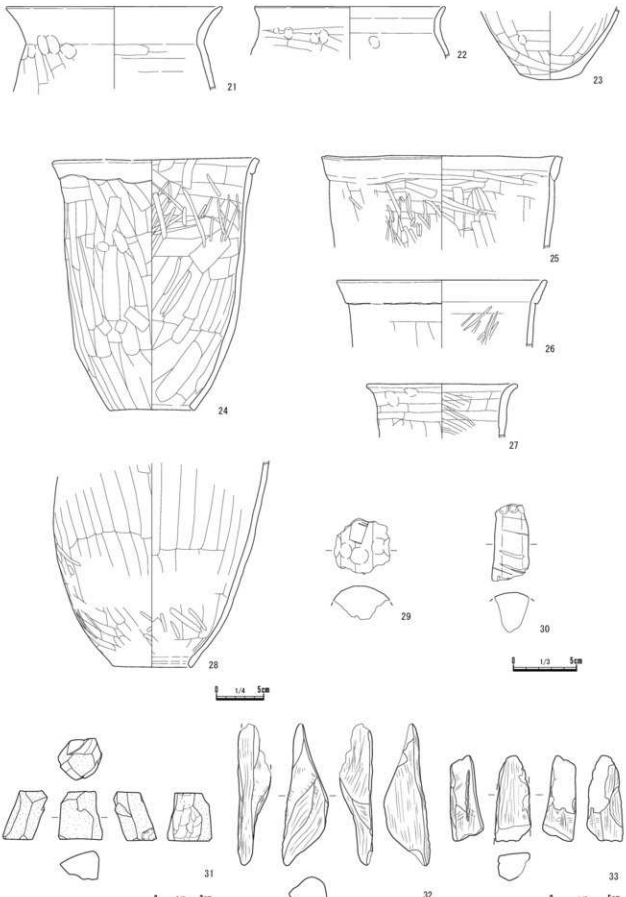
第22図　97号住居跡遺物出土状態（１／60・１／30）



第23図　97号住居跡出土遺物１（１／４）



第24図　97号住居跡出土遺物２（１／４）



第25図　97号住居跡出土遺物３（１／４・１／３・２／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第23図1 図版12-2-1	土師器 高坏	口縁部～ 脚部下半 70％	高〔15.0〕	坏部が深身のタイプ／坏部は内湾しながら開く／中部に弱い稜を有する／短脚／脚部は直線的で裾部で大きく開く／内外面赤彩	内面：坏部ヘラナデ後、ナデ／外面：坏部横位ヘラ削り、脚部押圧痕／脚部：縦・横位ヘラ削り、裾部は一部粗いナデ	赤褐色／石英・チャート・角閃石・砂粒	P4東側の覆土から散在的な坏部は97住、脚部は98住の遺構間接合
第23図2 図版12-2-2	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 10％	口〔11.0〕 高〔3.4〕	いわゆる比企型坏／口縁部上部は短く外反する／体部は丸みをもつ／内面及び外面口縁部赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り後、ナデ	にぶい褐色／白色粒子・チャート	北側コーナー付近の覆土上層
第23図3 図版12-2-3	土師器 坏	70％	口〔15.0〕 高〔4.4〕	有段坏／口縁部は僅かに内湾しつつ内傾する／口縁部と底部の境に段を有する／内外面黒彩	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ後、放射状暗文／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り	黒褐色／チャート・砂粒	貯蔵穴の床面・床直
第23図4 図版13-4	土師器 坏	45％	口〔14.8〕 高〔4.3〕	有段坏／口縁部は直線的に外傾する／口縁部と底部の境に強めの段を有する／内外面黒彩／人間系土師器	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ後、放射状暗文／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り、一部強いナデのため、磨きのような光沢をもつ	赤褐色／チャート・砂粒	遺構全体の床面・覆土から散在的
第23図5 図版13-5	土師器 坏	体部 20％	高〔3.0〕	有段坏／口縁部欠損／口縁から体部の境に段を持つ／内外面黒彩／人間系土師器	内面：幅2・3mmの放射状暗文／外面：体部に横位ヘラ磨き調整、底面はヘラ削り	橙色／長石・石英・赤色粒子・砂粒	P4南側の覆土下層
第23図6 図版13-6	土師器 坏	45％	口〔15.6〕 高　4.4	有段坏／口縁部は強く外反し、口縁部と底部の境に段を有する／口縁部内外面と外面の縁から底面端の半分程赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	橙色／長石・チャート・白色粒子	P4覆土下層
第23図7 図版13-7	土師器 坏	口縁部～ 底部上半 20％	口〔13.0〕 高〔3.7〕	有段坏／口縁部はやや外傾する／口縁部内側に膨らみを持つ／内面及び口縁部外面赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラ削り	にぶい黄橙色／長石・チャート・砂粒	貯蔵穴の覆土下層
第23図8 図版13-8	土師器 坏	口縁部～ 底部上半 10％	口〔13.6〕 高〔3.4〕	有段坏／口縁部はやや小さく外反する／口縁部と底部の境に稜をもつ／内面・口縁部外面赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	にぶい黄橙／橙色／チャート・砂粒	貯蔵穴の覆土下層
第23図9 図版13-9	土師器 坏	口縁部～ 体部上半 20％	高〔3.4〕	有段坏／口縁部部は欠損／口縁部はやや外反する／口縁部から底部へわずかに稜をもち、ゆるやかに移行する／内面・外面口縁部赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り	橙色／石英・チャート・砂粒	中央部付近の覆土上層
第23図10 図版13-10	土師器 甕	口縁部～胴部 25％	口〔17.0〕 高〔4.9〕	複合口縁／口縁端部は強く外反する／在地系	内面：横ナデ／外面：ハケ調整後、横ナデ、口縁部に連続したヘラの圧痕が残る	にぶい橙色／長石・チャート・石英	カマド西側南壁上の覆土下層
第23図11 図版13-11	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20％	口〔13.5〕 高〔8.7〕	口縁部は上部で大きく開き、胴部は外縁、肩部は丸みをもつ／在地系／外面は煤ける	内面：口縁部横ナデ、以下胴部押圧痕、横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下は縦・横位ヘラ削り	にぶい褐色／石英・チャート・砂粒	カマド東側を中心に床面・覆土から散在的
第23図12 図版13-12	土師器 甕	口縁部～ 胴部中位 40％	口　23.0 高〔24.2〕	口縁部はやや直線的に外傾する／胴部はもみをもつ／胴部中位で最大径を測る／外面は範囲に煤ける	内面：口縁部横ナデ、以下内面横・斜位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、口縁部と胴部の接続部分から胴部中位にかけ横位ヘラ削り	にぶい褐色／石英・角閃石・チャート・砂粒	西側の床面上・覆土から散在的
第23図13 図版13-13	土師器 甕	ほぼ完形	口16.3 高28.2 底　6.4	胴部は直線的に外傾し、口縁部でわずかに外へ開く／胴部中位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部横ナデ、上～中部、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラ削り、下部縦・横位ヘラ削り／胴部：下半に強いヘラ削りによる磨き状の光沢を帯びる部分もあり、胴部外面上部と下部に赤色顔料による記号の類が観察できる	黒褐色／石英・赤・チャート・白色粒子	カマド東側南壁上の床面・覆土から散在的
第24図14 図版13-14	土師器 甕	口縁部～ 胴部下端 50％	口　15.4 高〔27.9〕	口縁部は外傾して開く／胴部中位で最大径を測る／外面が一部と内面煤ける／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下上部は横位、下部は斜位ヘラ削り／外面：口縁部横ナデ、上部は横ナデ、中部は縦位、下部は斜位ヘラ削り後、ヘラナデ（スリップか）、一部に斜位ヘラ磨き調整	灰黄褐色／石英・金雲母・チャート	カマド東側及び遺構西側の床面・覆土下層
第24図15 図版14-15	土師器 甕	50％	口19.5 高34.8	胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は外傾する／胴部中位で最大径を測る／在地系／外面煤付着	内面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラ削り、中部の一部に強いナデによる磨きのような光沢あり	にぶい橙色／石英・チャート・砂粒・白色粒子	西側の床面上・覆土から散在的
第24図16 図版14-16	土師器 甕	80％	口17.2 高28.2 底　7.2	口縁部と底部はゆかひ／口縁部はゆるやかに外反する／胴部中位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下内面斜・横位ヘラナデ、口縁部と胴部の接合部に横・縦ナデ（スリップか）／外面：口縁部横ナデ、以下上部縦ナデ、下部へラ削り	にぶい橙色／長石・チャート・白色粒子	貯蔵穴近・住居中央部の床面上から散在的
第24図17 図版14-17	土師器 甕	口縁部～ 体部下半 50％	口　15.7 高〔24.7〕	胴部は直線的に立ち上がり、口縁部で外反する／最大径を胴部中位にもつ／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦・斜位ヘラ削り後、部分的にヘラ磨き調整	灰褐色／チャート・長石・砂粒・僅かに金雲母	貯蔵穴・カマド西側の覆土から散在的
第24図18 図版14-18	土師器 甕	完形	口16.9 高27.9 底　6.8	口縁部から肩部にかけてゆかひ／胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は強く外反する／口縁端部の一部に丸棒状工具による凹みが見られる／胴部中位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ、下部は斜位ヘラ削り／外面：口縁部横ナデ、以下上部と下部は斜位、中部は縦位ヘラ削り、ヘラ削り後、全体にナデ（スリップか）、一部ヘラ磨き調整	にぶい褐色／石英・チャート・金雲母・白色粒子	カマド焚き口から散在的

第5表　97号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧（1）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第24図19 図版14-19	土師器 甕	口縁部～ 胴部中位 40％	口（16.8） 高［16.4］	口縁部はゆるやかに外反する／口縁部はかがむ／胴部と胴部の境はスムーズ／胴部中位で最大径を測る／在地系土師器／口縁部外面と胴部の一部傷ける	内面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラ削り	にぶい橙色／チャート・白色粒子・赤色粒子	P4付近の床面上から散在的
第24図20 図版14-20	土師器 甕	胴部下半～ 底部 25％	底［3.9］ 底（7.0）	胴下位膨の底部か、胴部は大きく外傾する	内面：斜位ヘラナデ／外面：多方向のヘラ削り、ヘラ削り痕が明瞭に残る	にぶい褐色／石英・角閃石・チャート	中央部付近の覆土上層
第25図21 図版14-21	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20％	口（22.6） 高［8.7］	口縁部は外反し、胴部は直線的／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦位ハケナデ、一部にハケ目が残る	明褐色／石英・角閃石・砂粒	西側中央部付近覆土から散在的
第25図22 図版14-22	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20％	口（20.0） 高［5.6］	口縁部はゆるやかに外反する／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り後、斜位ヘラナデ、指頭押圧痕	にぶい橙色／石英・チャート・長石・	中央部付近のほぼ床面上・覆土から散在的
第25図23 図版14-23	土師器 甕	胴部中位～ 底部 25％	高［7.7］ 底（6.6）	底部は丸みを持ち、胴部はやや内湾する／外面煤付着／在地系	内面：斜位ヘラナデ／外面：横・斜位ヘラ削り後、縦・横・斜位ヘラナデ、指頭押圧痕	黄橙／石英・長石・チャート	カマド付近のほぼ床面・覆土から散在的
第25図24 図版15-1-24	土師器 甕	完形	口21.3 高26.8 底 8.9	筒抜け式／複合口縁／口縁部は外反し、ゆるやかに胴部へと至る／在地系	内面：口縁部横ナデ後、一部縦ナデ、以下上部横ナデ、中部斜ナデ、下部斜ナデ後、上部～中部にヘラ磨き調整／外面：口縁部横ナデ、以下上部横・斜位ヘラ削り、中・下部・縦位ヘラ削り、以下ヘラ削り後一部にナデ調整	にぶい橙色／チャート・石英・長石・砂粒	北側コーナーの床面
第25図25 図版15-1-25	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20％	口（24.4） 器［9.8］	複合口縁／口縁部はゆがむ／口縁部は外組いゆるやかに胴部に移行する／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ後、一部ヘラ磨き状の強いナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・縦位ヘラ削り後、粗いヘラ磨き調整	にぶい褐色／チャート・白色粒子・小石	P1南側覆土上層
第25図26 図版15-1-26	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20％	口（21.4） 高［7.1］	複合口縁／口縁部は強く外組する／在地系	内面：横ナデ後、斜位ヘラ磨き調整／外面：胴部、縦位ヘラ削り後、口縁部と直下は横ナデ	にぶい橙色／長石・チャート・砂粒	P2・4付近の覆土から散在的
第25図27 図版15-1-27	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20％	口（15.4） 高［5.8］	単純口縁／口縁部は短く外反し、直線的な胴部へスムーズに移行する／在地系	内面：ハケ目調整後横ナデ、一部にナデ残しのハケ目がみられる／外面：体部に縦位ヘラ削り後、口縁部に横位ヘラナデを施す、口縁部に指頭押圧痕	にぶい黄橙／石英・チャート・長石・砂粒	カマド内側の床面上
第25図28 図版15-1-28	土師器 甕	胴部上位～ 底部 70％	高［21.8］ 底　8.0	筒抜け式／胴部は直線的で長胴／上部の器形はゆがむ／在地系	内面：縦位ヘラナデ、下部はヘラ磨き状の強いナデ、下端は横ナデ／外面：上～中部は縦位ヘラ削り、下部は斜位ヘラ削り後ヘラ磨き状の強いナデを部分的に施す	灰黄褐色／長石・チャート・砂粒	P4付近及び中央部から南側にかけての床面上・覆土から散在的

挿図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第25図29 図版15-1-29	土製品 支脚	［4.6］	［4.3］	［4.4］	28.1	柱状の基部の一部／外面：縦位ヘラ削り後、連続する指頭押圧痕が見られる／胎土・色調は浅黄橙色、角閃石・砂粒を含む	遺構中央部の覆土上層
第25図30 図版15-1-30	土製品 支脚	［6.1］	［2.7］	［3.1］	35.0	柱状の基部の一部／外面：縦ナデ後斜位の圧痕、上部に指頭押圧痕も見られる／摩滅著しい	カマド中心部覆土

挿図番号 図版番号	種別 器種	石材	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第25図31 図版15-1-31	石製品 剥片	硬質細粒凝灰岩	2.2	1.8	1.2	4.9	正面・左右両側面は原礫面／裏面の一部に節理面／前後面は平行で、70°に傾斜する角柱状	間仕切り2北側の覆土中層
第25図32 図版15-1-32	石製品 敲石	凝灰岩	12.2	3.0	12.2	65.3	上・下部の一部と後部分に欠損がある他はほぼ完形／外形の中央部はふたつで、両端に向かって薄く傾斜する／断面はカマボコ形／全面に浅い敲痕がみられる	P1北側の覆土中層
第25図33 図版15-1-33	石製品 敲石	凝灰岩	6.8	2.8	2.2	54.8	上下欠損／外形は柱状で、断面は逆台形を呈する／四側面ともすべてに敲痕がみられる	東側覆土上層

第５表　97号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧（２）

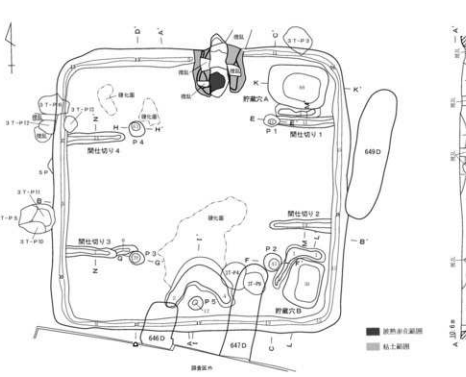
98号住居跡

遺　構　（第26～29図）

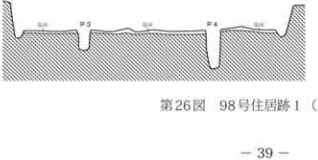
［位　置］（Ｆ・Ｇ－２・３）グリッド

［検出状況］646D・647D・649D、３Ｔ－Ｐ３・４・６・９・11～13に切られる。カマドの一部が攪乱の影響を受けている。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：南北軸4.64m／東西軸4.72m／確認面からの深さ52㎝。**壁**：80°で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－Ｓ。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅16～29㎝／下幅５～10㎝／床面からの深さ11㎝。**床面**：硬化面は住居北西隅と入口施設に伴う凸場の北側から中央付近で確認さ

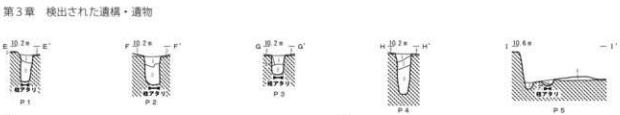


1層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
2層　褐灰色土　焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
4層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒・白色粒土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
5層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
6層　黒褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
7層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
8層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
9層　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20mm程)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
10層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量、ロームブロック(φ20～40mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
11層　褐灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
12層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒・焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
13層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
14層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)・焼土粒・炭化物粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
15層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量、焼土粒・白色粒土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
16層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
17層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒・炭化物粒(φ1～5mm)・ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
18層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
19層　灰黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
20層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒(φ1～5mm)を微量、ローム土(塊)が散在的に含まれる。粘性あり、しまりやや小。
21層　褐灰色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
22層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量、ローム土が斑点状にみられる。粘性あり、しまりやや小。
23層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
24層　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・焼土粒・炭化物粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
25層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
26層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～40mm)微量、焼土粒・白色粒土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
27層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)をまばらに微量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや小。
28層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を中量含む。粘性あり、しまりやや小。当層に広くいる。
29層　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)をまばらに微量含む。粘性あり、しまりやや小。
30層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや小。
31層　灰黄色土　ロームブロック(φ10～40mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや小。貼床。



開仕切り1～4
1層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや小。しまりやや小。
2層　褐灰色土　ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やや小。しまりやや小。

第26図　98号住居跡１（１／60）



P1
1層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
3層　灰黄色土　ロームブロック(φ10～40mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや弱い、脆弱。

P2
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりなし。
3層　灰黄色土　ロームブロック(φ10～40mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや弱い、脆弱。

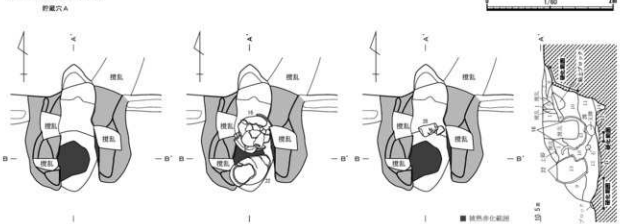
P3
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)・焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
4層　灰黄色土　ロームブロック(φ10～40mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや弱い、脆弱。

P4
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を多く含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
3層　にぶい黄橙色土　ローム土を多量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
4層　灰黄色土　ロームブロック(φ10～40mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや弱い、脆弱。

P5
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
4層　灰黄色土　ロームブロック(φ10～40mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや弱い、脆弱。

貯蔵穴A
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
3層　明赤褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
4層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
5層　灰黄色土　ロームブロック(φ10～40mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや弱い、脆弱。

貯蔵穴B
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～50mm)・焼土粒(φ1～5mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
2層　明黄褐色土　ローム土を多量、ロームブロック(φ30～50mm)を中量含む。粘性あり、しまりなし。
3層　明黄褐色土　ローム土を多量、ロームブロック(φ20～40mm)を多く含む。粘性あり、しまりなし。
4層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を多く含む。粘性あり、しまりなし。
5層　灰黄色土　ロームブロック(φ10～50mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや弱い、脆弱。



1層　灰白色土　粘土粒(φ1～5mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
2層　灰白色土　粘土粒(φ1～10mm)・焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
3層　灰黄褐色土　粘土粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
4層　灰黄褐色土　粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
5層　黄褐色土　粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
6層　褐灰色土　焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
7層　褐灰色土　粘土粒を多量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
8層　褐灰色土　焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
9層　灰黄褐色土　粘土粒・焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
10層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
11層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
12層　褐灰色土　粘土粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
13層　褐灰色土　焼土・粘土粒(φ1～5mm)を中量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
14層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。
15層　褐灰色土　粘土粒(φ1～10mm)を多く、焼土粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い、脆。
16層　褐灰色土　粘土を多量含む。粘性あり、しまりやや弱い、脆。
17層　褐灰色土　焼土・ブロック(φ1～30mm)を中量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
18層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～40mm)を多く含む。粘性あり、しまりやや弱い。

第27図　98号住居跡２（１／60・１／30）

れた。掘り方は薄く、厚さ５～10㎝の貼床が施されていた。南側において床面から３～５㎝の間層を挟み状態の良い炭化材が出土している。間仕切りは４か所で確認される。P1へ延びる間仕切り１は長さ0.95m／幅0.20m／床面からの深さ11㎝。東壁中央横やや南よりに位置する間仕切り２は長さ0.98m／幅0.25m／床面からの深さ14㎝。P3へと延びる間仕切り３は長さ0.82m／幅0.20m／床面からの深さ７～８㎝。P4へと延びる間仕切り４は長さ0.94m／幅0.20m／床面からの深さ11㎝。**カマド**：

第28図　98号住居跡遺物出土状態１（１／60）

北壁中央で確認された。天井部は崩落していたが、カマド内部より支脚と甕２個体が確認された。長軸1.15m／短軸1.01m／確認面からの深さ47㎝。**貯蔵穴**：住居北東隅（貯蔵穴Ａ）、南東隅（貯蔵穴Ｂ）の２基確認された。貯蔵穴Ａは遺物が多く含まれていたのに対し貯蔵穴Ｂからの遺物の出土は認められない。**貯蔵穴Ａ**：長軸0.95m／短軸0.66m／床面からの深さ88㎝。間仕切り１との間に凸堤が確認される。長さ0.94m／幅0.20m／床面からの高さ11㎝。**貯蔵穴Ｂ**：長軸0.63m／短軸0.53m／床面から

の深さ59㎝。北側から西側にかけてＬ字状の凸堤が確認される。長さ1.36m／幅0.20m／床面からの高さ１㎝。**柱穴**：５本（主柱穴４本、入口施設１本）が確認された。主柱穴（P１～４）は住居隅の対角線上に４本配置される構成となる。主柱穴の長軸22～29㎝／短軸20～28㎝／床面からの深さ29～63㎝。**入口施設**：馬蹄状の凸堤に囲まれる形で南側で１本（P５）確認された。P５は長軸24㎝／短軸20㎝／床面からの深さ12㎝。凸堤は、上幅0.15～0.30m／下幅0.25～0.55m／床面からの高さ２～４㎝。

［覆　　土］　32層に分層される。住居中央上層付近において自然堆積の層序を示している。

［遺　　物］　土師器高坏・坏・壺・甕・甑形土器の265点、土製品（支脚）２点、石製品（編物石・砥石）２点、炭化材等が出土した。遺物は住居北東部に集中する他、南西部にも比較的多く見られる。特に貯蔵穴とカマド周辺からは土師器甕形土器、住居南西部から土師器坏形土器が多数出土している。14は壁溝から、16はカマド内の支脚（28）の上から、15・23・27はカマドと貯蔵穴の間より、上から甑（27）、小型甕（15）、長甕（23）の順で重なり合って出土した。21は貯蔵穴の覆土中から、17・19・20・21・26は貯蔵穴Ａの西側から南側にかけてＬ字状に配された状態で出土し、22はカマド焚口から出土した。なお、出土した炭化材19点・炭化種実４点について樹種同定を行い、炭化材はコナラ属コナラ節・クヌギ節、炭化種実については桃核であることが判明している。また、炭化材１点について放射性炭素年代測定を行い、５世紀前半～６世紀中頃の歴年代を得ている。詳細は付編参照。

［時　　期］　古墳時代後期（６世紀中葉）。

［遺　　物］　（第30～32図、図版15－２・16・17・18－１、第６表）

［土　　器］　（第30・31図１～27、図版15－２・16・17－１～27、第６表）

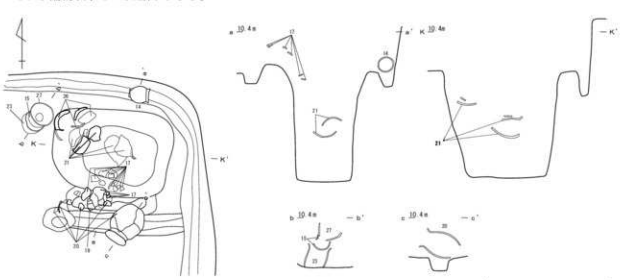
１～12は土師器坏形土器、13は土師器壺形土器、14～24は土師器甕形土器、25は土師器不明品の脚部、26・27は土師器甑形土器である。

［土 製 品］　（第32図28・29、図版17－28・29、第６表）

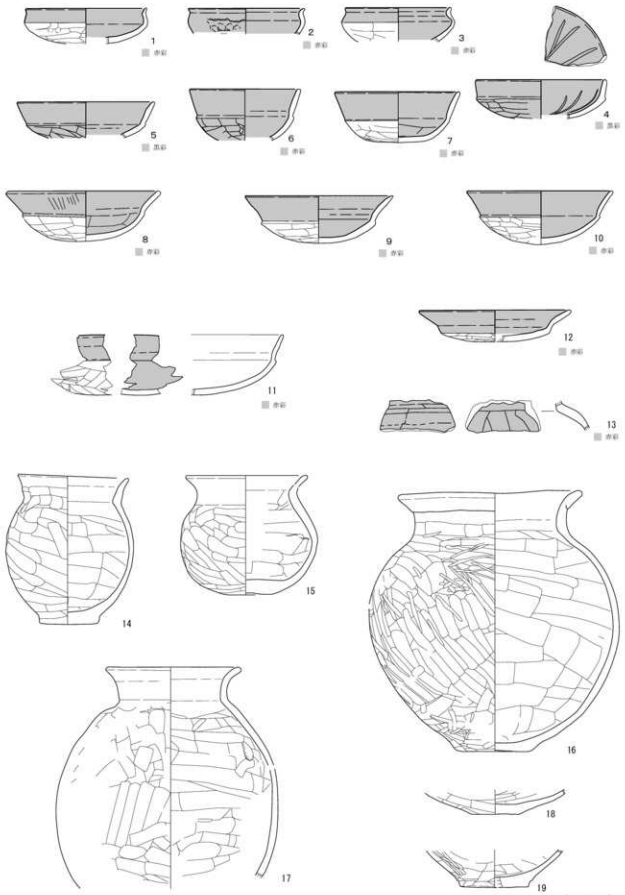
28・29は土製品の支脚である。28はカマド中央部からの出土である。

［石 製 品］　（第32図30・31、図版18－１－30・31、第６表）

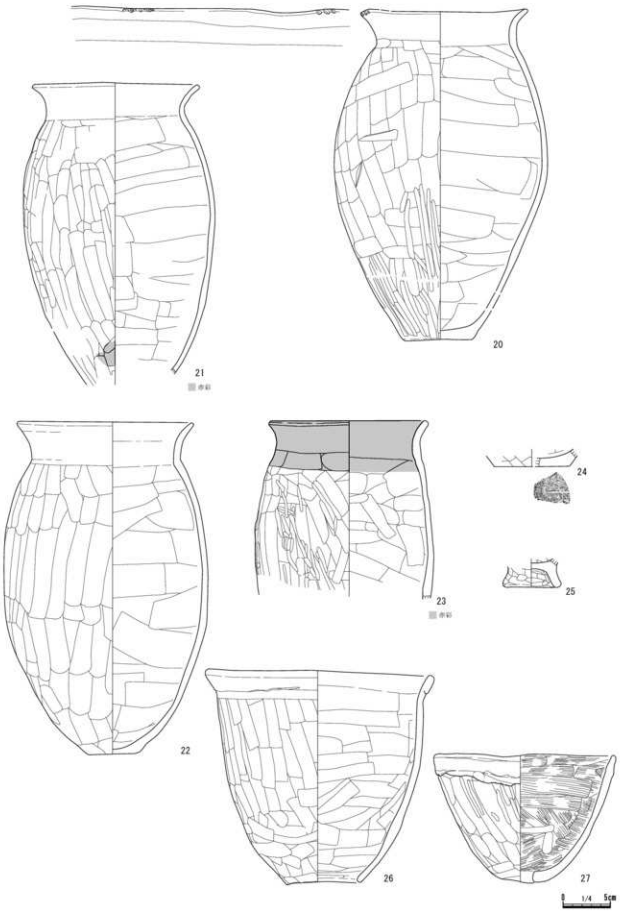
30は編物石、31は砥石である。



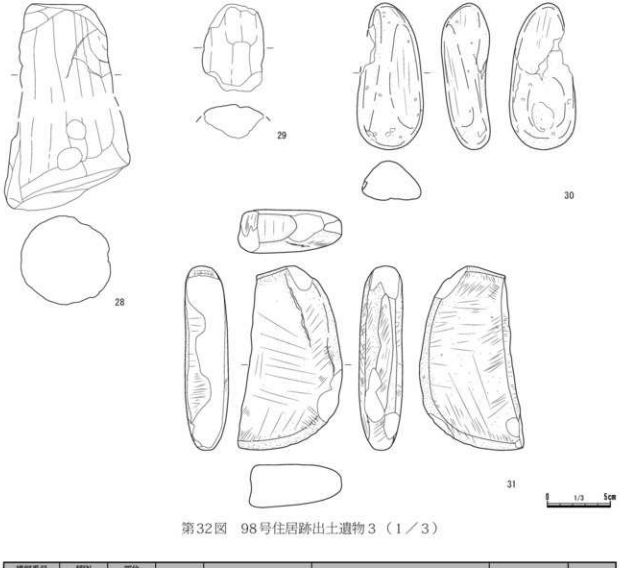
第29図　98号住居跡遺物出土状態２（１／30）



第30図　98号住居跡出土遺物１（１／４）



第31図　98号住居跡出土遺物２（１／４）



第32図　98号住居跡出土遺物３（１／３）

神図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第30図1 図版15-2-1	土師器 坏	口縁部～ 底部下半 30％	口（12.8） 高［3.7］	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／口縁部と底部の境に丸みを帯びた稜を有する／内面及び口縁部外面はヘラ磨／人黒系土師器	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り後ナデ	にぶい赤褐色／長石・チャート・砂粒	凸堤北側の覆土
第30図2 図版15-2-2	土師器 坏	口縁部～ 体部中位 10％	口（12.0） 高［2.8］	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／口縁部と底部の境に丸みを帯びた稜を有する／内面及び口縁部外面ヘラ磨	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ磨き調整。口縁と底部の境に連続する指頭押圧痕	にぶい褐色／チャート・白色粒子（焼砕後の被熱により胎土色不明）	覆土
第30図3 図版15-2-3	土師器 坏	口縁部～ 体部下半 20％	口（11.0） 高［3.6］	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／口縁部と底部の境に強く屈曲する稜を有する／内面及び口縁部外面ヘラ磨	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り後、ナデ	褐灰色／石英・長石・砂粒	カマド東側の覆土
第30図4 図版15-2-4	土師器 坏	口縁部～ 底部下半 20％	口（13.6） 高［4.2］	有段坏／口縁部は直立する／口縁部と底部の境に段を有する／内外面黒彩	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ後、放射状暗文／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り	にぶい橙色／石英・長石・白色粒子・砂粒	中央部の覆土
第30図5 図版15-2-5	土師器 坏	口縁部～ 底部下半 20％	口（14.4） 高［3.8］	有段坏／口縁部は直線的に外傾し、大きく開く／口縁部と底部の境に段を有する／内外面黒彩	内面：口縁部横ナデ、以下横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラ削り	灰褐色／長石・チャート・赤色粒子	間仕切り３北東側覆土
第30図6 図版15-2-6	土師器 坏	口縁部～ 底部下半 30％	口（11.6） 高［11.9］	有段坏／口縁は直線的に外傾する／口縁部を底部の境に明瞭な段を有する／内外面赤彩、放行痕	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り	明赤褐色／石英・砂粒・白色粒子	西南部コーナーの床面・覆土から散在的
第30図7 図版15-2-7	土師器 坏	30％	口（13.0） 高　5.4	有段坏／口縁部は直線的に外傾し、内面が中や肥厚する／口縁部と底部の境に弱い段を有する／内面及び口縁部外面赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	橙色／石英・チャート・角閃石・白色粒子・砂粒	中央部の床面・覆土から散在的

第６表　98号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第30図8 図版15-2-8	土師器 坏	60%	口15.6 高 5.4	有段坏／口縁部は直線的に大きく外傾する／口縁部と底部の境に段を有する／内面及び口縁部外面赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部縦位ハケ目調整後、横ナデ、以下横位ヘラ削り	にぶい黄橙色／チャート・砂粒・白色粒子	カマドの覆土から散在的
第30図9 図版16-9	土師器 坏	40%	口(15.4) 高［5.0］	有段坏／口縁部は直線的に外傾する、口縁部と底部の境に段を有する／内面と口縁部外面に赤彩／口縁部から底部上位にかけ煤ける	内面：口縁部横ナデ、以下ヘラナデ・ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り	明赤褐色／底：にぶい橙色／長石・チャート・砂粒	中央部のやや北側の覆土
第30図10 図版16-10	土師器 坏	40%	口(15.3) 高 15.7	有段坏／口縁部は直線的に外傾する／口縁部と底部の境に明瞭な段を有する／内面及び口縁部外面赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラ削り後、一部ヘラ磨き状のナデ	にぶい橙色／石英・チャート・白色粒子・砂粒	間仕切り３床面直上から散在的
第30図11 図版16-11	土師器 坏	20%	高［6.4］	有段坏／口縁部は直線的に外傾／口縁部と底部の境に段をもつ／内面及び口縁部外面赤彩	内面：口縁部横ナデ以下、ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下ヘラ削り後、ナデ	明赤褐色／砂粒・白色粒子・褐色粒子	南西側コーナーの床面・覆土から散在的
第30図12 図版16-12	土師器 坏	口縁部～底部下半 50％	口15.8 高［3.3］	有段坏／口縁部は直線的に大きく外傾する／底部は偏平／口縁部と底部の境に段を有する／内底面の中央部分と外面の底面を除き赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	にぶい赤色／底：暗赤灰色／石英・砂粒	凸堤北側の覆土から散在的
第30図13 図版16-13	土師器 壺	頸部下位～肩部上半 破片	高［3.2］	頸部は直立し肩部は強く張り出す／内外面赤彩／在地系	内面：頸部横ナデ、体部縦位ヘラナデ／外面：頸部横ナデ、体部横位ヘラ削り後、ナデ／体部外面の器壁剥落著しい	明赤褐色／長石・石英・チャート・白色粒子	P3南側の覆土
第30図14 図版16-14	土師器 甕	完形	口11.5 高15.9 底 4.5	頸部はやや外傾し、口縁部でわずかに外へ開く／胴部は丸みを持ち、中位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、頸部から胴部横・斜位ナデ、一部磨き状となる	暗赤褐色／石英・チャート・白色粒子・茶褐色粒子	北東側コーナーの床面
第30図15 図版16-15	土師器 甕	80%	口(12.5) 高［12.7］ 底 4.7	口縁部は直線的に強く外傾する／胴部は球状／底部中央部はやや凹む／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラナデ（削り気味の部分もあり）／底部周辺ヘラ削り、底部中央部は無調整	灰黄褐色／石英・チャート・赤褐色粒子	カマド及びカマド東側の覆土から散在的
第30図16 図版16-16	土師器 甕	80%	口18.8 高27.6 底 7.0	複合口縁／頸部は直立し、口縁部は強く外傾／胴部は中位で最大径を測り、強く張り出す／在地系	内面：口縁部は横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下上位縦・斜位ヘラナデ、下位ヘラ削り、部分的に幅２～６㎜のヘラ磨き調整	にぶい黄橙／石英・チャート・長石・白色粒子・砂粒	カマドの覆土支脚(28)、上から散在的
第30図17 図版16-17	土師器 甕	口縁部～胴部下半 40％	口 13.6 高［23.4］	頸部は直立～やや外傾し、口縁部は強く外傾する／胴部は中位で最大径を測る／内面に薄い粘土を楕円形に貼付した箇所あり／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下頸部横位ヘラナデ、胴部上半ヘラナデ、下半斜・横位ヘラ削り	暗赤褐色／チャート（赤色系多量）・褐色粒子	貯蔵穴Ａの覆土から散在的
第30図18 図版16-18	土師器 甕	胴部下位～底部 破片	高［2.6］ 底 5.0	胴部は底面から大きく張り出す／底面は平底／在地系	内面：斜位ヘラナデ／外面：斜位ヘラ削り後、ナデ	にぶい橙色／石英・チャート・砂粒	東側壁付近の覆土
第30図19 図版16-19	土師器 甕	胴部下位 破片	高［4.0］ 底 7.0	胴部はやや内湾しつつ大きく外傾する／底面は平底／在地系	内面：ヘラナデ／外面：横・斜位ヘラ削り後、一部縦位ヘラ磨き調整	にぶい橙色／チャート多量、石英・赤色粒子・砂粒	貯蔵穴Ａ及び間仕切り１の覆土から散在的
第31図20 図版16-20	土師器 甕	ほぼ完形	口17.2 高35.1 底 7.0	頸部は直立し、口縁部は外反する／口縁部はゆがむ／口唇端部に丸棒状工具による押圧痕がみられ、対向する口唇部にも連続した押圧が施される／胴部中位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラ削り後、一部横位ヘラ削り、胴下部に集中的にヘラ磨き調整を施す	にぶい橙／石英・チャート・砂粒	貯蔵穴Ａ南側を中心に床面から散在的
第31図21 図版17-21	土師器 甕	口縁部～胴部下半 60％	口 17.2 高［31.8］	口縁部は強く外反する／胴部中程で最大径を測る／胴部下位にベンガラ状の赤彩痕あり／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ､以下底部方向からのヘラ削り（一部スリップか）	にぶい橙色／石英・チャート・砂粒多量	貯蔵穴Ａ及び間仕切り４の覆土から散在的
第31図22 図版17-22	土師器 甕	口縁部～底部 90％	口18.4 高35.2 底 4.8	頸部はやや外傾し、口縁部でさらに外傾する／胴部中位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口唇直下と頸部下端にやや強い横ナデ、他は横ナデ、以下上半は縦位ヘラナデと一部横位ヘラナデ、下半は縦位ヘラ削りと一部ヘラナデ	にぶい橙色／石英・角閃石・チャート・砂粒多量	カマド覆土
第31図23 図版17-23	土師器 甕	口縁部～胴部中位 50％	口 16.3 高［18.6］	口縁部はゆるやかに外反する／口縁部端面は面取りされ、弱い沈線が見られる／胴部中位で最大径を測る／口縁部から頸部直下（横ナデ部分）と内面上位に赤彩／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラ削り後、縦ナデ（一部細かいハケ目も残る）､部分的に幅４・５㎜のヘラ磨き調整	灰褐色／石英・長石・チャート・白色粒子	カマド東側の床面
第31図24 図版17-24	土師器 甕	底部 10％	高［1.8］ 底(8.0)	胴部はやや丸みをもって、直線的に立ち上がる／底面に木葉痕／在地系	内面：斜位ヘラナデ／外面：斜位ヘラ削り	にぶい橙色／角閃石・長石・砂粒	貯蔵穴の覆土
第31図25 図版17-25	土師器 不明	脚部 10％	高［3.2］ 底 5.3	脚部は短くわずかに外反する／体部は欠損しているが、残存部の調整から袋状の体部をもつと思われる／在地系	内面：ヘラ削り後、裾部のみ横ナデ、底面は粗いヘラ削り／外面：ヘラ削り後、裾部のみ横ナデ	橙色／石英・チャート・長石・白色粒子・砂粒	P1南側の覆土
第31図26 図版17-26	土師器 甑	ほぼ完形	口23.5 高22.9 底 7.7	筒抜け式／複合口縁／口縁部は直線的に外傾する／胴部は丸みをもって底部へ至る／在地系	内面：口縁部は横ナデ、以下横位ヘラナデ後、中部に斜位ヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下縦位ヘラ削り後、下部に斜・横位ヘラ削り	にぶい褐色／チャート・長石・石英・砂粒	貯蔵穴の覆土から散在的

第６表　98号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧（２）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第31図27 図版17-27	土師器 甕	完形	口18.4 高13.7	筒抜け式／複合口縁／一部施いナデにより折り返し肥を消す／胴部は底縁的で逆三角形を呈する／在地系	内面：横位ヘラナデ（先端がさざくれ状を呈する痕文様）施ナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部は斜位ヘラナデ（成形時は横位ヘラ削り・ナデ）／底部周辺は横位ヘラ削り	にぶい黄褐色／石英・チャート・長石・赤褐色粒子	カマド東側の覆土

挿図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第32図28 図版17-28	土製品 支脚	[16.4]	9.6	7.0	961.5	上端は平坦、下端は斜めいびつな円柱形／断面は円形／外面に縦ナデと指頭による成形痕が見られる／にぶい褐色／砂粒・褐色粒子・白色粒子／遺存度95％	カマドの覆土下層
第32図29 図版17-29	土製品 支脚	[6.9]	4.9	[2.2]	68.5	柱状の基部の一部／外面は粗い縦ナデ／橙色／砂粒・褐色粒子・白色粒子	カマドの覆土下層

挿図番号 図版番号	種別 器種	石材	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第32図30 図版18-1-30	石製品 編物石	凝緑岩	11.6	5.2	3.2	258.0	断面三角形の縦長礫を使用／各面敲打かで薄く擦痕が残る／下端は被熱により赤化	中央部の覆土中層
第32図31 図版18-1-31	石製品 鍋石	砂岩	14.6	8.3	3.4	586.0	偏平な円形礫の半割れを利用／表裏面と割れ口含む側面全てに敲痕が残る／全体が被熱により赤化	中央部の覆土中層

第６表　98号住居跡出土土器・土製品・石製品一覧（３）

99号住居跡

遺　構　（第33～36図）

［位　置］　（G－３・４・５、H－４）グリッド

［検出状況］　101Hを切り、648D、６Pに切られる。全体的に耕作による攪乱の影響を受けており、床面にまで及んでいる。住居南側１／２程が調査区外へと広がっている。

［構　造］　**平面形**：方形。**規模**：南北軸現況4.57m／東西軸5.66m／確認面からの深さ47㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N－23°－W。**壁溝**：カマドを除き調査区内を全周している。北側壁溝のカマド西寄りと西側壁溝において、工具痕と思われる凹凸が認められる。上幅現況16～32㎝／下幅現況４～10㎝／床面からの深さ16㎝。**床面**：硬化面はカマド周辺と主柱穴で囲まれた範囲を中心に確認された。厚さ２～10㎝の貼床が施される。間仕切りが住居北西で３か所確認された。P２へ延びる間仕切１は、長さ1.06m／幅0.25m／床面からの深さ24㎝。P２へ延びる間仕切２は、長さ0.65m／幅0.22m／床面からの深さ13㎝。カマド西袖に平行して延びる間仕切３は、長さ0.65m／幅0.15m／床面からの深さ12㎝。**カマド**：北辺中央で確認されたが耕作の影響を大きく受けている。天井部は既に崩落している。長軸現況1.08m／短軸0.97m／確認面からの深さ47㎝。**貯蔵穴**：住居北東隅、カマド東寄りで確認された。長軸1.15m／短軸0.84m／床面からの深さ91㎝。**柱穴**：２本（主柱穴２本）確認される。主柱穴（P１・２）は住居隅の対角線上に４本配置されたと推察される。主柱穴は長軸44㎝／短軸現況36㎝／床面からの深さ74～89㎝。**入口施設**：調査区内では検出されなかった。

［覆　土］　28層に分層される。

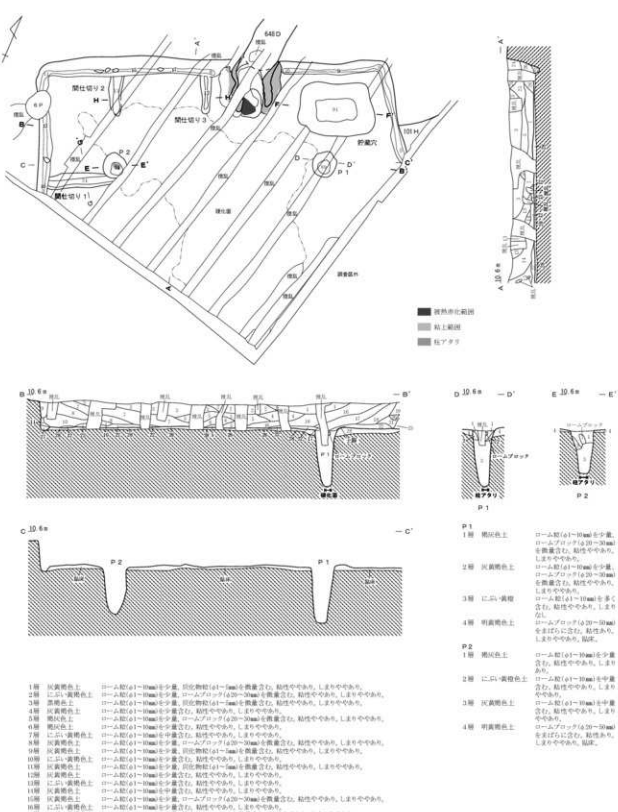
［遺　物］　土師器157点が出土した。貯蔵穴とカマド東側周辺から多く出土している。３・14・16・17～19はカマド西側からまとまって出土し、11・14・18は貯蔵穴南東側から並んで出土した。１・２・４・20はP１の上部から出土し、特に１・２は入れ子の状態であった。21は貯蔵穴の中～下位より出土した。

［時　期］　古墳時代後期（６世紀中葉）。

遺　物　（第37～39図、図版18－２・19、第７表）

［土　器］　（第37～39図１～21、図版18－２－１～13・19－14～21、第７表）

１～10は土師器坏形土器、11～19は土師器甕形土器、20・21は土師器甑形土器である。



1層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
2層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やあり、しまりややあり。
3層	黒褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
4層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
5層	褐灰色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
6層	褐灰色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
7層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
8層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
9層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
10層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
11層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、炭化物粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
12層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
13層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
14層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
15層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
16層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
17層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量、焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
18層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
19層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
20層	褐灰色土	ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
21層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
22層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
23層	にぶい黄褐色土	ローム土を多量含む。粘性やややあり、しまりややあり。
24層	褐灰色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
25層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
26層	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を多く含む。粘性ややあり、しまりややあり。
27層	黒褐色土	ローム土を多量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
28層	明黄褐色土	ロームブロック(φ20～30mm)をまばらに含む。粘性あり、しまりややあり。粘床。

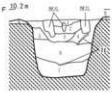
P 1

1層	褐灰色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
2層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
3層	にぶい黄橙	ローム粒(φ1～10mm)を多く含む。粘性ややあり、しまりない。
4層	明黄褐色土	ロームブロック(φ20～30mm)をまばらに含む。粘性あり、しまりややあり。粘床。

P 2

1層	褐灰色土	ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
2層	にぶい黄橙色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
3層	灰黄褐色土	ローム粒(φ1～10mm)を中量含む。粘性ややあり、しまりややあり。
4層	明黄褐色土	ロームブロック(φ20～30mm)をまばらに含む。粘性あり、しまりややあり。粘床。

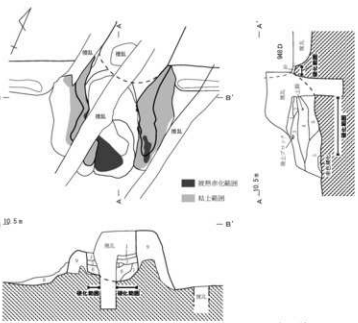
第33図　99号住居跡１（１／60）



1層　にぶい黄橙色土　焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
2層　にぶい黄橙色土　焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
3層　にぶい黄橙色土　焼土粒(φ1～5mm)を少量、ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
4層　にぶい黄橙色土　焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
5層　灰黄褐色土　焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
6層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
7層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
8層　明黄褐色土　ロームブロック(φ20～50mm)をまばらに含む。粘性あり。しまりややあり。粘床。

関仕切り1・2・3
1層　にぶい黄橙色土　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりややあり。
2層　明黄褐色土　ロームブロック(φ20～50mm)をまばらに含む。粘性あり。しまりややあり。粘床。

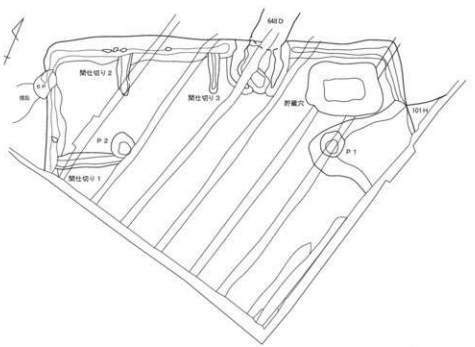
0　1/60　2m



カマド

1層　にぶい黄橙色土　粘土粒・焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
2層　にぶい黄橙色土　焼土粒(φ1～10mm)を少量、焼土ブロック(φ20～30mm)・粘土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
3層　灰白色土　焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
4層　暗灰色土　焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
5層　にぶい黄橙色土　焼土粒(φ1～10mm)を微量、粘土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
6層　暗灰色土　焼土粒(φ1～5mm)を少量、焼土ブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
7層　灰白色土　焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
8層　灰白色土　焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
9層　灰黄褐色土　粘土粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
10層　明黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。

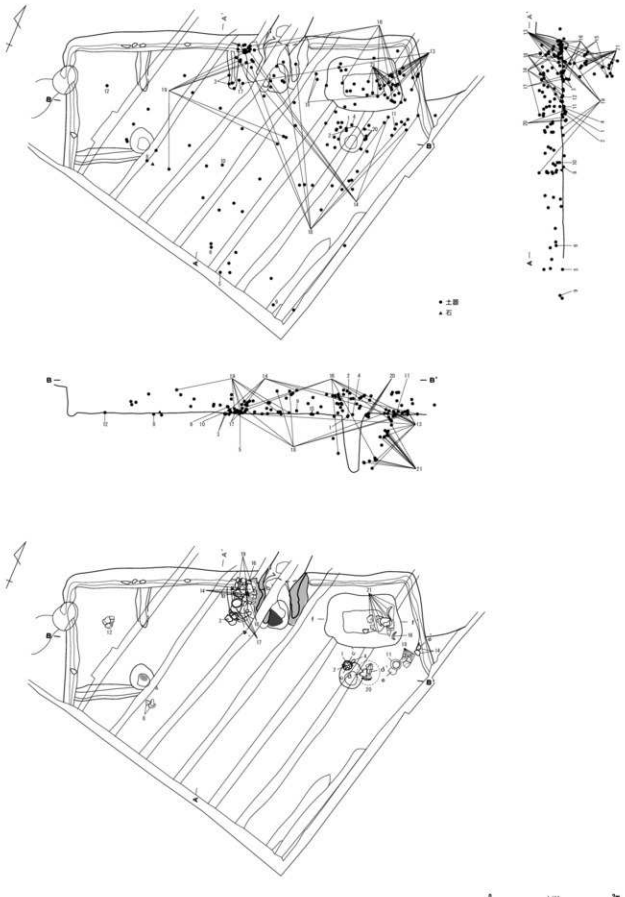
0　1/30　1m



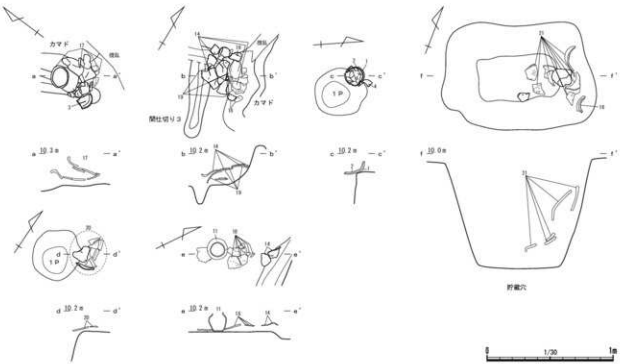
掘り方

0　1/60　2m

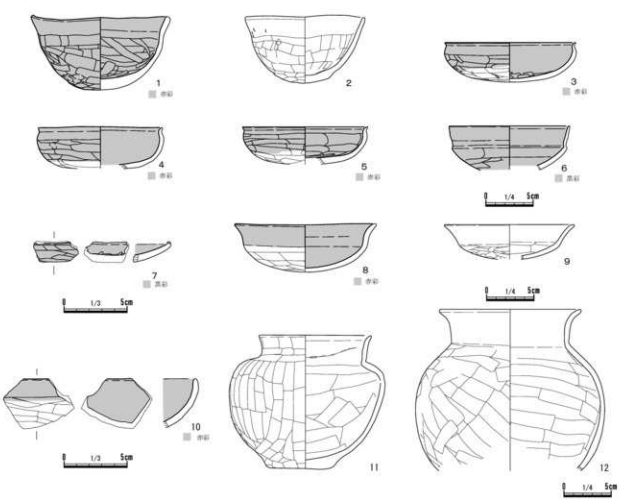
第34図　99号住居跡２（１／60・１／30）



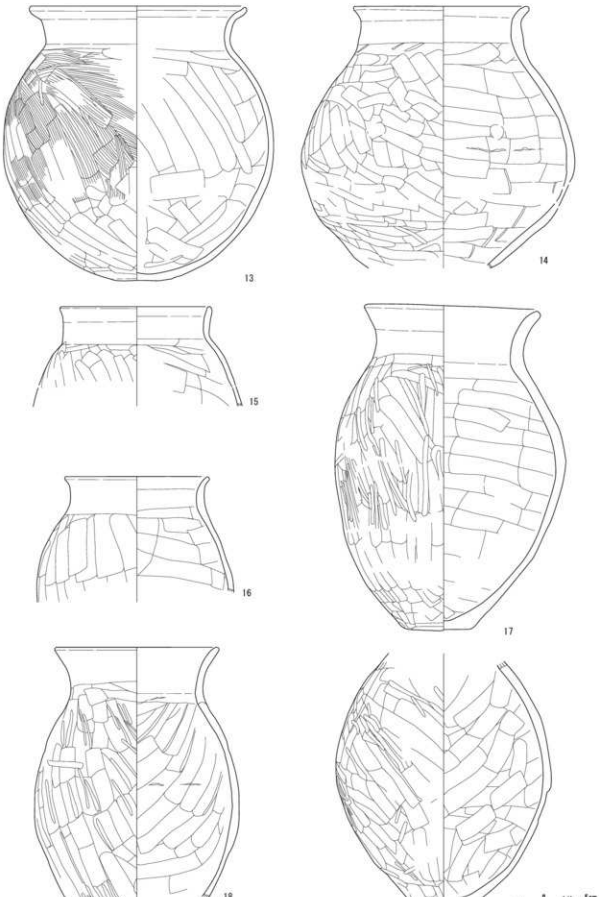
第35図　99号住居跡遺物出土状態１（１／60）



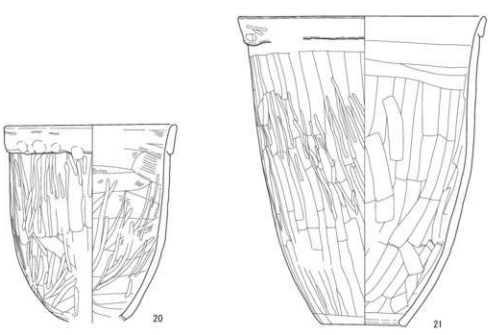
第36図　99号住居跡遺物出土状態２（１／30）



第37図　99号住居跡出土遺物１（１／４・１／３）



第38図　99号住居跡出土遺物２（１／４）



第39図　99号住居跡出土遺物３（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第37図1 図版18-2-1	土師器 坏	完形	口 14.2 高 7.9	深身タイプ／口縁部は直線的に外傾する／口縁部から底部へゆるやかに移行する体部は半球状の丸みをもつ／内外面赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下横ナデ後、斜ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜ナデ、底部周辺に連続する指頭押圧痕	にぶい黄橙色／石英・チャート・長石・小石・褐色粒子	P1 覆土
第37図2 図版18-2-2	口縁～体部下半 ほぼ完形	口 12.4 高 7.1	深身タイプ／口縁から底部へゆるやかに移行する／体部は半球状の丸みをもつ	内面：口縁部は横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下横位ヘラ削り後、横ナデ／体部から底部への境目に強い横ナデを強し段状を呈する／底部は粗いヘラ削り	灰黄褐色／石英・長石・チャート・砂粒	P1 覆土
第37図3 図版18-2-3	土師器 坏	7/8	口（13.8） 高 4.2	いわゆる比企型坏／口縁部は器壁薄く、短く外反する／口縁部と底部の境はあまりもつ／内面及び外面口縁部から底部にかけてホボ、底部外面の一部にも小範囲のホボが見られる／入間系土師器	内面：横ナデ、底面にヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部はヘラ削り後、粗いヘラナデ	明ホ褐色／長石・チャート・白色砂粒・石英	間仕切り３の床面直上
第37図4 図版18-2-4	土師器 坏	口縁部～底部下半 15%	口（13.0） 高［4.5］	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／口縁部から底部へかけ丸みをもつ／内面及び口縁部から底部外面ホボ／入間系土師器	内面：口縁部横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	ホ色／チャート・長石・砂粒	P1 覆土
第37図5 図版18-2-5	土師器 坏	口縁部～底部下半 25%	口（13.2） 高［4.0］	いわゆる比企型坏／口縁部は短く外反する／口縁部から底部へ丸みをもつ／入間系土師器	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラ削り	ホ褐色／長石・チャート・砂粒	南側の床面直上
第37図6 図版18-2-6	土師器 坏	口縁～体部下半 15%	口（12.8） 高［4.6］	有段坏／口縁部と底部との境に段をもつ／口縁部は外傾する／内外面黒彩	内面：口縁部横ナデ、以下斜・縦のナデ後比横ナデ／外面：口縁下部は段作出後、丸棒状工具による横ナデのため北端状を呈する、以下ヘラ削り、ナデがヘラ磨き状になっている	暗褐色／長石・チャート・白色粒子	南側の覆土
第37図7 図版18-2-7	土師器 坏	底部 破片	高［1.6］	有段坏／口縁部と底部の間に段を有する／口縁部は欠失／内外面黒彩	内面：横ナデ、内底面に放射状暗文／外面：横位ヘラ削り	褐灰色／白色粒子・砂粒	覆土
第37図8 図版18-2-8	土師器 坏	4%	口（14.7） 高［5.1］	有稜坏／口縁部は外反する／口縁部と底部の間に弱い稜をもつ／内面及び口縁部外面は赤彩	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横の直下は弱い横ナデ、その下部は横位ヘラ削り	明赤褐色／石英・長石・チャート・砂粒	P2北側床面
第37図9 図版18-2-9	口縁部～底部 30%	口（13.5） 高［3.7］	有稜坏／口縁部は大きく外反する／口縁部と底部の間に稜を持つ／口縁部に浅い沈線がめぐる／小鈴型坏	内面：口縁部横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位のヘラ削り	にぶい橙色／角閃石・白色砂粒・赤色粒子	南側調査区コーナーの覆土
第37図10 図版18-2-10	土師器 坏	口縁部～底部中位 破片	高［4.0］	口縁部は直立し、体部は内湾する／口縁部と底部の境に稜をもたない／内面と口縁部外面赤彩	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位のヘラ削り	にぶい黄橙／チャート・白色粒子	中央部の覆土中～下層

第７表　99号住居跡出土土器一覧（１）

神図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第37図11 図版18-2-11	土師器 甕	完形	□11.6 高14.2 底 5.7	□縁部は短く、僅かに外傾する／肩部は強く張り出し、胴部はれみのある逆三角形状で底部へ至る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横・斜位のヘラナデ／外面：口縁部横位ヘラナデ、胴部上位から下部斜位のヘラ削り／底部周辺：横位ヘラ削り	にぶい橙色／石英・チャート・砂粒・長石	貯蔵穴南側の床面
第37図12 図版18-2-12	土師器 甕	口縁部～胴部下半 30％	□ 14.6 高[17.3]	頸部は僅かに外傾し、口縁部で強く外反する／胴部中位で最大径を測る／外面煤付着／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横・斜ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位のヘラ削り後、ナデ	にぶい橙色／石英・チャート・長石・角閃石・白色粒子	西側コーナーの床面直
第38図13 図版18-2-13	土師器 甕	70％	□22.7 高29.6 底 6.0	頸部はやや外傾し、口縁部は内傾しつつ強く外傾する／胴部中位で最大径を測る／底部外面に円形の粘土貼付／在地系	内面：口縁部横ナデ、口縁部直下は横ナデ、以下縦・横ナデ、境目が不明瞭ながら丁寧なナデ部分あり／外面：上～中位はハケ目調整、中～下位は斜位のヘラ削り後、ナデ	にぶい黄橙色／チャート・褐色粒子・砂粒	貯蔵穴近辺の覆土から散在的
第38図14 図版19-14	土師器 甕	口縁部～胴部下半 60％	□ 18.3 高[27.7]	頸部は直立し、口縁部は外傾する／胴部はイチジク形を呈し、下位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部は横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下上半横・斜位ヘラ削り、下半横位ヘラ削り／主に下半に輪状の強いナデを施し、磨き調の光沢をもつ	にぶい橙色／石英・長石・チャート・金雲母・角閃石	間仕切り３及び力マド近辺・貯蔵穴南側の床面・覆土から散在的
第38図15 図版19-16	土師器 甕	口縁部～胴部上半 10％	□ 15.7 高[10.3]	口縁部はほぼ直立し、口唇部の一部は玉縁状／胴部はゆるやかに張り出す／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位ヘラナデとハケナデ	にぶい黄橙色／石英・角閃石・長石・チャート・砂粒	貯蔵穴西側の床面
第38図16 図版19-16	土師器 甕	口縁部～胴部上半 20％	□ 15.5 高[13.3]	頸部は直立気味で、口縁は外傾する／胴部はゆるやかなふみを帯び、ゆがむ／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下横ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラナデ後、ナデ	にぶい褐色／石英・長石・砂粒	貯蔵穴の覆土から散在的
第38図17 図版19-17	土師器 ほぼ完形		□17.9 高34.4 底 7.9	口縁部から頸部はゆるやかに外反する／胴部はいびつで、中位の一部がわん張りだす／胴部中位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラ削り後、横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラ削り後、縦・斜位のヘラナデ（スリップか）	にぶい黄橙色／石英・チャート・砂粒・褐色粒子	カマド西側の覆土
第38図18 図版19-18	土師器 甕	胴部下半 破片	□ 17.0 高[27.5]	口縁部頸部はやならりに外反する／胴部中位で最大径を測る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下斜位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下縦位ヘラ削り後、ナデ（強いナデ部分はヘラ磨き状）	にぶい黄橙色／長石・チャート・黄褐色粒子	カマド周辺及び貯蔵穴北側の覆土から散在的
第38図19 図版19-19	土師器 甕	体部上半～底部 破片	高[27.0] 底 6.4	胴部はゆるやかな丸みをもって底部に至る／口縁部欠損／胴部中位で最大径を測る／在地系	内面：上～中位は斜・下位は縦位ヘラ削り／外面：上～中位は斜・下位は縦位ヘラ削り、さらに斜位のヘラ磨き、胴部中～下位にかけ粘土の剥ぎれ痕が見られる	にぶい褐色／石英・チャート・長石・小石	カマド及び中央部の床面直・覆土から散在的
第39図20 図版19-20	土師器 甕	口縁部～底部 75％	□ 17.7 高[20.9]	筒抜け式とみられる／複合口縁／口縁部、折り返して下部に指頭押圧による成形痕／在地系	内面：横位ハケ目調整後、横ナデ、主に中部にヘラ磨き調整／外面：口縁部横ナデ後、下部に指頭押圧、以下上部に縦位ヘラナデ、下部に斜位ヘラナデ後、両方向のヘラ磨き調整	にぶい褐色／石英・長石・チャート・白色粒子	PI東側の床面
第39図21 図版19-21	土師器 甕	70％	□25.8 高32.6 底 8.7	筒抜け式／複合口縁／胴部は中位で張る／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下上位下端横ナデ、上～下位は縦位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下口縁直下と下端横ナデ、中～下位縦位ヘラ削り（スリップか）／一部に幅２・３mmのヘラ磨きも加えられる	にぶい橙色／チャート・白色粒子・砂粒	貯蔵穴の覆土から散在的

第７表　99号住居跡出土土器一覧（２）

100号住居跡

遺　構　（第40図）

［位　置］　（Ｈ－２）グリッド

［検出状況］　北壁中央カマド付近のみが検出され、その他は調査区外へと広がる。

［構　造］　**平面形**：方形と推察される。**規模**：南北軸現況1.27m／東西軸現況2.00m／確認面からの深さ58cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：カマドから想定するとＮ－Ｓ。**壁溝**：カマドを除き調査区内は確認された。上幅現況19～22cm／下幅現況10cm／床面からの深さ10cm。**床面**：硬化面は確認されなかった。厚さ２～６cmの貼床が施される。間仕切りがカマド西側で１か所確認された。長さ0.65m／幅0.20m／床面からの深さ８cm。**カマド**：北壁中央と想定される位置で確認された。天井部は崩落していた。袖部分はローム層の掘り残しのため基部がわずかに残存する。長軸現況1.20m／短軸0.65m／確認面からの深さ46cm。**貯蔵穴**：調査区内では検出されなかった。**柱穴**：調査区内では検出されなかった。**入口施設**：調査区内では検出されなかった。

［覆　土］　12層に分層される。床面直上及び下層において５cm程度の粘土ブロックが認められる。

［遺　　物］　土師器坏・甕形土器の７点、鉄製品（釘）３点が出土した。

［時　　期］　古墳時代後期（６世紀中葉）。

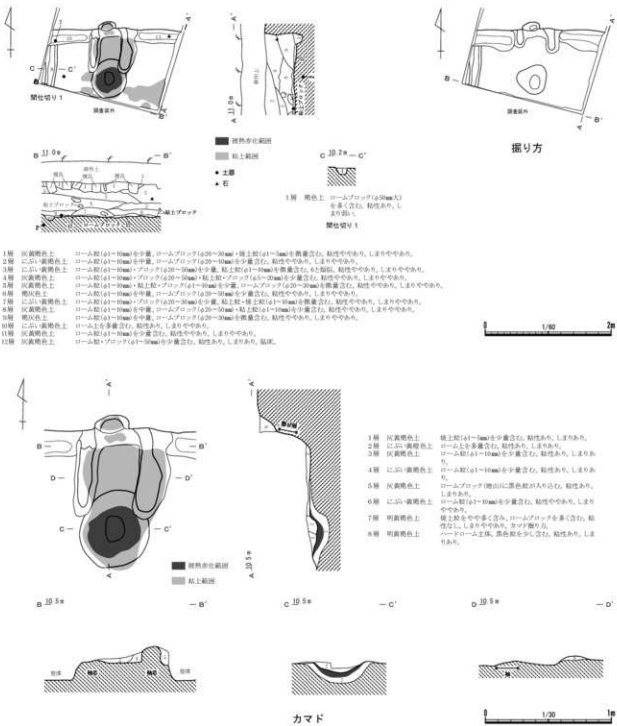
遺　物　（第41図、図版20－１、第８表）

［土　　器］　（第41図１・２、図版20－１－１・２、第８表）

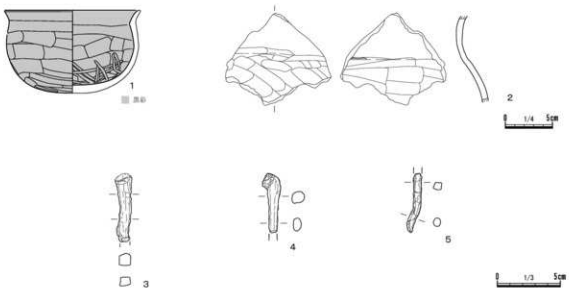
１は土師器坏形土器、２は土師器甕形土器である。

［鉄 製 品］　（第41図３～５、図版20－１－３～５、第８表）

３～５は鉄製品の釘である。



第40図　100号住居跡（１／60・１／30）



第41図　100号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第41図1 図版20-1-1	土師器 坏	70%	口（14.2） 高［8.8］	口縁部は短く外反し、胴部は半球状で丸底に至る／内外面摩耗	内面：口縁部内外面横ナデ、以下内面横位ヘラナデ後、幅１～４mmのヘラ磨き調整／外面：横位ヘラ削り後、ナデ、一部にヘラ磨き調整	暗灰色／石英・チャート・白色粒子	覆土
第41図2 図版20-1-2	土師器 甕	胴部～ 肩部上半 破片	高［9.2］	胴部はゆるやかに外反し、肩部はれみをもつ／内面口縁部と外面全体が黒い赤褐色（一部橙色）で、赤彩の可能性もある／在地系土師器	内面：口縁部横ナデ、以下横位ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、以下斜位のヘラナデ	にぶい褐色／長石・砂粒・赤色粒子	カマド西側 堆積内

挿図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第41図3 図版20-1-3	鉄製品 釘	［5.4］	1.3	0.9	14.0	下端部欠損／頭部は平坦で下方に向かって細くなる／断面は方形／全体に錆付着	覆土
第41図4 図版20-1-4	鉄製品 釘	［4.7］	1.0	1.0	11.2	頭部は折れ曲り、逆Ｌ字形／先端部欠損／上部は断面方形に近く、下部は楕円形に近い形状／頭部中心に全体が錆に覆われる	覆土
第41図5 図版20-1-5	鉄製品 釘	［4.7］	0.7	4.7	0.6	頭部欠損／中位より下で中やや屈曲する／上部の断面は方形、先端部は丸形	覆土

第８表　100号住居跡出土土器・鉄製品一覧

101号住居跡

遺　構　（第42図）

［位　置］（Ｇ－５）グリッド

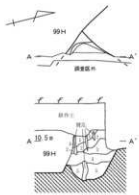
［検出状況］99Hに切られ、北西隅の壁溝付近が検出され、その他は調査区外へと広がる。

［構　造］**平面形**：不明。**規模**：長軸現況0.84m／短軸現況0.43m／確認面からの深さ78㎝。**壁**：不明。**主軸方位**：不明。**壁溝**：壁溝のコーナー部分のみが確認された。上幅現況19～22㎝／下幅現況２～10㎝／床面からの深さ現況10㎝。**床面**：調査区内では検出されなかった。**カマド**：調査区内では検出されなかった。**貯蔵穴**：調査区内では検出されなかった。**柱穴**：調査区内では検出されなかった。**入口施設**：調査区内では検出されなかった。

［覆　土］５層に分層される。

［遺　物］遺物は検出されなかった。

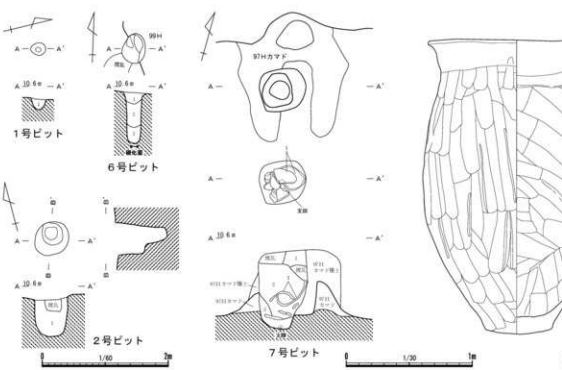
［時　期］重複する99Hとの関係から古墳時代後期（６世紀中葉か）と推察される。



第42図　101号住居跡（１／60）

（3）ピット

古墳時代後期と判断されるピット４本（１・２・６・７P）が確認された。遺物を伴わないピットに



1P
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～5mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややかい。

2P
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性ややあり、しまりややかい。

6P
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、焼土粒(φ5～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を多く含む。粘性あり、しまりややかい。

7P
1層　にぶい黄褐色土　ローム粒・焼土粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性ややかい、しまりややかい。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を中量含む。粘性ややかい、しまりややかい。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)を微量含む。粘性ややかい、しまりややかい。

第43図　古墳時代後期ピット・７号ピット出土遺物（１／60・１／30・１／４）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1P	C-2・D-2	円形	28	20	18	単層	遺物なし	古墳時代後期
2P	F-2	円形	56	50	73	単層／98H・5Pを切る	土師器３点（甕）	古墳時代後期
6P	G-3	楕円形	46	35	85	3層／99Hを切る	遺物なし	古墳時代後期
7P	E-3	隅丸方形	36	32	76	3層／97Hカマドを切る	土師器１点（甕） 土製品１点（支脚）	古墳時代後期

第９表　古墳時代後期ピット一覧

ついても覆土の状況等から古墳時代のピットと判断した。各ピットの詳細については第43図、第９表にまとめ、ここでは97Hカマドを壊す形で内部に土師器甕形土器を伴って確認された７Pについて記述する。

７号ピット

遺　構　（第43図）

[位　置]　（Ｅ－３）グリッド

[検出状況]　97Hカマドを切る。一部撹乱の影響を受ける。

[構　造]　**平面形**：隅丸方形。**壁**：西壁は垂直に、東壁は段を持ちながら立ち上がる。**規模**：長軸36cm／短軸32cm／確認面からの深さ76cm。

[覆　土]　３層に分層される。１層は一部撹乱の影響を受けている。

[遺　物]　土師器甕形土器１点が出土した。

[時　期]　古墳時代後期（６世紀中葉）。

[所　見]　97Hを切って造られ、内部に甕が正位で出土している。97Hの出土遺物との時期差はない。

遺　物　（第43図、図版20－２、第10表）

[土　器]　（第43図１、図版20－２－１、第10表）

１は土師器甕形土器である。口縁部の一部を欠失するもほぼ完形である。

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第43図１ 図版20-2-1	土師器 甕	ほぼ完形	□17.4 高31.2 底 6.9	胴部中位はわずかに膨らみ、口縁部は外反する／胴部の上から３分の２程で最大径を測る／全体にいびつ／底部中央部はえみをもつ／在地系	内面：口縁部横ナデ、以下斜位のハケナデ（上部はハケ目状）／外面：口縁部横ナデ、以下縦位へら削り後、へラナデ（一部はへラ磨き状）	灰褐色／石英・チャート・白色粒子	覆土

第10表　７号ピット出土土器一覧

第３節　中世以降の遺構・遺物

（１）概要

中世以降の遺構は掘立柱建築遺構１棟（３T）・土坑６基（646～651D）・ピット３本（３～５P）、が検出された。掘立柱建築遺構は98Hと重複しており、遺構確認の際はプランが判然としなかった。その後、調査を進めていく段階で掘立柱建築遺構と判断した。

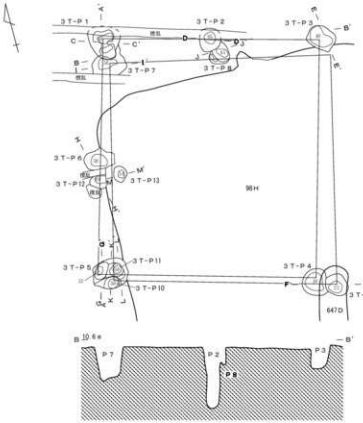
（２）掘立柱建築遺構

３号掘立柱建築遺構

遺　構　（第44・45図）

[位　置]　（Ｆ・Ｇ－２・３）グリッド

[検出状況]　98Hを切って確認される。ピットが重複していることから少なくとも２棟（Ａ・Ｂ）存在すると考えられる。



P1
1層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
2層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
3層　にぶい黄橙色土　ローム土を多量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
4層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりとてもあり。

P2
1層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
2層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱い、しまりなし。

P3
1層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりなし。
2層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりなし。
3層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。

P4・9
1層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
2層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
3層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。

P5
1層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。

P6・12
1層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
2層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～50mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
3層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～50mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
4層　にぶい黄橙色土　ローム土(φ1～10mm)を多量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
5層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を多量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
6層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりなし。

P7
1層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
2層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を中量、ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
3層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
4層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。

P8
1層　にぶい黄橙色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
2層　褐灰色土　　ロームブロック(φ20～50mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
3層　灰黄褐色土　　ロームブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
4層　にぶい黄橙色土　ローム土を多量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。

P11
1層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量、ロームブロック(φ20～30mm)を微量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
2層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりなし。
3層　灰黄褐色土　　ローム粒(φ1～10mm)を多く含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。

P13
1層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
　　98H埋土。
3層　灰黄色土　　ロームブロック(φ10～40mm)をやや多く含む。粘性強い、しまりやや弱、98H埋土。

1/60　2m

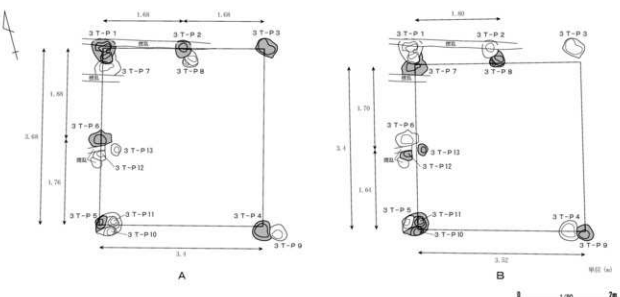
第44図　３号掘立柱建築遺構（１／60）

［構　造］ **平面形**：２間×２間の建物。**規模**：A：南北軸3.68m／東西軸3.40m、B：南北軸3.40m／東西軸3.52m。**主軸方位**：A：N－16°－E、B：N－13°－E。**柱穴**：A（P1～6）：長軸36～47㎝／短軸30～45㎝／確認面からの深さ16～95㎝。B（P7～13）：長軸25～45㎝／短軸21～32㎝／確認面からの深さ22～59㎝。

［遺　物］ 古墳時代の遺物が出土しているが、98Hからの流れ込みによるものと思われる。

［時　期］ 覆土の状況、ピットの形状から中世以降の遺構と判断される。

［所　見］ Bの時期のP10・11、P12・13については形状・覆土の状況から同一の掘立柱建築遺構の柱穴と判断される。また、西列の北側、中央、南側には、最大３本の柱穴が重複ないし近接して確認されていることから、３時期の建替えが行われた可能性も考えられる。



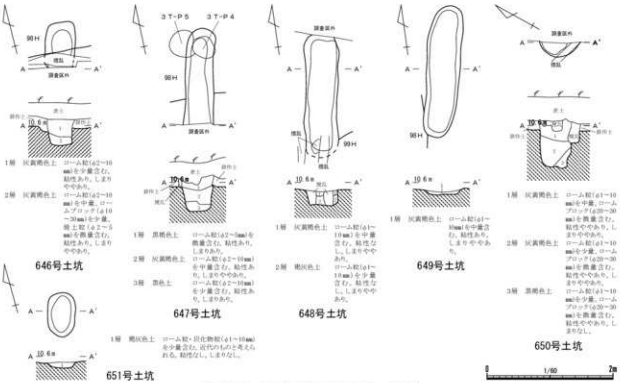
第45図　３号掘立柱建築遺構模式図（１／80）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
3T-P1	F-2・F-3	楕円形か	(41)	45	46	4層／3T-P7を切る／撹乱に切られる	遺物なし	中世以降
3T-P2	F-3	楕円形か	36	(32)	95	2層／3T-P8を切る／撹乱に切られる	遺物なし	中世以降
3T-P3	F-3	隅丸方形	45	35	40	3層／98Hを切る	遺物なし	中世以降
3T-P4	G-3	円形か	44	(42)	16	2層／98Hを切る／3T-5Pに切られる	遺物なし	中世以降
3T-P5	G-2	不明	(40)	(22)	52	単層／3T-10・11Pを切る	遺物なし	中世以降
3T-P6	F-2	隅丸方形か	(47)	30	58	4層／98Hを切る／3T-P12との切合は撹乱に切られる	遺物なし	中世以降
3T-P7	F-2・F-3	隅丸方形か	45	(30)	56	4層／3T-P1・撹乱に切られる	遺物なし	中世以降
3T-P8	F-3	不整円形か	33	33	45	3層／3T-P2に切られる	遺物なし	中世以降
3T-P9	G-3	円形	39	32	22	1層／98H・3T-P9を切る／647Dに切られる	遺物なし	中世以降
3T-P10	G-2	円形か	(24)	(15)	59	3T-P5に切られる／3T-P11と重複	遺物なし	中世以降
3T-P11	G-2	円形か	(22)	(22)	56	3層／98Hを切る／3T-P5に切られる／3T-P10と重複	遺物なし	中世以降
3T-P12	F-2・F-3	楕円形か	(30)	(24)	49	2層／98Hを切る／3T-P6との切合は撹乱に切られる	遺物なし	中世以降
3T-P13	F-2	円形	25	21	34	単層／98Hを切る	遺物なし	中世以降

第11表　３号掘立柱建築遺構柱穴一覧

（3）土坑

中世以降と判断される土坑は６基である。覆土の状況等から650・651Dは中世、646 ～ 649Dは近世の土坑と判断される。各土坑の規模は第12表のとおりである。



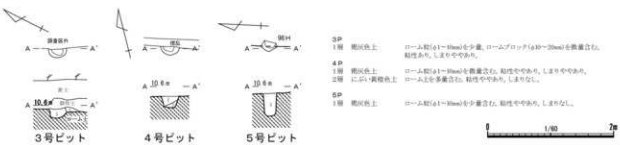
第46図　中世以降の土坑（１／60）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ				
646D	G-3	隅丸方形か	(0.69)	0.48	0.44	N-15°-E	2 層／南側は調査区外／98H を切る／撹乱に切られる	遺物なし	近世以降
647D	G-3	溝状か	(1.49)	0.47	0.67	N-13°-E	3 層／98H・3T-P5・4P を切る	遺物なし	近世以降
648D	F-4・G-4	隅丸長方形か	(1.86)	0.55	0.25	N-10°-E	2 層／99H を切る／撹乱に切られる	遺物なし	近世以降
649D	F-3・G-3	溝状	2.07	0.54	0.07	N-16°-E	単層／98H を切る	遺物なし	近世以降
650D	F-3	不明	0.63	(0.22)	0.80	不明	3 層／東側は調査区外／撹乱に切られる	遺物なし	中世以降
651D	G-4	楕円形	0.70	0.45	0.12	N-14°-E	単層	遺物なし	中世以降

第12表　中世以降の土坑一覧

（3）ピット

中世以降のピットは３本である。３～５Pは掘立柱建築遺構の柱穴の可能性も考慮されるが、配列が調査区外へと広がると思われ、把握するには至らなかった。各ピットの規模は第13表のとおりである。



第47図　中世以降のピット（１／60）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（m）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
3P	F-3	円形か	29	不明	51	単層／東側は調査区外	遺物なし	中世以降
4P	F-3	円形か	30	不明	25	2層／撹乱に切られる	遺物なし	中世以降
5P	G-2	不明	24	不明	37	単層／9Bを切る	遺物なし	中世以降

第13表　中世以降のピット一覧

第４節　遺構外出土遺物

ここでは、表土や撹乱から出土した遺物、そして遺構内からの出土であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物として、縄文時代の遺物、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、奈良・平安時代の土器、中世以降の遺物に分類する。

（１）縄文時代の遺物（第48～50図１～42、図版20－３・21・22、第14・15表）

［石　　器］（第48図１～４、図版20－３－１～３・21－４、第14表）

１はチャート製、２は粘板岩製の二次加工のある剥片で、３は打製石斧、４は磨石である。４には擦痕の他に敲打痕も観察された。

［土　　器］（第48～50図５～42、図版21－５～29・22－30～42、第15表）

５～８は早期後葉～前期初頭の土器で、５～７は早期後葉の条痕文系土器、８は早期末葉～前期初頭の下吉井式～花積下層式土器である。

９～14は前期の土器で、９は前期初頭の花積下層式土器、10は前期前葉の関山Ⅱ式土器、11～14は前期末葉の土器である。

15～39は中期の土器で、15は中期中葉の阿玉台Ⅰb～Ⅱ式、16・17は中期中葉の勝坂式土器、18～39が中期後葉の加曽利Ｅ式土器である。16は勝坂１式土器、17は勝坂２式土器、18は加曽利ＥⅡ式土器で、19は加曽利ＥⅡ～ＥⅢ式土器、20～26は加曽利ＥⅢ式土器、27～39は加曽利ＥⅣ式土器である。38は有孔鍔付土器の口縁部とみられる。

40～42は後期の土器で、40は後期初頭の称名寺式土器、41は後期前葉の堀之内式土器、42は後期中葉の加曽利Ｂ式土器である。

（２）弥生時代後期～古墳時代前期の土器（第50図43～45、図版22－43～45、第16表）

43・44は壺形土器である。共に肩部で、43は円文、44は山形文内が赤彩されている。45は甕形土器である。

（３）奈良・平安時代の土器（第50図46～52、図版22－46～52、第17表）

46～52は須恵器で、46～48は坏形土器、49・50は塊型土器で、50は佐波理模倣塊である。51・52は甕形土器である。52は内面と側面の欠損面に砥面が観察されるため、転用砥石又は硯の可能性がある。また、46～48の坏形土器と49の塊形土器は平安時代の南比企製品、50の塊形土器と51・52の甕形土器は奈良時代の東金子製品である。

（４）中世以降の遺物（第50図53～57、図版22－53～57、第18～21表）

［土　　器］（第50図53・54、図版22－53・54、第18表）

53・54は共に瀬戸・美濃系の志野皿で、中近世（1590～1660年代）の所産である。

［土 製 品］（第50図55、図版22－55、第19表）

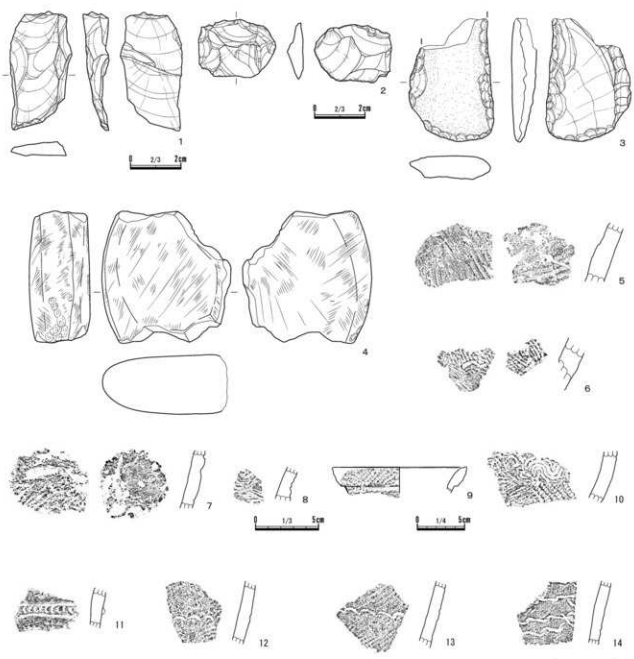
55は碁石を模した泥面子で、近世以降の遺物である。

［銭　　貨］（第50図56、図版22－56、第20表）

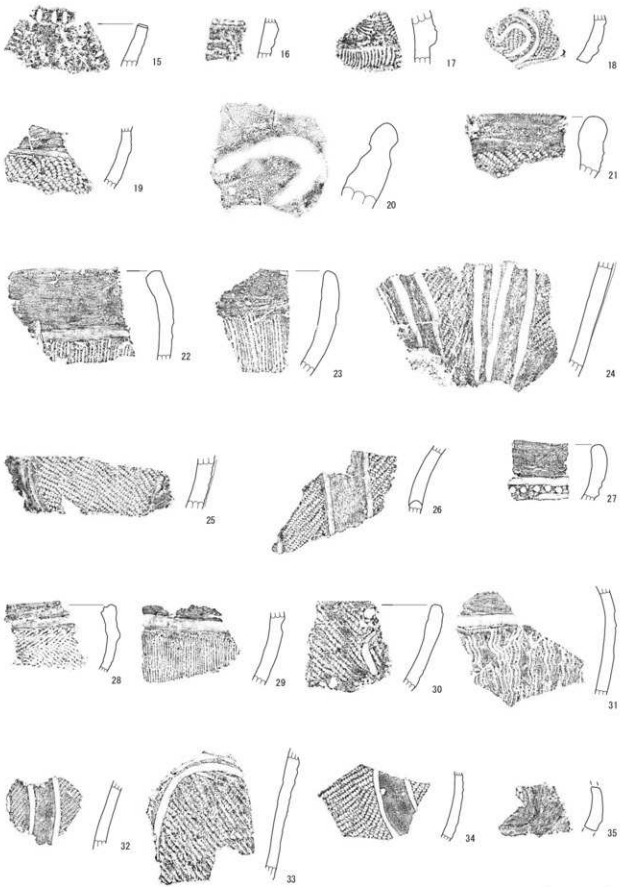
56は寛永通宝と見られ、外径から古寛永の可能性がある。

［鉄 製 品］（第50図57、図版22－57、第21表）

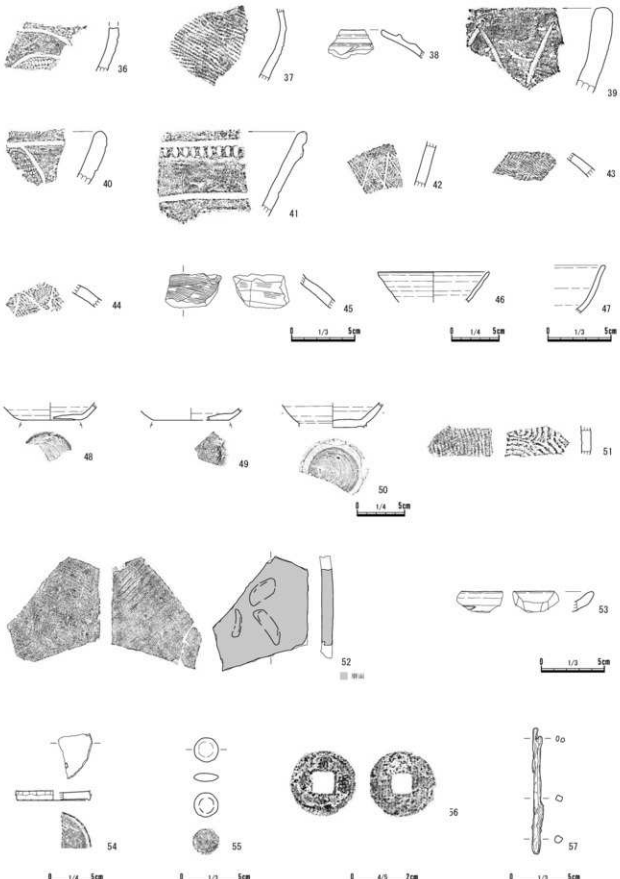
57は先端が二股に分かれる棒状の鉄製品で、器種は不明である。



第48図　遺構外出土遺物１（２／３・１／３・１／４）



第49図　遺構外出土遺物２（１／３）



第50図　遺構外出土遺物３（１／３・１／４・４／５）

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	出土位置
第48図1 図版20-3-1	二次加工のある剥片	チャート	4.6	2.5	0.6	8.0	不定形縦長剥片／素材打面は平坦打面で、打点は明瞭／表面には縦・横位方向の剥離面が認められる／素材末端部に二次的剥離が加えられている	97H
第48図2 図版20-3-2	二次加工のある剥片	粘板岩	3.1	2.2	0.7	5.2	横長の剥片を利用／表面は多方向からの剥離で構成されている／裏面に面的な平坦剥離が施される／裏面の周囲に微細な連続剥離	96H
第48図3 図版20-3-3	打製石斧	砂岩	[9.8]	6.7	1.9	152.4	撥型／基部欠損／表面に自然面を残す横長の剥片使用／側縁と刃部に連続した調整剥離を施す	96H
第48図4 図版21-4	磨石	砂岩	[10.5]	[10.2]	22.0	751.0	扁平な円礫を使用／円弧状の側縁が残存／上下面と側面に擦痕、側面に叩打痕がみられる／中央付近の割れ口端面は滑らかに丸みを帯びるため、欠損後の二次利用と考えられる	100H

第14表　遺構外出土縄文時代石器一覧

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量(cm)	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第48図5 図版21-5	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚2.6	器形は直線的に外傾する	内外面に浅い条痕文	にぶい橙色／砂粒・白色砂粒・繊維	縄文早期後葉 (条痕文系)	表土
第48図6 図版21-6	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.7	器形は直線的に外傾する	内外面に幅の狭い条痕文	にぶい黄褐色／白色粒子・赤色粒子・繊維	縄文早期後葉 (条痕文系)	98H
第48図7 図版21-7	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.1	器形は直線的に外傾する	内外面に浅い条痕文	にぶい黄褐色／長石・白色粒子・繊維	縄文早期後葉 (条痕文系)	96H
第48図8 図版21-8	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.1	口縁部欠損、器形は外反する	外面：横位・弧状の撚糸側面圧痕文と斜位の無節縄文を押圧施文	にぶい黄橙色／石英・長石・白色粒子・繊維	縄文早期末葉 ～前期初頭 (下吉井～ 花積下層式)	99H
第48図9 図版21-9	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚1.1	折り返し口縁／器形は強く外傾する	幅広の折り返し部に単節ＬＲ縄文を羽状に施文	黄褐色／チャート・白色粒子・繊維	縄文前期初頭 (花積下層式)	96H
第48図10 図版21-10	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.1	器形はやや内湾しつつ外傾する	上位はコンパス文が施され、直下に無節Ｌと単節ＲＬを羽状に施文	にぶい黄橙色／砂粒・繊維	縄文前期前葉 (関山Ⅱ式)	96H
第48図11 図版21-11	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.0	器形は直線的で、わずかに外傾する	無文の胴部に横位の結節浮線文を貼付	にぶい黄橙色／石英・白色粒子・砂粒	縄文前期末葉	96H
第48図12 図版21-12	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.0	器形は直線的に外傾する	外面：横位単節Ｌ縄文と横位のＳ字状結節文	にぶい黄褐色／石英・長石・雲母	縄文前期末葉	99H
第48図13 図版21-13	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚0.9	器形は直線的に外傾する	外面：横位単節ＲＬ縄文と横位のＳ字状結節文	黄褐色／石英・長石・雲母	縄文前期末葉	99H
第48図14 図版21-14	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚0.9	器形は直線的に外傾する	無文の胴部に３段のＳ字状結節文を横位施文	にぶい赤褐色／チャート・石英・白色粒子	縄文前期末葉	97H
第49図15 図版21-15	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚1.1	器形は僅かに内湾し、外傾する	山形の波状は鰭の頂部、外面右側面に沿うように単沈線、頂部と両側面に刻みを施す	にぶい橙色／石英・雲母・長石・チャート	縄文中期中葉 (阿玉台Ⅰb ～Ⅱ式)	確認調査 6Tr
第49図16 図版21-16	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.2	器形は直線的に外傾する	隆帯による楕円区画内に丸棒状工具による連続押し引き文を沿わせ、中央に横位波状文を施文	橙色／角閃石・長石・石英・白色粒子	縄文中期中葉 (勝坂１式)	99H
第49図17 図版21-17	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.8	器形は直線的に外傾する	器面を区画する隆帯に沿って幅広のキャタピラー文を施文	にぶい赤褐色／石英・長石・チャート	縄文中期中葉 (勝坂２式)	表土
第49図18 図版21-18	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.1	器形は丸みをもって内湾しつつ外傾する	地文横位単節ＬＲ縄文に隆帯による鍋手状モチーフを貼付	にぶい橙色／石英・角閃石・白色粒子	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅡ式)	98H
第49図19 図版21-19	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.0	器形は丸みをもって胴部へ至る	地文に横位単節ＲＬ縄文を施し、隆帯を貼付し楕円形の区画をなす	にぶい橙色／石英・白色粒子	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅡ ～ＥⅢ式)	96H
第49図20 図版21-20	縄文土器 両耳壺	把手 破片	厚3.2	器形は直線的に外傾する	３方の端部欠損／器壁に厚みがあり、大型品の把手と推察される／無文の地文に下向きのＪ字状沈線を施文する	にぶい黄橙色／石英・チャート・白色粒子	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅢ式)	98H
第49図21 図版21-21	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚2.1	器形はほぼ直立し、下部が僅かに内湾する	地文横位単節ＲＬ縄文に弧状の沈線で区画を施す	にぶい黄橙色／長石・チャート・砂粒	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅢ式)	98H
第49図22 図版21-22	縄文土器 鉢	口縁部 破片	厚1.5	器形はやや内湾する	口縁部に幅広の無文帯をもち、横位の単沈線を施し、直下より条線を縦位に施文	にぶい黄褐色／長石・石英・白色粒子	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅢ式)	96H
第49図23 図版21-23	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚1.5	器形は直立気味で胴部へと内湾する	口縁部無文帯の下に横位の単沈線を施し、直下より縦位の条線を施文する	にぶい褐色／長石・チャート・白色粒子	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅢ式)	96H
第49図24 図版21-24	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.2	器形は直線的に外傾する	平行する懸垂文間に縦位の単節ＲＬ縄文を施文／文様帯間は磨り消し、３本の沈線を垂下する	にぶい黄橙色／石英・角閃石・長石・チャート	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅢ式)	98H
第49図25 図版21-25	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.3	器形は僅かに内湾しつつ、外傾する	弧状の微隆起線文による区画内に縦位の単節ＬＲ縄文を施文／区画外磨り消し	にぶい橙色／石英・長石・黄褐色粒子	縄文中期後葉 (加曽利ＥⅢ式)	98H

第15表　遺構外出土縄文土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第49図26 図版21-26	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.1	器形は強く外反し、外傾する	地文単節ＲＬ縄文／２本１対の沈線を伴う磨消懸垂文／内外面保ける	にぶい褐色／黄褐色粒子・赤褐色粒子	縄文中期後葉（加曽利Ｅ新式）	97Ⅱ
第49図27 図版21-27	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚1.2	器形は内湾する	口縁部無文帯の下に平行沈線を横位施文し、間に円形刺突を連続施文する	にぶい橙色／チャート・赤褐色粒子・黒色粒子	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	96Ⅱ
第49図28 図版21-28	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚1.2	器形は内湾する	口縁部の無文帯の直下に横位隆帯貼付／隆帯の下側面から下位に無節、横位単節ＬＲ縄文施文による羽状縄文	にぶい橙色／石英・チャート・白色粒子	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	96Ⅱ
第49図29 図版21-29	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.1	器形は内湾しつつ僅かに外傾する	横位沈線文の直下に細かな条縄文縦位施文	にぶい褐色／長石・白色粒子・赤色粒子	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	97Ⅱ
第49図30 図版22-30	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.3	器形は僅かに内湾しつつ外傾する	地文は無節Ｌを縦位施文／単沈線による蕨手状モチーフを垂下	にぶい褐色／長石・白色粒子・小礫	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	97Ⅱ
第49図31 図版22-31	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚0.9	器形は内湾しつつ直立する	内面：磨き状の横ナデ／外面：無文帯の下に横位沈線を施文／直下に波状の条線を垂下する	にぶい黄褐色／長石・チャート・赤色粒子	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	98Ⅱ
第49図32 図版22-32	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚0.9	器形は僅かに外反する	内面：横ナデ・磨き／外面：地文縄位単節ＲＬ縄文／弧状の沈線による懸垂文間を磨り消す	にぶい黄橙／石英・白色粒子・赤色粒子	縄文中期後葉（加曽利Ｅ～Ⅳ式）	98Ⅱ
第49図33 図版22-33	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.0	器形は直線的に外傾する	地文は縦位の単節ＬＲ縄文／沈線による逆Ｕ字状区画	にぶい橙色／長石・チャート・小礫	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	表土
第49図34 図版22-34	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚0.8	器形はやや内湾する	地文は縦位の単節ＲＬ縄文／平行する沈線を伴う弧状懸垂隆帯施文	灰黄褐色／長石・白色粒子・黒色粒子	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	96Ⅱ
第49図35 図版22-35	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.1	器形は内湾する	幅広の平行する沈線による弧状モチーフ／沈線間は無文	にぶい黄褐色／チャート・白色粒子	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	96Ⅱ
第50図36 図版22-36	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚0.8	器形は内湾する	地文単節ＲＬ縄文に弧状平行沈線を施文／沈線間磨り消し	橙色／石英・長石・チャート・砂粒	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	96Ⅱ
第50図37 図版22-37	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚0.7	いわゆる鉢型の胴部／器形は強く内湾する	単節ＬＲ縄文を縦・斜位に施文	橙色／赤色粒子・黒色粒子・砂粒	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	96Ⅱ
第50図38 図版22-38	縄文土器 有孔鍔付土器か	口縁部 破片	厚1.8	器形は強く内傾する	無文の口縁部に横位隆帯を貼り、下段の隆帯直下に弧状の強いナデ	にぶい黄橙色	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	99Ⅱ
第50図39 図版22-39	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚2.6	器形はわずかに内湾	沈線による並列する山形文内に横位の縄かなナデが施される／他は無文	にぶい橙色／赤色粒子・黒色粒子・石英・チャート・長石	縄文中期後葉（加曽利ＥⅣ式）	98Ⅱ
第50図40 図版22-40	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚1.3	器形は僅かに内湾しつつ外傾する	短い無文帯の下に横位沈線を施すノ斜位の平行沈線内に斜位の単節ＬＲ縄文を施文する	にぶい褐色／長石・チャート・石英	縄文後期初頭（称名寺式）	100Ⅱ
第50図41 図版22-41	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚1.1	器形は直線的に外傾する	口縁部に横位沈線と隆帯を貼付／隆帯に等間隔に丸い刺突を施すノ無文帯をはさみ、横位沈線を施文	明赤褐色／石英・長石・赤褐色粒子	縄文後期前葉（堀之内式）	98Ⅱ
第50図42 図版22-42	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚0.8	器形は直線的に外傾する／外面僅ける	外面に単沈線を斜位に交差させ、網目状文とする	にぶい黄褐色／石英・チャート・砂粒・褐色粒子	縄文後期中葉（加曽利Ｂ式）	96Ⅱ

第15表　遺構外出土縄文土器一覧（2）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第50図43 図版22-43	弥生土器 壺	肩部 破片	厚0.7	肩部は内湾する	地文横位の単節ＲＬ羽状縄文に、赤彩の円文を施文	にぶい黄橙色／石英・チャート・砂粒	弥生後期～古墳前期	97Ⅱ
第50図44 図版22-44	弥生土器 壺	肩部 破片	厚0.8	肩部は僅かに内傾する	山形沈線文区画内に単節ＬＲ縄文を羽状に施文／下向きの山形文内は赤彩	にぶい橙色チャート・橙色粒子	弥生後期～古墳前期	96Ⅱ
第50図45 図版22-45	弥生土器 甕	肩部 破片	厚2.1	肩部は大きく内傾して頸部に至る／外面うすく僅ける	内面：横位ヘラナデ／外面：横・斜位のハケ目調整後、ナデ	灰黄褐色／長石・チャート・褐色粒子・白色粒子	弥生後期～古墳前期	96Ⅱ

第16表　遺構外出土弥生時代後期～古墳時代前期土器一覧

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第50図46 図版22-46	須恵器 坏	口縁部～体部下半 10％	口（11.4） 高［3.3］	口縁部～胴部にかけ直線的に外傾する	ロクロ成形／外面のロクロ目調著／南比企製品	褐灰色／長石・チャート・海綿骨針	平安時代 （９c後半か）	96Ⅱ
第50図47 図版22-47	須恵器 坏	口縁部～体部下半 破片	高［3.8］	口縁部はゆるやかに外反する	ロクロ成形／外面の器壁磨滅／南比企製品	灰色／長石・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針	平安時代 （９c後半か）	96Ⅱ
第50図48 図版22-48	須恵器 坏	体部下半～底部 25％	高［1.9］ 底（6.0）	体部はわずかに内湾し、内底面中央部は凹む	ロクロ成形／底部回転糸切り後、無調整／南比企製品	褐灰色／長石・小石・砂粒・海綿骨針	平安時代 （９c後半か）	確認調査 1Tr

第17表　遺構外出土奈良・平安時代の土器一覧（1）

神図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第50図49 図版22-49	須恵器 椀	体部下半～底部 15%	高［1.3］ 底（8.0）	胴部は僅かに丸みをもち、内底面は凹む	底部回転糸切り後、無調整／ロクロ成形／南比企製品	灰褐褐色／砂粒・小石・海綿骨針	平安時代 （9c後半か）	遺構外
第50図50 図版22-50	須恵器 高台付椀	体部～底部 60%	高［2.6］	低設理提状／体部は直線的に外器する／体部外面上端はふくらみをもち、胴部は直線的に外傾する	ロクロ成形／外面：体部下端へ沈刻、底部回転糸切り後、周辺回転ヘラ削り／高台貼付後、底部回転指押さえ／東金子製品	黄灰色／長石・砂粒・小石	奈良時代 （8c後半か）	遺構外
第50図51 図版22-51	須恵器 甕	胴部 破片	高［2.3］	胴部は僅かに内湾する	内面：同心円当具痕／外面：格子タタキ／東金子製品	にぶい黄橙色／白色粒子・砂粒	奈良時代 （8c か）	遺構外
第50図52 図版22-52	須恵器 甕 （転用硯石又は硯）	胴部 破片	高［9.1］	僅かに内湾する胴部片	内面：細かな同心円当具／外面：平行タタキ／側縁のうち一面を研磨／内面に磨滅の凹みが見られるため、硯石か墨痕はないが硯として再利用したと思われる／東金子製品	褐灰色／長石・砂粒	奈良時代 （8c か）	確認調査 7Tr

第17表　遺構外出土奈良・平安時代の土器一覧（２）

神図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	製作の特徴等	推定産地	時期	出土位置
第50図53 図版22-53	陶器 皿	口縁部 5%	高［1.7］	ロクロ成形／口縁部は内湾する／外面のロクロ目明瞭／内外面志野釉（長石釉）	瀬戸・美濃系	中近世 （1590～1660年代）	表土
第50図54 図版22-54	陶器 皿	底部 25%	高［1.0］ 底（7.3）	ロクロ成形／底面は中心に向かってやや傾斜する／体部は意図的に打ち欠かれる／内外面志野釉（長石釉）／貫入顕著／見込みに目跡	瀬戸・美濃系	中近世 （1590～1660年代）	確認調査 1Tr

第18表　遺構外出土中世以降の陶器一覧

神図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第50図55 図版22-55	土製品 泥面子	1.9	1.9	0.52	1.7	碁石を模したと思われ、表裏面とも滑らかに指面調整されている／色調・胎土は橙色、砂粒を含む	撹土

第19表　遺構外出土中世以降の土製品一覧

神図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年	外径 （cm）	方孔一片 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第50図56 図版22-56	寛永通宝か	1636年	2.2	0.7	0.1	1.8	正面上に「寛」、右に「通」と読み取れ、他は不明／形状・外径から古寛永の可能性がある	確認調査 5Tr

第20表　遺構外出土銭貨一覧

神図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第50図57 図版22-57	鉄製品 不明	10.0	0.6	0.6	9.3	棒状で頭部は二股に分岐し、脚さはそれぞれ長短の違いがみられる／上下部端の断面は円形、中部は方形／下部に錆が多く付着	確認調査 5Tr

第21表　遺構外出土金属製品一覧

第４章　調査のまとめ

第１節　中野遺跡第117地点の成果

中野遺跡第117地点の発掘調査では縄文時代の土坑１基、古墳時代後期の住居跡７軒・ピット４本、中世以降の掘立柱建築遺構１棟・土坑６基・ピット３本が検出された。ここでは当地点の主体を占める古墳時代後期の住居跡について出土遺物からまとめることにする。

（１）土器の器種構成と分類について

今回出土した古墳時代後期の土器は、土師器高坏・坏・壺・甕・甑形土器の５器種である。

古墳時代後期の主な出土遺物である土師器の高坏・坏・坩・壺・鉢・甑・甕形土器については志木市で詳細な編年が行われている（尾形　1999・2000・2001）。当遺跡の出土遺物の編年的位置づけを得るため、同様の分類を試み、志木市の編年と照らし合わせる。なお、中野遺跡の分類であるため、下記の分類項目は志木市の編年と併せて中野遺跡第25地点（尾形・深井　2001）の細分を参考にしつつ、一部変更した上で当遺跡の出土遺物と対応させたものである。

１．坏形土器

本遺跡において実測可能な土器は総数49個体であった。

A類　頸部にくびれを有し、器高の高いもの（100H－１）。

B類　口縁部が「Ｓ」字状を呈するもの。

１　器高が高いもの（該当なし）。

２　いわゆる比企型坏（水口　1989、尾形　1999）と呼ばれるもの。

ａ　初現段階の比企型坏である（97H－２、98H－１～３）。

ｂ　大型化した比企型坏である（96H－１、99H－３～５）。

ｃ　定型化した比企型坏である（該当なし）。

C類　底部から口縁部にかけて、大きく内湾するもの。

１　器高の高いもの（96H－15、99H－１・２）。

２　１より扁平のもの（96H－２・３）。

D類　有段口縁を呈するもの。

１　口径12～14㎝を呈するもの。

ａ　口縁が直立、もしくは外傾するもの（97H－７、98H－４～７、99H－６）。

ｂ　口縁が内傾するもの（96H－４～６）。

２　口径15㎝以上の大型のもの。

ａ　口縁が外傾するもの（95H－１、97H－３～５）。

ｂ　口縁が外反するもの（96H－８・10・11、97H－６、98H－８～10・12、99H－８）。

３　有段口縁の段が消去されたもの。

a　口縁が外反するもの（97H－8・9）。
b　口縁が内湾するもの（96H－12・13）。
c　口縁が短く内傾するもの（96H－14）。
4　小針型坏（99H－9）。

2．高坏形土器

当遺跡からは1点のみの出土であった。
A類　長脚を基本とするもの（該当なし）。
B類　短脚を基本とするもの（97H－1）。

3．甑形土器

実測可能な土器は9個体であった。
A類　筒抜け式で、複合口縁を呈するもの。
1　口縁から底部にかけてすぼまるもの（96H－29、98H－26・27）。
2　長胴のもの（97H－24～26、99H－20・21）。
B類　単純口縁を呈するもの（97H－27）。

4．甕形土器

実測可能な土器は51個体であった。
A類　球状の胴部をもつもの。
1a　小型のもの・「く」の字形口縁（98H－14・15、99H－11）。
2a　中型のもの・「く」の字形口縁（95H－2、97H－12）。
2b　中型のもの・「コ」の字形口縁（96H－18・19、97H－10・11、98H－16・17、99H－12～14）。
B類　長胴の兆しがあるもの。
1a　中型のもの・「く」の字形口縁（97H－13・14、99H－15）。
1b　中型のもの・「コ」の字形口縁（97H－15～17、98H－20）。
1c　中型のもの・弓状口縁（96H－20、97H－18・19、98H－21、99H－16～18、7P－1）。
C類　長胴化したもの。
1　最大径が胴部中位にあるもの（98H－22・23）。
2　最大径が胴部上半にあるもの（96H－22）。

5．壺形土器

実測可能な土器は1個体であった。
A類　複合口縁を呈するもの（該当なし）。
B類　単純口縁を呈するもの（96H－17）。

（２）各住居跡および７号ピットから出土した土器について

前述した項目に則り個々の土器を分類し、遺構ごとの様相をみていく。ただし、101号住居跡は、時期を決定する遺物が出土してないため触れていない。結果見出された第117地点における各器種の変遷は第51・52図に示した。

今回の調査では古墳時代後期の中でも６世紀の住居跡がまとまって検出されており、建て替えしながら間断なく存続した住居の遺物の遺物は区分が難しく、該期を１期（６世紀前葉～６世紀中葉・６世紀２／５～３／５）と２期（６世紀後葉・６世紀４／５）に区分し、６世紀前葉に主体があるものを１期前半、中葉に主体があるものを１期後半として考察していくこととする。なお、志木市の編年においては５世紀から７世紀までを１期20年として15期に分けており、６世紀代は６期（６世紀１／５）～10期（６世紀５／５）に相当する。

１期前半（６世紀前葉～中葉）－97号住居跡（第23～25図、図版12－２・13・14・15－１）

実測可能な土器は高坏形土器（以下、「形土器」省略）１点、坏８点、甕14点、甑５点である。

１の高坏は坏部の稜が弱く、深身のもので、全体に粗いナデ調整が施されている。１は中野遺跡第25地点で６点、13地点で１点出土している高坏の中で、中野遺跡第25地点14号住居跡５と形状・調整が類似するＢ類の短脚タイプである。５世紀後葉とされる14号住居跡の高坏より一回り大型で、より粗雑な造りであることから後出的とみられ、６世紀前葉の所産と考えられる。

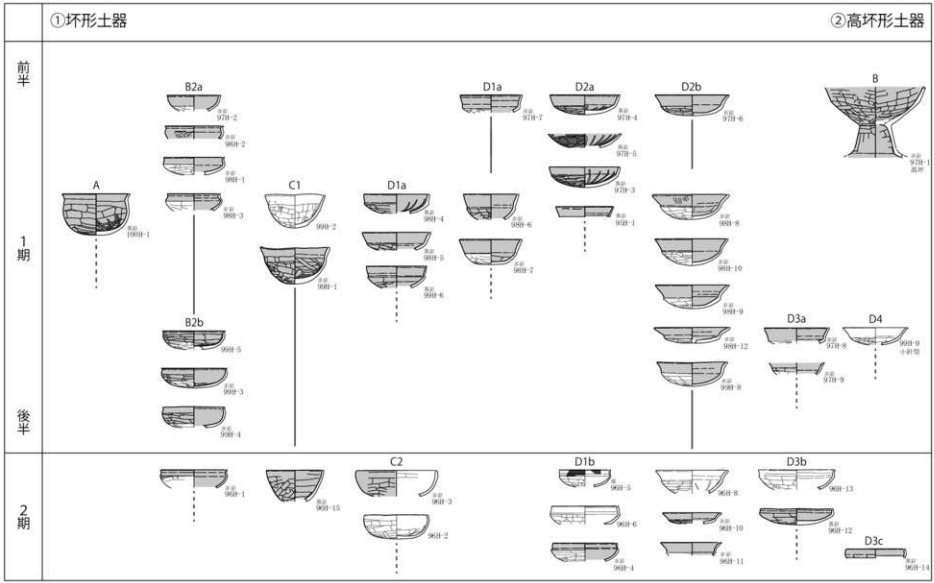
坏は８点で、２はＢ２ａ類のいわゆる初現的な比企型坏である。Ｄ類は７点と主体を占め、内３～５はＤ２ａ類の暗文が施される黒色系土器で、４・５は胎土が赤褐色を基調とすることから、いわゆる「入間系土師器」（以下、入間系土師器）である（尾形　2008）。他Ｄ２ｂ類の６、Ｄ１ａ類の７、Ｄ３ａ類の８・９は赤色系である。

甕は10が球胴状の甕とみられ、複合口縁のＡ２ｂ類に分類される。同じく複合口縁を有する城山遺跡第62地点244号住居跡11・246号住居跡14などはいずれも５世紀中～後葉に比定されているが、10の頸部は口唇部が強く外反し、しっかりとした「コ」の字形状を呈することから、６世紀前葉の所産ととらえたい。

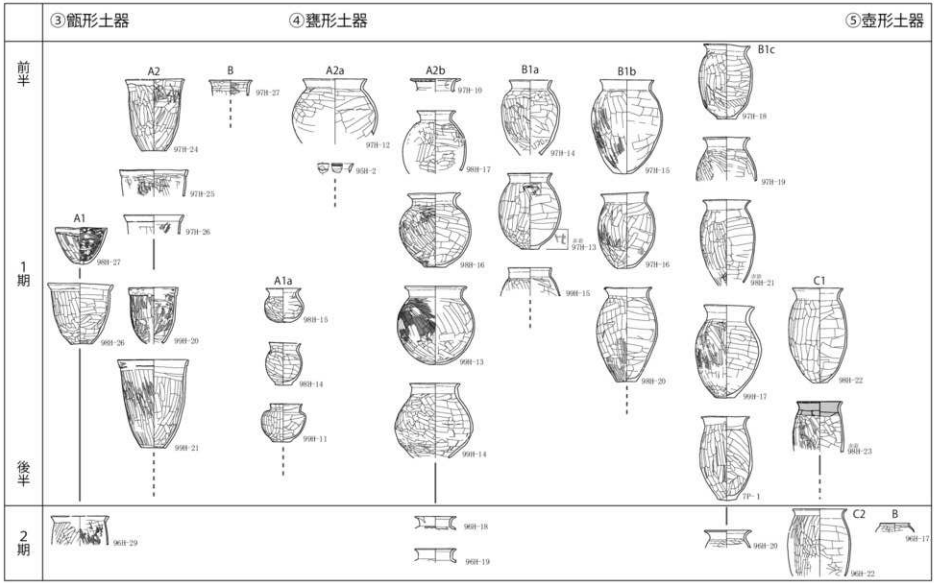
他の甕はＡ類がＡ２ｂ類の11、Ａ２ａ類の12の２点、Ｂ類がＢ１ａ類の13・14、Ｂ１ｂ類の15～17の５点、Ｂ１ｃ類の18・19の２点、Ｃ類が２点であり、胴部が長胴化に至らず、卵形のものが主体を占める。13は胴部が球胴に近い甕で６世紀前葉の要素が強く、胴部に赤色顔料で記号のようなものが描かれている点が特筆される。

甑は５点出土し、Ａ２類が３点、Ｂ類が１点、口縁部が不明で長胴のものが１点である。Ａ２類の24～26は全て口縁部が横ナデ調整されており、胴部にハケ目調整が見られず、粗いヘラ磨き調整が施される。27はＢ類で内面はナデ残されたハケ目調整痕がみられる。志木市ではＢ類は６世紀前葉から確認されており、ハケ目をナデ消す調整などから27も同期のものと考えられる。97号住居跡は貯蔵穴が重複していることから、住居跡内出土遺物にも時期差が表れないか検討したが、貯蔵穴内からの出土遺物が極めて少なく、分類に反映できるほどの時期差は見いだせなかった。しかし、他の住居に比べ、ある程度長い期間存続していたと考えられる。

甑と甕に６世紀前葉の要素を有するものが散見されるが、坏は有段坏が主体をなし、６世紀中葉の様相を示すことから、遺物の全体としての時期は１期前半（６世紀２／５～３／５）と考えられ、志木市



第51図　坏・高坏形土器の変遷（1／8）



第52図　甑・甕・壺形土器の変遷（1／14）

編年の７期～８期に相当する６世紀前葉から中葉と考えられる。

１期後半（６世紀中葉）－95号住居跡（第９図、図版11－１）

本住居跡の実測可能土器は坏１点、甕１点の２点のみで、いずれも小片であった。

坏は大型の有段坏で、口縁部外傾・黒色系土器であることからＤ２ａ類とした。

甕は頸部の半ばまでの残存であるが、口縁が「コ」の字には至らず、「く」の字の形状に近く、内面にハケ目調整痕が残ることからＡ２ａ類に属すると思われる。このタイプの甕は６世紀中葉まで残るとされている（尾形　2000）。

大型の有段坏と甕の特徴から、95号住居跡は１期後半（６世紀３／５）、志木市編年の８期に相当する６世紀中葉の所産と考えられる。

１期後半（６世紀中葉）－98号住居跡（第30～32図、図版15－２・16・17・18－１）

実測可能な土器は坏12点、壺１点、甕11点、甑２点である。

坏は１～３がいわゆる比企型坏のＢ２ａ類で、いずれも口径が13㎝未満で口唇部に沈線がまわらず、内面及び口縁部外面が赤彩される。１は胎土が赤褐色の入間系土師器であり、２は胴部に磨き調整が施され、３は体部の屈曲が強く１・２とはやや異質な印象を受けるが、１と同様の調整・出土層位であるため、３点全てを初現的な要素をもつタイプとして分類する。Ｄ１ａ類は４・５が黒色系、６・７が赤色系である。Ｄ２ｂ類は８～12の４点で、全て赤色系である。

甕は14・15が小型甕のＡ１ａ類、16・17はＡ２ｂ類で球胴状甕である。20はＢ１ｂ類の長胴化しつつあるタイプで、口縁部に弥生時代から古墳時代初めまでみられるハケ目調整甕に付けられるような連続刻みを持つ。21はＢ１ｃ類、22・23はＣ１類で頸部が弓状に変化しつつある甕、23は口縁部から胴部への移行がスムーズで、口縁部内外面が赤彩されている甕である。

甑の26・27は複合口縁のＡ１類。27は胴部が逆三角形の小型のもので内面にハケ目調整が残る。このタイプは５世紀末からの調整方法を受け継ぐもので、志木市では６世紀中葉まで残るとされている（尾形　2004）。

坏１～３のいわゆる比企型坏は６世紀前葉に、４～12のＤ類の有段坏は６世紀中葉に比定され、時期差がみられるが、１～３は住居跡覆土上～中層の出土であるのに対し、Ｄ類の大半が床面付近からの出土であること、甕にＣ１類の長胴化したものが入ることから、本住居跡の遺物の時期は１期後半（６世紀３／５）と考えられ、志木市編年８期に相当する６世紀中葉ととらえたい。

１期後半（６世紀中葉）－99号住居跡（第37～39図、図版18－２・19）

実測可能な土器は坏10点、甕８点、甑２点であった。

坏は１・２が深身のＣ１類で、口縁部と体部の間にわずかに括れを有する。志木市ではＣ類は５世紀からの系譜をもち、６世紀中葉まで少数ながら存続するとされている（尾形　2003）。３～５のいわゆる比企型坏は３点ともＢ２ｂ類で、口縁直下に稜をもち、13～14㎝のやや大型化したもののみで構成されている。６はＤ１ａ類、８はＤ２ｂ類、９はＤ４類に分類され、胎土が精錬された小針型坏である。10は口縁部がわずかに内湾し、体部に稜を有さない坏とみられ、Ｃ２類に属する可能性がある。

甕は11～14がＡ類で、11がＡ１ａ類、12～14のＡ２ｂ類である。そのうち13は外面上位にハケ

目調整が施され、古相を帯びつつも口縁部は「コ」の字型の新しい要素を持ち合わせた土器である。15～19はＢ類で、15はＢ１ａ類、16～18はＢ１ｃ類に分類され、口縁部は弓状で卵型の胴部に粗いヘラ磨き調整が施される。19はＢ１類の胴部である。

甑はＡ２類の20・21が出土している。20は内面にハケ目調整が施され、折り返し口縁部の一部を胴部になじませるように粗い指頭押圧を施す点などから、21と同時期の６世紀中葉の所産とみられる。

やや大型化した比企型坏と大型の有段坏、小針型坏との共伴、長胴化しつつある甕の形態の組み合わせなどから99号住居跡の土器は１期後半（６世紀３／５）、志木市編年８期に相当する６世紀中葉と位置づけられる。

１期後半（６世紀中葉）－100号住居跡（第41図、図版20－１）

実測可能な土器は坏１点と甕１点のみである。坏は深身の黒色系土器Ａ類で、ヘラナデとヘラ磨き調整が比較的丁寧に施され古相を帯びる。甕は頸～肩部のみの破片であるが、残存部から口縁部は弓状を呈し肩部は丸みをもつ点、調整はヘラナデとヘラ削りが併用されている点から、６世紀中葉段階のＢ類と思われる。甕が周溝内覆土から出土しており、また、坏が接合により一個体に復元された一括資料であることから、本住居跡は１期後半（６世紀３／５）、志木市編年８期に相当する６世紀中葉と考えられる。

１期後半（６世紀中葉）－７号ピット（第43図、図版20－２）

１のほぼ完形の甕はＢ１ｃ類である。頸部が弓状で長胴化しつつある形態から１期後半（６世紀３／５）、志木市編年８期に相当する６世紀中葉の所産と考えられる。７号ピットは97号住居跡のカマドを切るように設けられているが、97号住居跡とはさほど時期差がないと考えられる。

２期（６世紀後葉）－96号住居跡（第16・17図、図版11－２・12－１）

本住居跡の実測可能土器は坏16点、壺１点、甕12点であった。

坏はＢ・Ｃ・Ｄ類で構成される。１は口径が14㎝とやや大型の比企型坏であり、口縁直下に明瞭な稜を有するためＢ２ｂ類と分類する。２・３はＣ２類で口縁部が内湾する器高の高い坏で、２には暗文が施される。４～14はＤ類の有段坏である。４～６はＤ１ｂ類の須恵器坏身模倣坏で、体部が内傾し、堅緻な造りである。４のみ赤色系、５・６は無彩系である。７は小ぶりで底部のヘラ削りは他に比して粗く、Ｄ１ａとする。Ｄ２ｂ類は８・10・11である。10は底部が扁平で、器高が低い。他に口縁が内湾するＤ３ｂ類の12・13や、14の体部の段が消失したＤ３ｃ類・黒色系須恵器坏身模倣坏が共伴している。14は４～６に比べると、全体的にシャープさに欠け、緻密な造りではないことから後出的なものととらえ、別類型とした。15は黒色系・深身・底部がすぼまる形状でＣ１類とした。Ｃ類は５世紀中葉から出現し、６世紀中葉まで存続するタイプで、６世紀後葉での出土例を見ないものである。今後類例が現れるか注視される。

坏にはＤ類の多様な形態のものが共伴しており、定型化したいわゆる比企型坏は不在である。

17は短頸の壺形土器のＢ類である。小型壺で、口縁は直立気味に立ち上がり、胴部には横位ヘラケズリ調整が施される。同じ特徴をもつタイプとして志木市城山遺跡第59地点168号住居跡から出土した壺（168Ｈ－12）が挙げられ、須恵器短頸壺に類似するタイプの６世紀中葉のものと考察されており、

17も同様のものととらえたい。

甕はＡ・Ｂ・Ｃ類で構成される。Ａ類の球胴状甕の18・19はＡ２ｂ類に細分され、頸部は「コ」の字状を呈する。20はＢ１ｃ類で、21はＡ類の胴部と思われる。22はＣ２類、23はＣ類の口縁とみられ、頸部は弓状を呈するものである。

甑は29の１点のみでＡ１類に属し、胴部は不明である。なお甕の26は甑に転用したとみられる。

大型の比企型坏や須恵器坏身模倣坏などの多様な坏の共伴、そこに定型化したいわゆる比企型坏が登場しない点、甕に６世紀後葉に主流となるＣ２類の長胴化した形態のものが入る点等を勘案すると、96号住居跡の土器は２期（６世紀４／５）、志木市編年の９期に相当する６世紀後葉のものと考えられる。

（３）第117地点における住居跡の年代観について

今回の調査において、切り合い関係によって新旧関係が明らかになっている住居跡は99・101号住居跡の２軒のみであり、101号住居跡→99号住居跡の関係が成立している。99号住居跡が６世紀中葉とみられることから、101号住居跡は必然的にそれ以前の年代となるが、遺物が検出されていないので具体的な年代は不明である。

前述の遺物の検討から導かれた各住居跡の年代観は、６世紀前葉～中葉の住居跡が97号住居跡、６世紀中葉の住居跡は95・98・99・100号住居跡、６世紀後葉の住居跡は96号住居跡である。

１・２期を通じて、坏においては、いわゆる初現的な比企型坏から大型品への変化、有段坏が盛行し、北関東からの搬入品と考えられる黒色系土師器坏や坂戸市東部からの搬入品である入間系土師器坏、埼玉古墳群周辺、もしくは埼玉古墳群以東からの搬入品である小針型坏と無彩系の在地系土師器坏との共伴といった傾向が見てとれ、甕においては「く」の字状口縁から「コ」の字状、弓状口縁への移行、胴部の球胴状から長胴化への変化などが顕現し、５世紀末から継承されてきた形態・調整手法が７世紀からの新しい形態・調整手法へと移行していく様相が再確認された。

今回の第117地点の調査によって、これまでの中野遺跡の調査結果に、まとまった６世紀代の貴重な資料が追加されたと言えよう。

第２節　中野遺跡における古墳時代の遺構分布

（１）第117地点に見られる住居跡分布

今回の発掘調査では７軒の住居跡が検出された。そのうち時期の推察が困難な101号住居跡を含め、いずれも古墳時代後期の住居跡と判断される。前節において出土遺物から住居跡の年代を求め、６世紀中葉を中心とした住居跡が配置されていることが明らかとなった。６世紀前葉に97号住居跡が造られ、３回に渡る造り替え、最終的には６世紀中葉まで存続したと考えられる。同時期に95・98・99・100号住居跡の４軒が造られる。その後、６世紀後葉に96号住居跡が造られている。

今回の発掘調査の成果の一つとして注目されるのが、一辺8.0mを超す大型住居跡である96号住居跡の検出である。中野遺跡では第25地点（尾形・深井　2001）の発掘調査において大型住居跡が１軒確認されており、調査報告書が既刊されている中では２例目となる。第25地点の調査報告書において尾

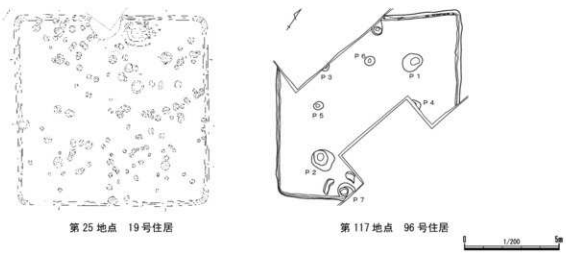
形氏は大型住居跡を含む市内の古墳時代後期の住居跡について、構造的な考察を行っている（尾形　2001）。第53図は第25地点19号住居跡と96号住居跡を同縮尺で示したものである。19号住居跡は長軸10.27m、短軸10.07mの規模であり、96号住居跡の長軸9.69m、短軸現況7.63mを上回っている。19号住居跡が７世紀前葉、96号住居跡が６世紀後葉と年代的な違いはあるが、構造的には似ており、集落内においても同様の役割を果たしていたことも推察される。第25地点の調査報告書刊行から20年以上の年月が経過し、時代は異なるが、城山遺跡第62地点251号住居跡（尾形・徳留・深井・青木　2012）をはじめ、志木市内や近隣市町遺跡において、大型住居跡の類例が増加しており、それらを含めた比較検討が必要であろう（註１）。

次にほぼ同時期の遺物が出土している95・97・98・99・100号住居跡について考えたい。出土土器からこれらの住居跡の変遷を追うのは困難だが、すべてが同時期に存在したとは考えにくい。そこで、これらの住居跡の変遷について主軸方位、位置関係から次のように考えられる（第４図）。

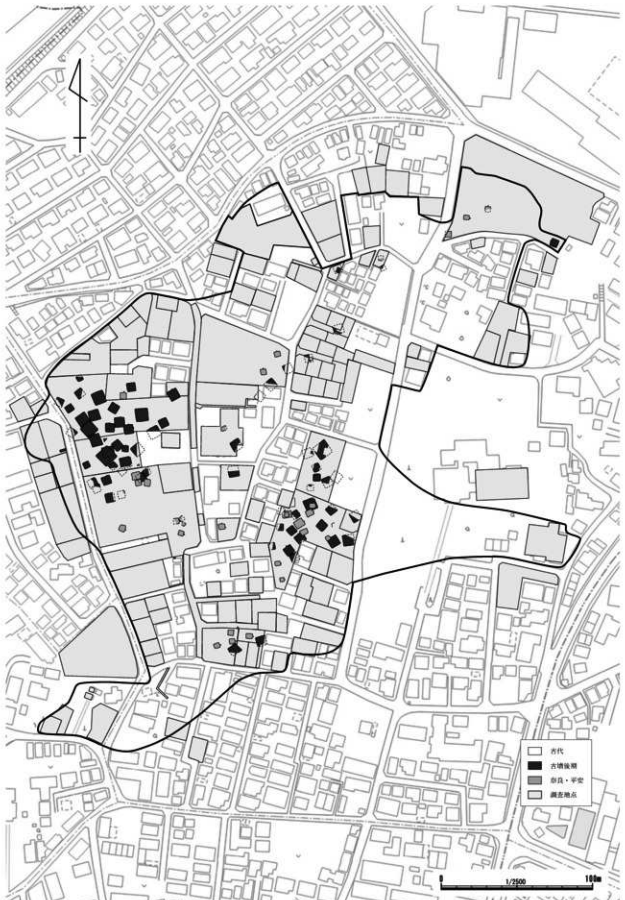
まず、97号住居跡は６世紀前葉に造られ、最終的には中葉まで使用された。97号住居跡の南約６mの距離に99号住居跡が存在する。この２軒の住居跡は主軸方位を揃えて造られ、また97号住居跡の東壁のラインを延長すると99号住居跡のカマドを通る中心線（主軸）を走ることとなる。このことから99号住居跡は97号住居跡を意識して建てられ、同時期にセット関係を持って存在していたと考えることも出来よう。また、同様に98号住居跡についても調査範囲が狭小ではあるが100号住居跡と2.5mの距離で主軸方位をほぼ揃えて建てられているようであり、セット関係で捉えることが可能である。95号住居跡については今回の調査範囲内でセット関係で捉えられる住居跡は確認されなかった。

このように主軸方位等により住居跡を類型化する集落の構造研究は、1970～80年代の集落研究の中心で、「個々の集落跡やそれを構成する個々の住居跡の分析を基本に、人間集団の営みを具体的に復元すること」を課題としていた（黒崎　1977）。

しかし、1981年に群馬県黒井峯遺跡（石井　1991）が発見され、多様な住居形態や関連施設が存在することが明らかとなった。そのことが住居跡を類型化する集落構造分析による集落研究の信頼性に大きな影響を与え、以後は集落の立地や消長が変化する画期を捉える動態分析が主流となっている（道上　2021）。実際に黒井峯遺跡や谷を隔てて立地する西組遺跡の発掘調査では、１軒の屋敷単位は約2,000㎡を垣根で囲み、竪穴住居跡だけでなく、平地式建物、家畜小屋、高床式建物、畠等により構成



第53図　中野遺跡の大型住居跡（１／200）



第54図　中野遺跡住居分布図―古墳後期～奈良・平安―（1／2,500）

されていたことが明らかとなっている（石井　1991、大塚　1996、桐生　2015）。

いずれにせよ、今回の発掘調査の範囲内において住居跡の配置について考えるには限界があり、確認調査時の遺構分布図（第３図）をみると開発範囲内に少なくとも４～５軒は住居跡が存在している状況から、遺跡全体を俯瞰して考えていく必要がある。

（２）中野遺跡の古墳時代住居跡の変遷

中野遺跡ではこれまでに古墳時代以降の住居跡103軒が確認されている。内訳をみると古墳時代後期が69軒、奈良・平安時代33軒、不明１軒となり、２／３を古墳時代後期が占めている。

第54図は中野遺跡の古墳時代後期と奈良・平安時代の住居跡の分布図、第22表は計測データである。この図と表には古墳時代後期33軒、奈良・平安時代13軒の未報告の住居跡も含まれるため、全体の傾向を捉えるために示した。ただし、盛土保存（現状保存）によって発掘調査を実施していない住居跡については反映されていない。分布図をみると古墳時代後期の住居跡は遺跡の西側及び、第117地点を含む中央南側に比較的多くの住居跡が集中していることが看取される。奈良・平安時代の住居跡は古墳時代後期の集中地域を含めた全体に広がっているようである。

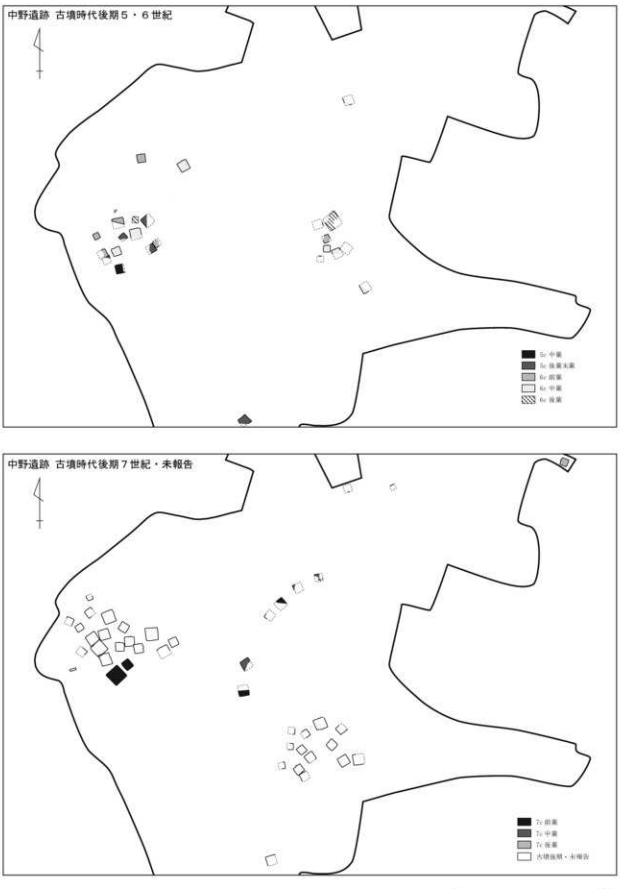
第55図は古墳時代後期の住居跡を調査報告書の年代観に基づいてさらに細分した図である。69軒の住居跡のうち半数近い33軒が未報告であるため、全体の傾向が反映されているか心許ないが、５世紀中葉に遺跡の台地西側に住居跡が出現し、６世紀には台地西側だけでなく台地内部にも住居跡が進出している。また、遺跡北側にも数軒単位の纏まりがみられる。さらに７世紀前葉では台地西側の大型住居跡と台地中央に住居跡がみられるが、中葉から後葉には極端に住居跡が減少するようである。さらに、集落には住居跡だけでなく掘立柱建築遺構や井戸跡などの遺構も検出されるが、中野遺跡では、刊行された調査報告書には調査事例が報告されていない（註２）。本来であれば、住居跡や掘立柱建築遺構、井戸跡などを含め考えていくことが基本であるが、それらが存在しない集落である可能性も含めて総合的な分析が必要になるだろう。

集落構造を探る上では、少数や偏った資料による分析は、全体の傾向を正しく示していない可能性もあり、集落の変遷を全て網羅するためには調査報告書の刊行されていない地点や盛土保存遺構の数量なども考慮する必要があるため、極めて難しい作業である。今後は調査報告書の刊行で資料を蓄積し、集落構造を分析しては検証を重ねる基礎研究の積み重ねが求められている。さらに、出土遺物の編年研究は日進月歩であり、さらに細かな集落動態を導き出せる可能性を秘めている。また、周辺に存在する同時代の遺跡との関係についても今後の課題であろう。中野遺跡でいえば、同時代の城山遺跡や田子山遺跡との関係は集落構造の相関関係、周辺環境や交通路等、古墳時代後期から奈良・平安時代の地域を明らかにする上で重要な視点を与えてくれると思われる。今回の中野遺跡の調査による資料の提示は研究課題としておき、今後の資料の増加によりさらに中野遺跡の研究が深化することを期待したい。

[註]

註１　同じ柳瀬川（新河岸川）の下流域にある朝霞市ハケタ・中通遺跡第８地点の発掘調査において、古墳時代後期の８ｍを超す住居跡が３軒確認されている（未報告）。朝霞市教育委員会のご厚意により紹介させていただいた。

註２　中野遺跡第95地点で中世以降とされる９号井戸については、平安時代にさかのぼる可能性があると報告されている（尾形　2017）。また、志木市教育委員会によると未報告の第91地点において平安時代の掘立柱建築遺構が１棟確認されている。



第55図　中野遺跡古墳後期住居変遷図（１／2,500）

住居番号（調査地点）	時　期	規模（m）		主軸方位	カマドの位置	出土遺物	備　考
		長軸	短軸				
1H（第２地点）	古墳後期 6c前半、鬼高式期	5.70	5.60	N-87°-W	西壁中央	土師器坏・椀・コップ形・壺・甕	貯蔵穴２基あり／完形の甕がカマド掛け口に倒えられていた
2H（第２地点）	奈良 国分期	4.35	4.20	N-10°-E	北壁中央	須恵器坏	床は踏み固められ、凹き床状
3H（第７地点）	古墳後期 鬼高式期	4.20	(1.60)	不明	—	甕	東側は調査区域外／大部分掘乱で壊される
4H（第12地点）	古墳後期 6c中葉、鬼高式期	6.66	6.50	N-25°-W	北壁やや東	土師器坏・椀・鉢・甕・高坏	焼失後に埋め戻された可能性あり
5H（第16地点）	平安 9c中葉	(3.80)	3.85	N-10°-E	北壁中央か	須恵器坏	北壁調査区域外
6H（第16地点）	平安 —	3.70	3.30	N-88°-E	東壁中央	—	遺物僅か
7H（第16･50地点）	古墳後期 5c後葉	(5.40)	6.50	N-20°-W	—	土師器坏	遺物僅か
8H（第16地点）	平安 9c中葉	3.75	3.20	N-80°-E	東壁中央	土師器坏	遺物僅か
9H（第18地点）	古墳後期 6c中葉、鬼高式期	(3.90)	6.70	N-28°-E	—	土師器坏・高坏・甕、鉄鏃16	鉄鏃多数出土
10H（第25地点）	古墳後期 6c中葉	(6.70)	7.40	N-12°-W	北東コーナー	土師器坏・甑・高坏・甕・鉢、骨製品、鉄滓	貯蔵穴の周囲に基受けとみられる段あり
11H（第25地点）	平安の可能性 詳細不明	(0.70)	(0.50)	不明	—	—	10Hを切る／カマドと思われる燃焼部検出
12H（第25地点）	平安 9c後半	(1.20)	(1.00)	不明	—	須恵器蓋・坏	土坑に切られ、全ての壁なし／大部分調査区外
13H（第25地点）	古墳後期 5c後葉	(4.78)	4.54	N-50°-E	—	土師器坏・椀・高坏・鉢・甕	特になし
14H（第25地点）	古墳後期 5c後葉	(5.40)	6.50	N-40°-W	—	土師器椀・高坏・鉄滓	周溝が二重のため、拡張住居とみられる
15H（第25地点）	古墳後期 6c後葉	4.20	4.12	N-11°-E	北壁中央よりやや東	土師器坏・椀・甑・甕、土製品支脚	焼失住居
16H（第25地点）	古墳後期 7c前葉	6.40	5.88	N-37°-W	北西壁中央	土師器坏・椀・鉢・鉄滓	焼失後に埋め戻された可能性あり
17H（第25地点）	古墳後期 6c前葉	(5.00)	7.84	N-82°-E	東壁	土師器坏・高坏・甕・鉢、土製品支脚	埋め戻しの可能性あり／カマドの掛け口から猿出土
18H（第25地点）	古墳後期 6c前葉	4.20	4.10	N-27°-W	北西壁中央	土師器坏・椀・甕・鉢	焼失住居
19H（第25地点）	古墳後期 7c前葉	10.21	10.07	N-40°-W	北西壁中央	土師器坏・椀・高坏・甕・鉢、須恵器坏・甕、緑釉陶器（猿投）、鉄鏃２、鉄釘、鉄滓	バラエティー豊富な坏や緑釉陶器など遺物多数出土
20H（第25地点）	古墳後期 6c前葉	(2.00)	(1.60)	不明	—	土師器坏・椀・甕・鉢	掘乱によりかなりの部分が壊される
21H（第25地点）	古墳後期 —	(4.20)	7.08	N-85°-E	—	土師磁片	北側調査区域外／掘乱で大きく壊される
22H（第28地点）	古墳後期						未報告
23H（第28地点）	古墳後期						未報告
24H（第28地点）	古墳後期						未報告
25H（第28地点）	古墳後期						未報告
26H（第28地点）	古墳後期						未報告
27H（第28地点）	古墳後期						未報告
28H（第28地点）	古墳後期						未報告
29H（第28地点）	古墳後期						未報告
30H（第28地点）	古墳後期						未報告
31H（第28地点）	古墳後期						未報告
32H（第28地点）	古墳後期						未報告
33H（第28地点）	古墳後期						未報告
34H（第28地点）	古墳後期						未報告
35H（第28地点）	古墳後期						未報告
36H（第28地点）	古墳後期						未報告

第22表　中野遺跡各地点住居一覧（１）

住居番号（調査地点）	時　期	規模（m）		主軸方位	カマドの位置	出土遺物	備　考
		長軸	短軸				
37H（第28地点）	古墳後期						未報告
38H（第31地点）	古墳後期 7c前半～中葉、奈良式期	(4.05)	7.04	N-2°-W	—	土師器坏・甕、砥石、鉄鏃	住居南半分のみ検出
39H（第40地点）	古墳後期						未報告
40H（第40地点）	古墳後期						未報告
41H（第40地点）	平安						未報告
42H（第40地点）	古墳後期						未報告
43H（第40地点）	古墳後期						未報告
44H（第40地点）	古墳後期						未報告
45H（第40地点）	平安						未報告
46H（第40地点）	古墳後期						未報告
47H（第40地点）	古墳後期						未報告
48H（第40地点）	平安						未報告
49H（第40地点）	古墳後期						未報告
50H（第41地点）	古墳後期 —	3.06	3.00	N-84°-E	北壁中央やや東	土師器坏・甕・鉢・甕、土製品支脚、土製品紡錘車	カマド燃焼部から上部に坏が被せられた支脚が正位で出土した
51H（第41地点）	平安 —	4.33	3.30	N-78°-W	東壁中央	須恵器坏・鉢・須恵器転用硯重車、砥石、平川系鉄製品	多数のピットが床面及び貼床下より検出された／カマド燃道坑底から坏が伏せられた状態で出土
52H（第40地点）	古墳後期						未報告
53H（第40地点）	平安						未報告
54H（第40地点）	平安						未報告
55H（第40地点）	古墳後期						未報告
56H（第40地点）	古墳後期						未報告
57H（第40地点）	平安						未報告
58H（第40地点）	平安						未報告
59H（第40地点）	平安						未報告
60H（第40地点）	古墳後期						未報告
61H（第40地点）	古墳後期						未報告
62H（第40地点）	古墳後期						未報告
63H（第40地点）	古墳後期						未報告
64H（第43地点）	平安 9c前半	4.20	3.50	N-2°-E	東壁中央／北壁中央	須恵器坏・鉢、土師器甕、土錘、鉄洋	カマド２基あり／鉄洋が多数出土しており、廻合関連遺構か
65H（第49地点）	平安 9c中葉～後葉	3.80	2.85	N-77°-E	東壁か	須恵器坏・皿、土師器甕	カマドは確認されなかったが、焼土から東壁と推察される
66H（第49地点）	古墳 7c中葉	(3.85)	6.68	N-29°-W	北壁中央	土師器鉢・甕、土製支脚、砥石	遺物多数出土
67H（第91地点）	古墳後期 6c前葉	5.16	2.67	N-29°-W	北壁	土師器坏・甕	カマドから鍛が並んで出土→縦２つ掛けのカマドと思われる
68H（第91地点）	古墳後期 6c前葉	3.18	(2.80)	不明	—	土師器坏・鉢	北西側複乱、北側調査区外／69Hより新しい
69H（第91地点）	古墳後期 5c末葉～6c か	(3.75)	(3.21)	不明	—	—	西部から南へかけ大きく複乱される／68Hより古い
70H（第91地点）	古墳後期 5c中葉～後葉か	(1.02)	(1.98)	不明	—	土師器高坏	北壁の一部のみ検出
71H（第91地点）	古墳後期 6c中葉	5.82	5.79	N-19°-W	北壁	土師器坏、須恵器甕	南西部分は複乱、北西部分は調査区外
72H（第91地点）	平安 8c後葉	4.20	2.64	N-73°-E	東壁中央	土師器北武蔵型坏・甕、須恵器坏・甕、小口径羽口	住居中央から小鍛冶炉／73Hより新しい

第22表　中野遺跡各地点住居一覧（２）

住居番号（調査地点）	時　期	規模（m）		主軸方位	カマドの位置	出土遺物	備　考
		長軸	短軸				
73H（第91地点）	平安 9c後葉	(1.80)	(1.20)	不明	—	須恵器坏	北東隅のみ検出
74H（第91地点）	平安 9c後葉	3.73	3.38	N-73°-W	東壁中央	土師器台付甕・鉢、須恵器坏・鉢	住居廃絶後、焼土の三角堆積が認められる
75H（第91地点）	古墳後期 5c後葉	4.38	4.32	不明	南東壁	土師器坏	72Hより新しい／住居の廃絶にあたりカマドを破壊した可能性あり
76H（第91地点）	平安 9c前葉	4.71	4.26	N-85°-W	東壁中央	須恵器坏・鉢	北西隅は撹乱、北東は調査区域外
77H（第91地点）	平安 9c後葉	(2.94)	(3.24)	N-37°-E	—	須恵器坏・鉢・壺	東側調査区域外
78H（第91地点）	平安 9c中葉～後葉	(1.92)	(0.57)	不明	—	土師器鉢、須恵器坏・壺	南西隅のみ調査／大半は調査区域外
79H（第91地点）	平安 9c後葉	2.28	1.80	N-52°-W	北東壁中央	須恵器坏、土師器鉢	西側撹乱、北西隅が調査区域外
80H（第91地点）	平安 9c前葉	(2.28)	(3.90)	N-84°-W	北壁中央／東壁中央	土師器武蔵型鉢、須恵器坏（東金子、鳩山）、ミニチュア土器	西側調査区域外／東壁のカマドの方が新しい
81H（第116①地点）	平安						未報告
82H（第95地点）	古墳～平安 —	(2.50)	(2.10)	不明	—	なし	西側隅のみ検出
83H（第91⑧地点）	平安						未報告
84H（第91⑧地点）	平安						未報告
85H（第102地点）	古墳後期 7c中葉	(5.50)	(3.30)	N-4°-W		土師器坏・鉢・鍋、須恵器鍋・壺、土製品支脚	中世の土坑に壊される
86H（第109地点）	古墳後期 7c中葉	(2.06)	(3.42)	N-64°-E	—	土師器甕・鉢	東側大部分調査区外
87H（第109地点）	平安 9c中葉	4.06	3.88	N-14°-W	北壁中央	須恵器蓋・坏、土師器鉢、硯石	中世の土坑・溝・ピットに切られる
88H（第109地点）	古墳後期 7c前葉	(2.52)	(5.88)	N-56°-E	北東壁中央	土師器坏・鉢・鉢・甑・壺、土製品支脚、ミニチュア土器	貯蔵穴からほぼ完形の土師器鉢・甑が出土
89H（第109地点）	平安 9c後葉	4.30	3.84	N-9°-W	北壁中央	灰釉陶器長頸壺、須恵器蓋・坏、土師器坏・鉢、硯石	中世以降のピットに切られる
90H（第114地点）	古墳後期 6c中葉	(5.90)	(4.50)	N-12°-W	—	土師器坏・高坏・鉢・鍋、桃核	南西隅、南壁周辺のみ検出
91H（第119地点）	古墳後期						未整理
92H（第119地点）	平安						未整理
93H（第116地点）	平安 9c第1～第2四半期	(3.90)	(3.34)	N-1°-E	—	須恵器坏、土師器鍋	中世以降の土坑・ピットに複乱される
94H（第116地点）	古墳後期 7c後葉	(5.00)	(5.00)	N-67°-W	西壁中央	土師器坏・鍋、石製紡錘車	住居西側と貯蔵穴付近から遺物多数出土
95H（第117地点）	古墳後期 6c中葉	(2.17)	(1.80)	N-14°-W	—	土師器坏・鍋	東壁のみ確認
96H（第117地点）	古墳後期 6c後葉	9.69	(7.43)	N-34°-W	北西壁中央	土師器坏・壺・鍋、土玉、鉄製品	住居北半から遺物多数出土
97H（第117地点）	古墳後期 6c前～中葉	5.17	(4.90)	N-23°-W	北壁中央	土師器高坏・坏・鍋・甑、土製品支脚、玉刻片、硯石	貯蔵穴３回造り替え→住居も３回建て替えか
98H（第117地点）	古墳後期 6c中葉	4.64	4.72	N-0°-W	北壁中央	土師器坏・甑・鍋・甑、土製品支脚、編物石、硯石	貯蔵穴２つ検出／遺物多数出土
99H（第117地点）	古墳後期 6c中葉	(4.57)	5.66	N-23°-W	北壁中央	土師器坏・鍋・甑	10Hを切る／南側半分が調査区域外
100H（第117地点）	古墳後期 6c中葉か	(1.27)	(2.00)	N-0°-W	北壁中央	土師器椀・鍋、鉄釘	カマド付近の他は調査区域外
101H（第117地点）	古墳後期 6c中葉か	(0.84)	(0.43)	不明	—	なし	99Hに切られる／北西隅のみ検出され、他は遺構外
102H（第116②地点）	平安						未報告
103H（第121地点）	古墳後期						未報告

第22表　中野遺跡各地点住居一覧（３）

［引用・参考文献］

石井克己・早田　勉・井川達雄　1991『黒井峯遺跡発掘調査報告書』群馬県北群馬郡子持村教育委員会
江口　桂　2016「古代丘陵地の開発と交通路―武蔵・相模国境付近の集落遺跡の検討から―」『日本古代考古学論集』須田　勉編　同成社
大塚昌彦　1996「火山灰下の家屋」『考古学による日本歴史』15家族と住まい　大塚初重他編　雄山閣出版
尾形則敏　1999「いわゆる比企型坏」の編年基準の要点―小地域を対象とした編年の確立に向けて―」『あらかわ』第２号あらかわ考古談話会
2000「志木市における古墳時代の土師器の編年（１）―５世紀から７世紀の坏型土器の変遷―」『あらかわ』第３号あらかわ考古談話会
2001「志木市における古墳時代の土師器の編年（２）―５世紀から７世紀の坏型土器の変遷―」『あらかわ』第４号あらかわ考古談話会
2002「武蔵野台地北西部における古墳時代の地域性―集落を中心とする５世紀から７世紀の土器様相―」『あらかわ』第５号　あらかわ考古談話会
2008「古墳時代後期の土師器研究の再認識―（仮称）「人間系土師器」の実態と生産地推定を例として―」『埼玉考古　43』埼玉考古学会
尾形則敏・深井恵子　2001『埋蔵文化財調査報告書２　中野遺跡第25地点』志木の文化財　第31集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・徳留彰紀・深井恵子・青木　修　2011『志木市遺跡群19　城山遺跡第59地点』志木市の文化財　第45集　埼玉県志木市教育委員会
2012『城山遺跡第62地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財　第48集　埼玉県志木市教育委員会
桐生直彦　2015「竪穴建物と平地建物」『季刊考古学』第131号　雄山閣
鐙持和夫　2000『築道下遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第245集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
黒崎　直　1977「歴史考古学における集落跡と都城研究」『歴史評論』№331　歴史科学協議会
田中広明　1995「関東西部における律令制成立までの土器様相と歴史的動向―群馬・埼玉県を中心として―」東国土器研究　第４号　東国土器研究会
富田和夫　1992『稲荷前遺跡（Ａ区）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第120集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
水口由紀子　1989「いわゆる"比企型坏"の再検討」『東京考古』第７号　東京考古談話会
道上　祥武　2021「古代集落の諸類型―集落研究の現状と方向性」『古代集落の構造と変遷１』第24回古代官衙・集落研究会報告書　奈良文化財研究所研究報告　第30冊　独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所編
若狭　徹　2017『前方後円墳と東国社会』　吉川弘文館

［付 編］

自然科学分析

Ⅰ．放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・黒沼保子

1．はじめに

志木市の中野遺跡第117地点から出土した炭化材３点について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2．試料と方法

試料は、96号住居跡から出土した炭化草本（試料No.5：PLD-46689）と、97号住居跡から出土した炭化材（試料No.8：PLD-46690）、98号住居跡から出土した炭化材（試料No.34：PLD-46691）である。97号住居跡の試料No.8（PLD-46690）と98号住居跡の試料No.34（PLD-46691）は、最終形成年輪が残存しておらず、部位不明であった。調査所見による遺構の推定時期は、古墳時代後期である。

測定試料の情報、調製データは第23表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-46689	遺構：96号住居 遺物No. 炭2 No. 399 試料No. 5	種類：炭化草本（イネ科） 試料の性状：その他 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2mol/L，水酸化ナトリウム：0.1mol/L，塩酸：1.2mol/L）
PLD-46690	遺構：97号住居 遺物No. 炭1 No. 362 試料No. 8	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2mol/L，水酸化ナトリウム：1.0mol/L，塩酸：1.2mol/L）
PLD-46691	遺構：98号住居 遺物No. 炭17 No.316 試料No. 34	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2mol/L，水酸化ナトリウム：1.0mol/L，塩酸：1.2mol/L）

第23表　測定試料および処理

3．結果

第24表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、第56図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.27％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.27％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.45％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-46689 試料No.5	−10.83±0.17	1514±17	1515±15	552–584 cal AD (68.27%)	544–599 cal AD (95.45%)
PLD-46690 試料No.8	−23.54±0.25	1552±19	1550±20	441–450 cal AD (8.66%) 456–459 cal AD (2.20%) 478–496 cal AD (18.24%) 535–564 cal AD (39.16%)	434–467 cal AD (20.76%) 474–520 cal AD (28.37%) 526–574 cal AD (46.32%)
PLD-46691 試料No.34	−27.08±0.25	1569±18	1570±20	436–463 cal AD (26.48%) 476–499 cal AD (24.80%) 511–514 cal AD (2.16%) 532–546 cal AD (14.84%)	432–554 cal AD (95.45%)

第24表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

4．考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち2σ暦年代範囲（確率95.45％）に着目して結果を整理する。

なお、古墳時代の暦年代については赤塚（2009）を参照した。

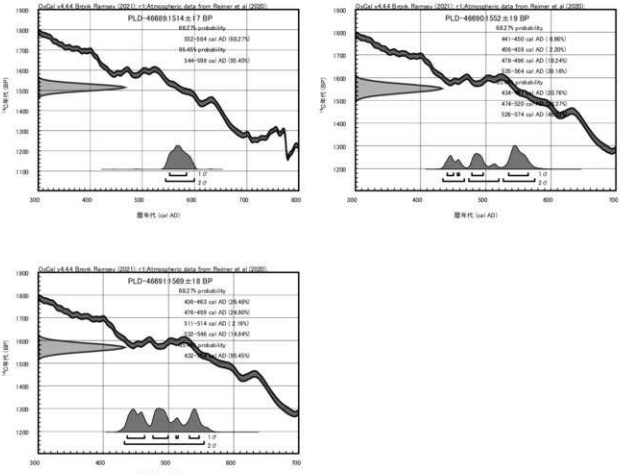
96号住居跡から出土した炭化草本（試料No.5：PLD-46689）は、544-599 cal AD（95.45％）の暦年代範囲を示した。これは、6世紀中頃～末で、古墳時代後期～飛鳥時代に相当する。

97号住居跡から出土した炭化材（試料No.8：PLD-46690）は、434-467 cal AD（20.76％）、474-520 cal AD（28.37％）、526-574 cal AD（46.32％）の暦年代範囲を示した。これは、5世紀前半～6世紀後半で、古墳時代中期～後期に相当する。

98号住居跡から出土した炭化材（試料No.34：PLD-46691）は、432-554 cal AD（95.45％）の暦年代範囲を示した。これは、5世紀前半～6世紀中頃で、古墳時代中期～後期に相当する。

調査所見による遺構の推定時期はいずれも古墳時代後期であり、測定結果は調査所見に対して整合的であった。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。97号住居跡の出土炭化材（試料No.8：PLD-46690）と98号住居跡の出土炭化材（試料No.34：PLD-46691）は、最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。また、96号住居跡出土の炭化草本（試料No.5：PLD-46689）は、草本が伐採もしくは枯死した年代を示している。



第56図　暦年較正結果

［引用・参考文献］

赤塚次郎　2009「弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代」日本文化財科学会第26回大会実行委員会編『日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集』：14-20p　日本文化財科学会

Bronk Ramsey, C.　2009「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates.」『Radiocarbon.』51(1)：337-360p　University of Arizona

中村俊夫　2000「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編『日本先史時代の^{14}C年代』：3-20p　日本第四紀学会

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S　2020「The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP)」『Radiocarbon』62(4)：725-757p
doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41
(cited 12 August 2020)

Ⅱ．中野遺跡第117地点出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

志木市の中野遺跡第117地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2．試料と方法

試料は96号住居跡（96H）と97号住居跡（97H）、98号住居跡（98H）から出土した炭化材24点である。遺構の時期はいずれも古墳時代後期と推測されており、年代測定でも整合的な結果が得られている（放射性炭素年代測定の項参照）。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3．結果

樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）とコナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、樹皮、イネ科草本の4分類群が確認された。結果一覧を第25表、遺構別の樹種同定結果を第26表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（1）コナラ属クヌギ節　***Quercus*** sect. ***Aegilops***

ブナ科　図版23－1a－1c（No.20）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が、単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

樹　種	96H	97H	98H	合　計
コナラ属クヌギ節			7	7
コナラ属コナラ節	2	2	11	15
樹皮			1	1
イネ科草本	1			1
合　計	3	2	19	24

第25表　遺構別の樹種同定結果

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靭で、加工困難である。

（2）コナラ属コナラ節　***Quercus*** sect. ***Prinus***　ブナ科　図版23－2a－2c（No.2）

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。

材は全体的に重硬で、加工困難である。

（3）樹皮　**Bark**　図版23－3a（No.19）

師細胞および師部放射組織からなる二次細胞および周皮で構成される樹皮である。樹皮は対象標本が少なく、同定には至っていない。

（4）イネ科　**Poaceae**　図版23－4a（No.5）

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

4．考察

96号住居跡ではコナラ節とイネ科草本、97号住居跡ではコナラ節、98号住居跡ではクヌギ節とコナラ節、樹皮が確認された。クヌギ節とコナラ節の材は、どちらも重硬で加工困難である（平井　1996）。埼玉県を含む関東地方南部では、古墳時代の住居跡から出土した炭化材にクヌギ節やコナラ節が多く確認されている（伊東・山田編　2012）。今回の分析でも同様の傾向を示しており、周辺地域の木材利用傾向と類似している。

No.	遺構名	遺　物　名	樹　　種	木 取 り	残 存 径	残存年輪数	年代測定番号
2	96H	炭 1　No. 397	コナラ属コナラ節	破片	1.5×3.0cm	36	—
5	96H	炭 2　No. 399	イネ科草本	—	0.3×0.1cm	—	PLD-46689
6	96H	炭 3　No. 400	コナラ属コナラ節	みかん割り状	半径3.2cm	36	—
8	97H	炭 1　No. 362	コナラ属コナラ節	破片	1.2×1.0cm	3	PLD-46690
13	97H	炭 2　No. 364	コナラ属コナラ節	破片	0.5×0.3cm	1	—
18	98H	炭 1　No. 300	コナラ属コナラ節	破片	1.0×0.5cm	3	—
19	98H	炭 2　No. 301	樹皮	—	0.3×0.5cm	—	—
20	98H	炭 3　No. 302	コナラ属クヌギ節	破片	0.5×0.8cm	2	—
21	98H	炭 4　No. 303	コナラ属コナラ節	破片	1.0×2.0cm	24	—
22	98H	炭 5　No. 304	コナラ属クヌギ節	みかん割り状	半径2.0cm	7	—
23	98H	炭 6　No. 305	コナラ属コナラ節	破片	1.2×1.3cm	6	—
24	98H	炭 7　No. 306	コナラ属クヌギ節	破片	1.3×1.0cm	4	—
25	98H	炭 8　No. 307	コナラ属クヌギ節	破片	1.2×1.0cm	4	—
26	98H	炭 9　No. 308	コナラ属クヌギ節	みかん割り状	半径2.5cm	20	—
27	98H	炭10　No. 309	コナラ属コナラ節	破片	1.0×2.3cm	20	—
28	98H	炭11　No. 310	コナラ属コナラ節	破片	1.5×2.0cm	10	—
29	98H	炭12　No. 311	コナラ属コナラ節	破片	1.8×2.2cm	15	—
30	98H	炭13　No. 312	コナラ属コナラ節	破片	1.5×1.0cm	5	—
31	98H	炭14　No. 313	コナラ属コナラ節	破片	2.8×1.6cm	15	—
32	98H	炭15　No. 314	コナラ属コナラ節	破片	0.3×0.7cm	2	—
33	98H	炭16　No. 315	コナラ属コナラ節	破片	1.7×2.5cm	18	—
34	98H	炭17　No. 316	コナラ属クヌギ節	破片	2.5×2.3cm	31	PLD-46691
35	98H	炭18　No. 317	コナラ属クヌギ節	破片	1.0×1.0cm	10	—
37	98H	A区一括	コナラ属コナラ節	破片	1.3×1.8cm	18	—

第26表　樹種同定結果一覧

[引用・参考文献]
平井信二　1996『木の大百科』：394p　朝倉書店
伊東隆夫・山田昌久編　2012『木の考古学―出土木製品用材データベース―』：449p　海青社
伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂　2011『日本有用樹木誌』：238p　海青社

Ⅲ．中野遺跡第117地点から出土した大型植物遺体

バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

1．はじめに

埼玉県志木市の中野遺跡第117地点において、炭化種実が出土した。ここでは、古墳時代後期の住居跡から得られた炭化種実の同定結果を報告し、当時の利用植物について検討した。

2．試料と方法

分析試料は、肉眼で確認・回収された現地取り上げの試料、6試料である。試料は、古墳時代後期の住居跡96H（2H）から採取された1試料と、97H（3H）から採取された2試料、98H（4H）から採取された3試料である。試料は、株式会社中野技術によって採取された。

同定および計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。同定された試料は、志木市教育委員会に保管されている。

3．結果

同定した結果、試料はいずれも木本植物のモモ炭化核であった（第27表）。

以下に、出土した炭化種実について遺構別に記載する。

96H（2H）：モモの破片が1点得られた。

97H（3H）：モモが3点（完形1点、破片2点）得られた。

98H（4H）：モモが4点（完形1点、破片3点）得られた。

以下に、得られた分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠した。

（1）モモ　*Prunus persica* (L.) Batsch　炭化核　バラ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点があり、表面に不規則な深い皺がある。また、片側の側面には縫合線に沿って深い溝が入る。完形の核の大きさは、高さ20.3㎜、幅15.5㎜、厚さ13.2㎜（図版24－1）、高さ19.8㎜、幅16.7㎜、厚さ15.3㎜（図版24－2）、破片の大きさは、残存高17.3㎜、残存幅13.7㎜、残存厚6.1㎜（図版24－3）。

遺構		96H（2H）	97H（3H）		98H（4H）		
	出土位置・層位	炭2 No. 398	No. 361	No. 363	No. 298	No. 299	d区一括
	時期	古墳時代後期					
分類群	採取方法	現地取上げ					
モモ	炭化核（完形）		1				1
	炭化核（破片）	(1)		(2)	(1)	(2)	

第27表　中野遺跡第117地点から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

4．考察

古墳時代後期の住居跡96H（2H）と97H（3H）、98H（4H）から出土した炭化種実を同定した結果、いずれも栽培植物で果樹のモモの炭化核であった。これらのモモ核は、果肉を食べた後に、食用にならない核の部分が捨てられ、燃やされた可能性が考えられる。

[引用文献]
米倉浩司・梶田　忠　2003-『BG Plants 和名―学名インデックス（YList）』 http://ylist.info

図　　版

1．調査前現況（北から）

2．表土剥ぎ（北から）

3．表土剥ぎ（東から）

4．プラン確認

5．旧石器試掘坑ＴＰ１（東から）

6．旧石器試掘坑ＴＰ２（東から）

7．旧石器試掘坑ＴＰ３（西から）

8．旧石器試掘坑ＴＰ４（東から）

図版2

1．645号土坑完掘（北から）

2．95号住居跡完掘（東から）

3．96号住居跡遺物出土状態（北東から）

4．96号住居跡遺物出土状態（北から）

5．96号住居跡遺物出土状態（南から）

6．96号住居跡カマド完掘（南東から）

7．96号住居跡P2完掘（南から）

8．96号住居跡焼土（北から）

1．96号住居跡完掘

2．96号住居跡掘り方完掘（南から）

3．96号住居跡作業風景

4．97号住居跡作業風景

5．97号住居跡遺物出土状態（南から）

6．97号住居跡土層断面（北東から）

7．97号住居跡壁溝遺物出土状態（北から）

8．97号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

図版4

1．97号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

2．97号住居跡カマド完掘（南西から）

3．97号住居跡貯蔵穴Ａ～Ｃ全景（北西から）

4．97号住居跡Ｐ5完掘（南から）

5．97号住居跡完掘（北から）

1．98号住居跡遺物出土状態（南から）

2．98号住居跡貯蔵穴A周辺遺物出土状態(南から)

3．98号住居跡貯蔵穴A完掘（南から）

4．98号住居跡貯蔵穴B完掘（西から）

5．98号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

6．98号住居跡カマド支脚出土状態（南から）

7．98号住居跡P5完掘（西から）

8．98号住居跡掘り方完掘（南から）

図版6

1．99号住居跡遺物出土状態（南から）

2．99号住居跡カマド西遺物出土状態（西から）

3．99号住居跡貯蔵穴周辺遺物出土状態（南から）

4．99号住居跡貯蔵穴南遺物出土状態（西から）

5．99号住居跡P1上面坏出土状態（北西から）

6．99号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

7．99号住居跡カマド西遺物出土状態（南から）

8．99号住居跡カマド完掘（南から）

1．99号住居跡完掘

2．100号住居跡完掘（北から）

3．100号住居跡カマド完掘（南から）

4．101号住居跡完掘（南西から）

5．1号ピット完掘（東から）

1．6号ピット完掘（南から）

2．2号ピット完掘（南から）

3．7号ピット完掘（南から）

4．7号ピット遺物出土状態（南から）

5．3号掘立柱建築遺構完掘（南から）

1．646号土坑完掘（北から）

2．647号土坑完掘（北東から）

3．648号土坑完掘（南西から）

4．649号土坑完掘（西から）

5．650号土坑完掘（西から）

6．651号土坑完掘（南から）

7．3号ピット完掘（西から）

8．4号ピット完掘（北から）

図版10

1．5号ピット完掘（東から）

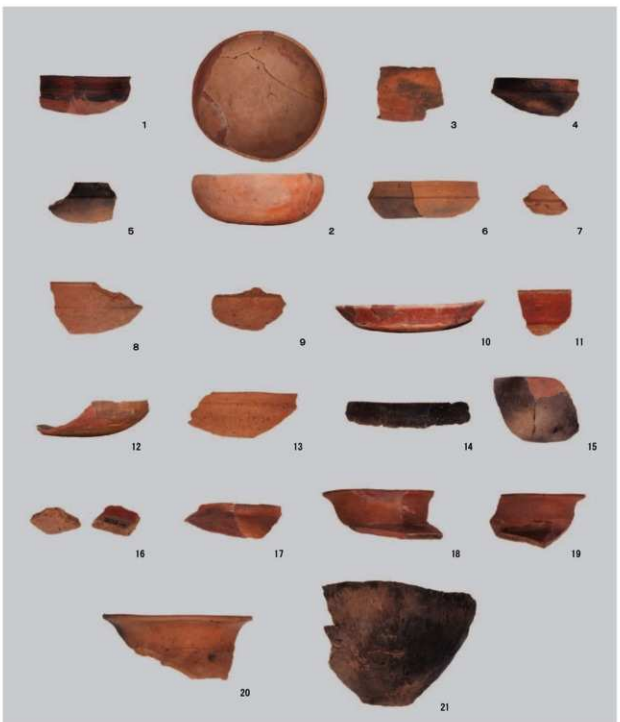
2．学生見学風景

3．調査区遠景

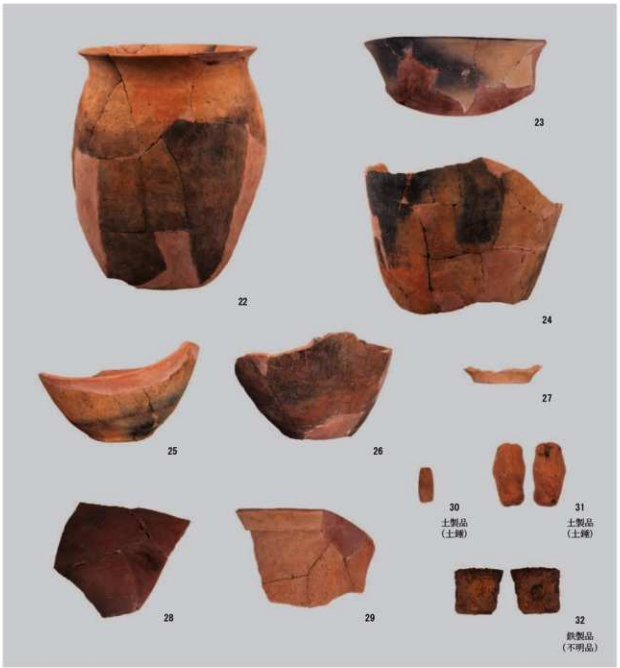
4．埋め戻し風景

5．埋め戻し後全景

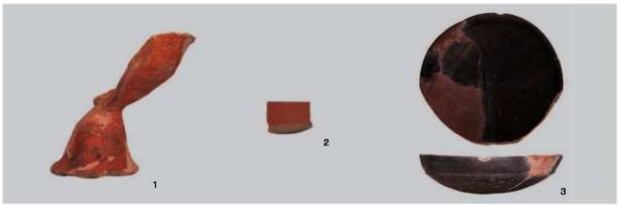
1．95号住居跡出土遺物



2．96号住居跡出土遺物1



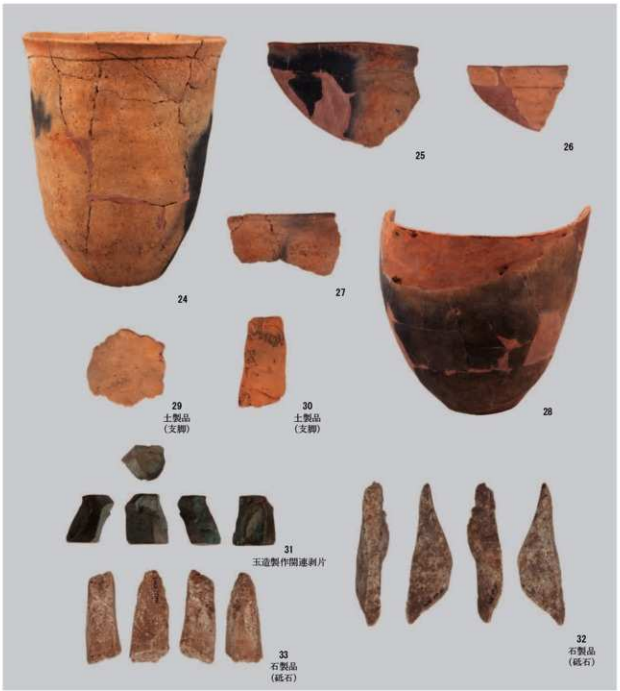
1．96号住居跡出土遺物２



２．97号住居跡出土遺物１

97号住居跡出土遺物２

97号住居跡出土遺物３



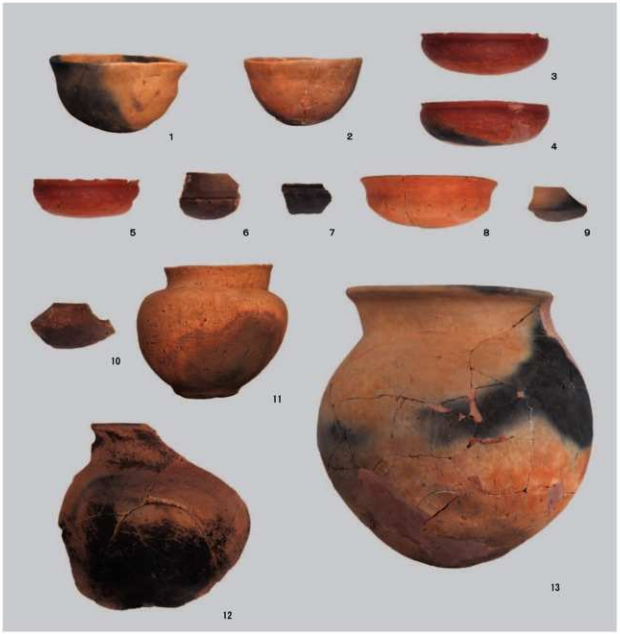
1．97号住居跡出土遺物4

2．98号住居跡出土遺物1

98号住居跡出土遺物２

98号住居跡出土遺物３

1．98号住居跡出土遺物4



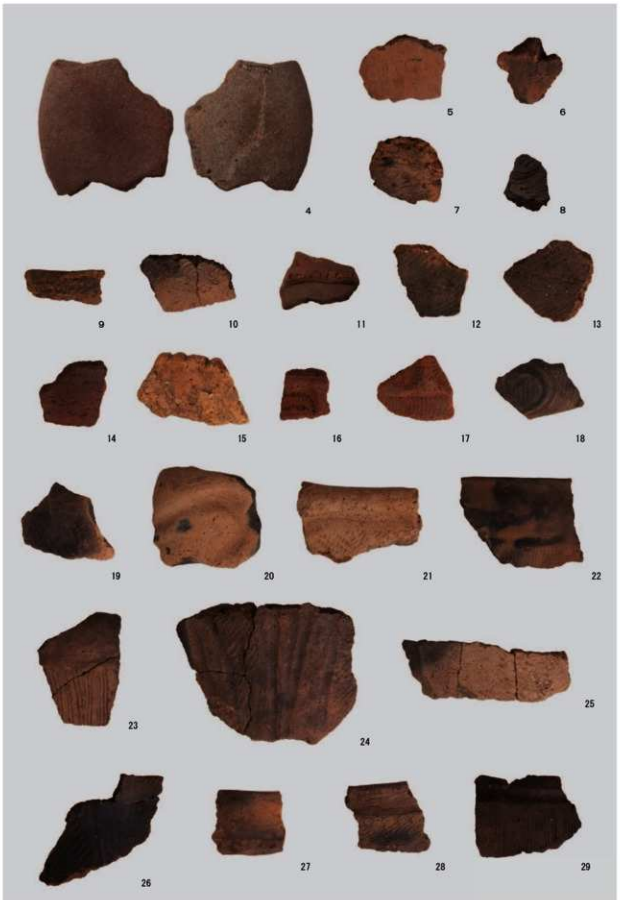
2．99号住居跡出土遺物1

99号住居跡出土遺物２

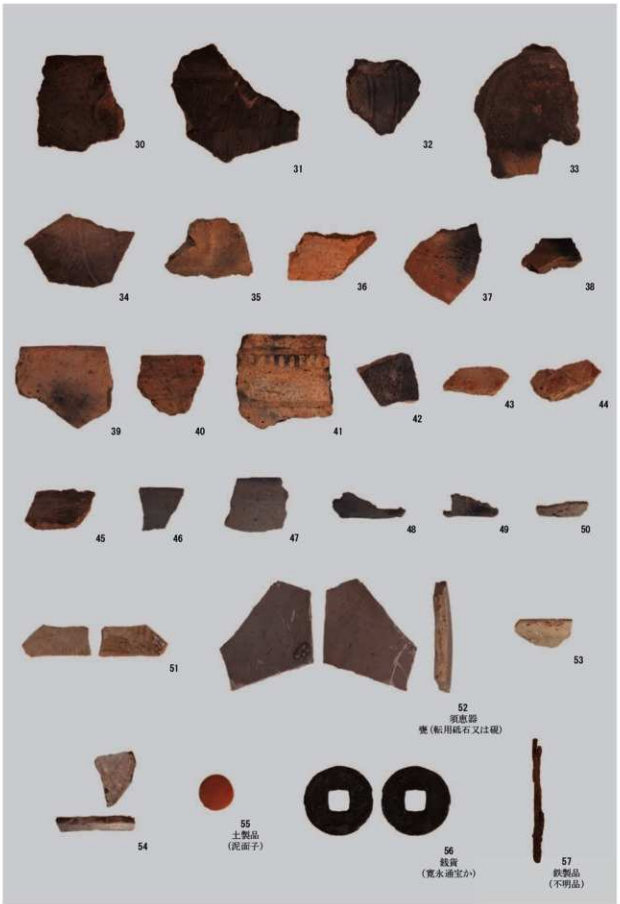
1．100号住居跡出土遺物

2．７号ピット跡出土遺物

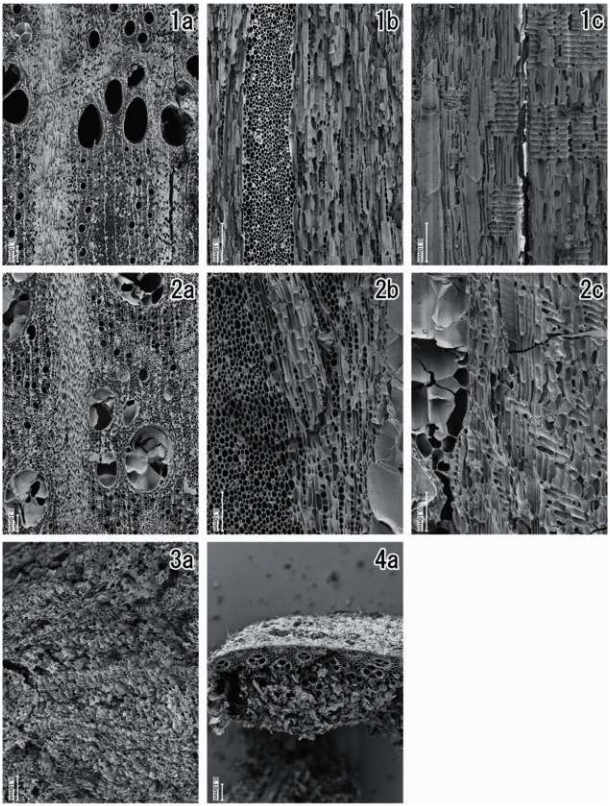
3．遺構外出土遺物１



遺構外出土遺物２


30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
須恵器
甕(転用砥石又は硯)
53
54
55
土製品
(泥面子)
56
銭貨
(寛永通宝か)
57
鉄製品
(不明品)

遺構外出土遺物３



炭化材の走査型電子顕微鏡写真
1a－1c．コナラ属クヌギ節（No.20）
2a－2c．コナラ属コナラ節（No.2）
3a．樹皮（No.19）
4a．イネ科（No.5）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

中野遺跡第117地点から出土した炭化種実
1．モモ炭化核（完形）（98H（4H）、d区一括）
2．モモ炭化核（完形）（97H（3H）、No.361）
3．モモ炭化核（破片）（96H（2H）、炭2No.398）

報告書抄録

ふりがな	なかのいせきだい117ちてん　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	中野遺跡第117地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第88集
編著者名	尾形則敏　徳留彰紀　大久保聡　木村結香　小林陽子　清水理史
編集機関	埼玉県志木市教育委員会
所在地	〒353-0002　埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　　TEL 048（473）1111
発行年月日	令和4（2022）年10月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡（全体面積）	調査原因
中野遺跡（なかのいせき）（第117地点）	志木市柏町1丁目1506-5の一部（しきしかしわちょう）	11228	09-002	35°83′28″	139°56′97″	20210727～20211008	233.58（998.29）	分譲住宅建設に伴う道路新設工事及び浸透トレンチ工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中野遺跡（第117地点）	集落跡・墓跡	縄文時代 古墳時代後期 中世以降	土坑　1基 住居跡　7軒 ピット　4本 掘立柱建築遺構　1棟 土坑　6基 ピット　3本	土師器・土製品・石製品・鉄製品 土師器	古墳時代後期の6世紀代に位置づけられる住居跡7軒がまとまって検出され、当該期の土器が多数出土した。

要約

中野遺跡は、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代前～後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡である。今回の第117地点では、縄文時代の土坑、古墳時代後期の住居跡・ピット、中世以降の掘立柱建築遺構・土坑・ピットが検出された。

志木市の文化財　第88集

中野遺跡第117地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市教育委員会
　　埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号
発行日　令和４(2022)年10月31日
印　刷　有限会社平電子印刷所